

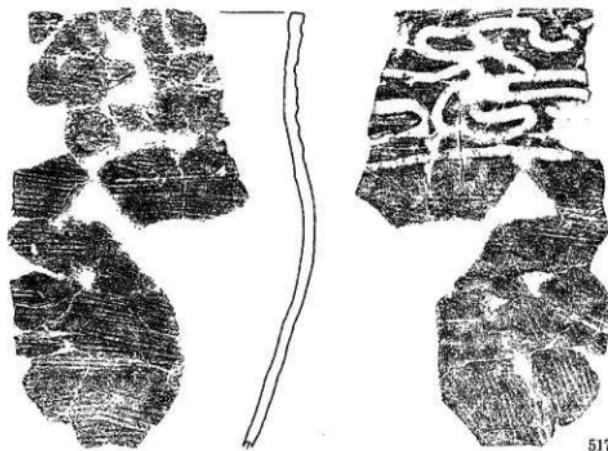
第91図 21号竪穴 (1/60)

#### 21号竪穴 (第91・92図)

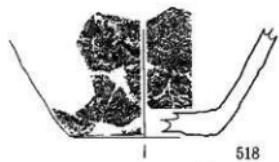
52-23区南東端で検出された。楕円形とも陽丸の長方形とも見て取れる形状を呈する。長径4.2m、短径3.0m、検出面からの深さは約15cm程度である。覆土は黒褐色を呈し、アカホヤブロックが混入する。柱穴は明確にし得ない。

床面中央部より1個体分の上器片が出土している。517がそれで、外面上部に凹線による曲線文を描く。地文として貝殻条痕が施される。

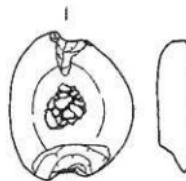
519は砂岩製の石錘で、表面中央部に敲打痕が認められる。



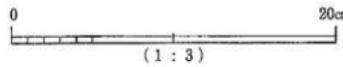
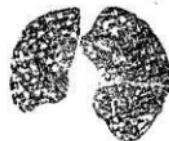
517



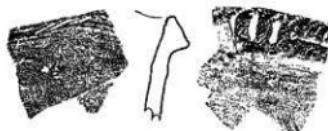
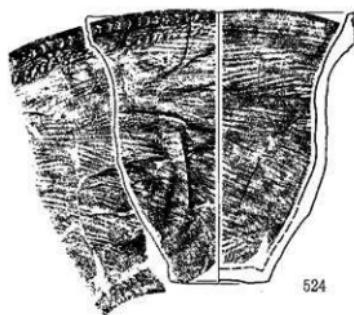
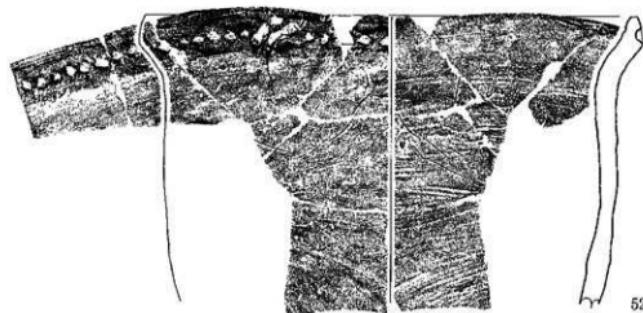
518



519

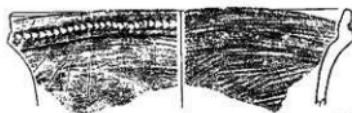


第92図 21号竪穴出土遺物 (1/3)



0 10cm  
(1 : 3)

第93図 22号竪穴出土遺物 (1) (1 / 3)



526



527



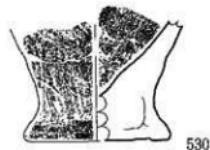
528



529



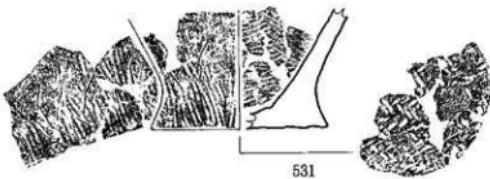
532



530



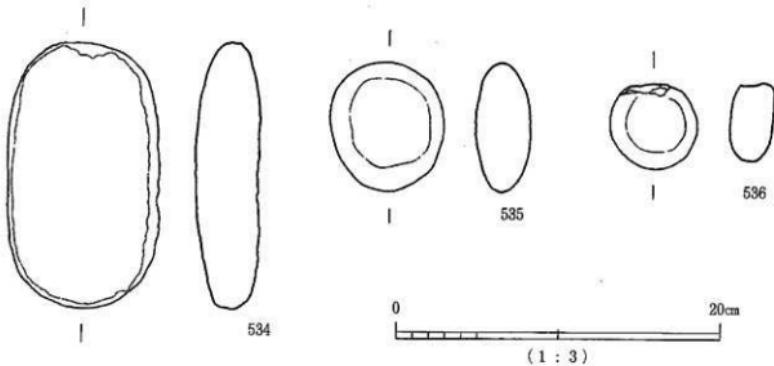
533



531



第94図 22号竪穴出土遺物 (2) (1 / 3)



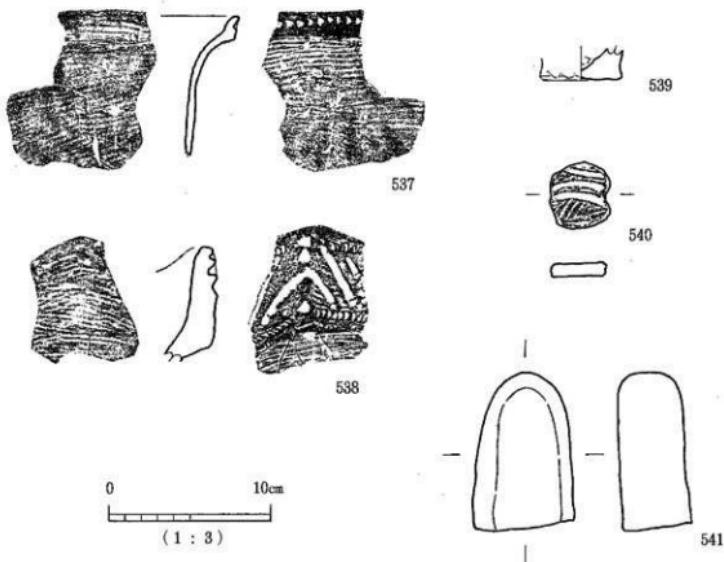
第95図 22号竪穴出土遺物 (3) (1/3)

22号竪穴（別図1右・第93・94図）

22号竪穴としたものは、近世の遺構が密集する37-22区にある。検出時は、1基のオリーブ褐色土を埋土とする凹部と捉えられたが、実体としては2ないし3基の竪穴、土坑の重なり合ったものと考えられる。ただし調査段階での遺物取り上げの際には、全て「22号竪穴出土」としたため、第93・94図の遺物は、当然、ある時期幅を有する一群ということになる。

520と521は、2本単位の沈線による区画を形成するもの。522は口縁部外面に加えて内面にも文様（日輪モチーフ）を施す。523は口縁部を短く屈曲させ、外面を文様帶とする。526もやや口縁部がのびるが、同様のものであろう。524は、完形の個体で、口縁部断面が三角形をなす、市来式の典型例である。525も口縁部を肥厚させ、貝殻腹縁圧痕文を施すが、付された密な圧痕文が、多少なりとも縄文を意識して似せているように感じられる。528は貝殻条痕のみ器面に残る無文土器。531と532は、底面に編物圧痕が残る。533は土器片錐。

534と535は砂岩製の磨石。536は円碟の一方の方向のみを打ち欠いているもので、石錐の可能性があるが、断定はできない。



第96図 23号竪穴出土遺物 (1) (1/3)

#### 23号竪穴（別図1右・第96・97図）

22号竪穴の東に位置する。円形の竪穴と考えられる。北側は落ち際が不明瞭となる。径は東西方向で4.2m、検出面からの深さは約10cm程度である。床面中央部に深さ約30cmの楕円形の土坑がある。

南側にも円形の竪穴と見られる造構があり、やはり床面中央部に土坑を有する。

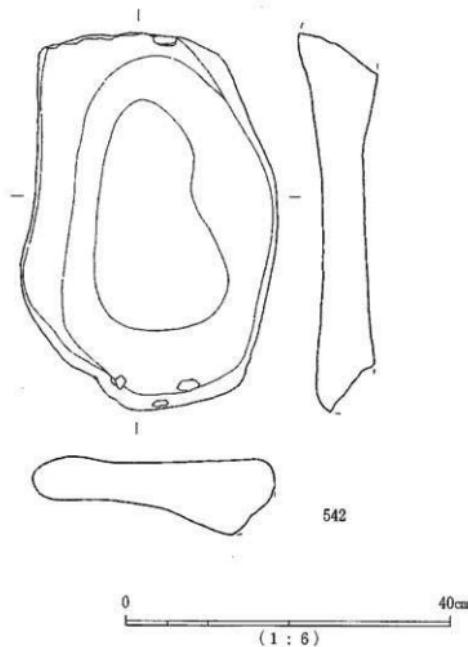
出土土器は全て小破片である。537、538の両者とともに、基本的には口縁部を屈曲させ、その外面を文様帯とするものである。541は砂岩製の敲石。542は石皿で、中央部の土坑の近くで出土している。ただし床面からは若干浮いた位置にあった。

#### 24号竪穴（別図2右・第98図）

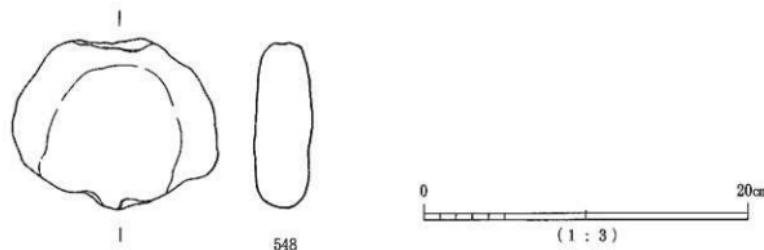
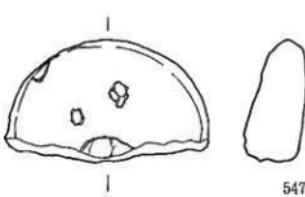
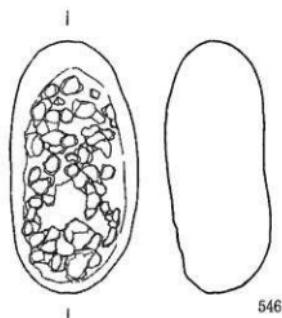
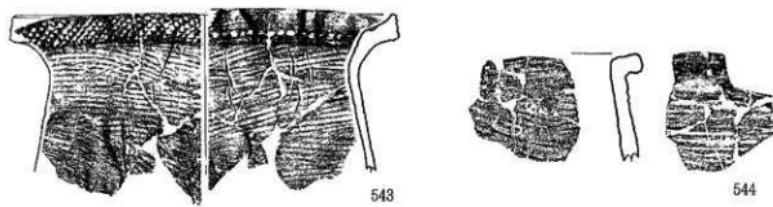
39-22区で検出された円形の竪穴である。径は2.8mと小振りである。覆土はIc層に似たオリーブ褐色で、アカホヤのブロックやバミス、炭化物を含む。床面中央部に楕円形の土坑があり、さらにその中央にピットが存在する。また壁面近くにもいくつかのピットがある。ただし北東のそれは深さ10cm強で、やや浅い。

遺物は全て覆土上位で出土している。543は外反する口縁部の端部に、密な貝殻腹縁圧痕文を施す他、内面にも連点文を施す。544は、より強く口縁部を屈曲させる。

546は砂岩製の敲石で、頭部の擦過痕の他、表面に敲打痕が見られる。



第97図 23号竪穴出土遺物 (2) (1/3)



第98図 24号竪穴出土遺物 (1 / 3)

#### 25号竪穴（別図2右・別図4・第99図）

39-23杭付近で検出された。方形基調の竪穴で、中央に台形状の土坑を有する形状のもの。南は26号竪穴と、西は31号竪穴と切り合っている。判明する一辺長は約5.0m、中央の土坑は $4.4 \times 3.2$ m、中央の土坑のさらに中心部には、1基のピットがある。

規模に比して出土遺物は少ない。549は沈線間に貝殻原体の圧痕による連点文を施すもので、胎土、調整は在土器と変わることはないが、器形も含めて磨消縄文系土器の影響を感じさせる個体である。550は（おそらくわずかに内湾する）口縁部の肥厚帯付近の破片で、全容は判らないが、沈線による菱形、三角形モチーフの文様を描くと見られる。551は口縁部に三角突帯状の肥厚帯を設けるもので、文様帶のみではなく、口唇部にも連点文を施す。552は2本単位の沈線間に疑似縄文状に貝殻腹縁圧痕文を施す。553・554は底部片で、底面に縦物圧痕が残る。

#### 26号竪穴（別図2右・別図4・第100図）

円形基調の竪穴と見られる。あまり明瞭ではないが、25号竪穴を切るのであろう。径は3.5m、検出面からの深さは約10cm程度である。やはり中央部に長方形の土坑（床面からの深さ約25cm）がある。

図化可能な遺物は2点のみである。556は外・内面に貼り付け突帯を付し、連点文を施すもの。

#### 27号竪穴（別図4・第101図）

26号竪穴の南東に位置する、おそらく方形と見られる竪穴。28号竪穴と切り合う。判明する一辺長約2.5mで、小形の部類に属する。

出土遺物は口縁部小破片の558などごく少量であった。

#### 28号竪穴（別図4・第102-103図）

一見、円形基調の竪穴のようであるが、北東側が角張っていることや、中央部の土坑が方形であることから岩下の疑念も残る。中央部の土坑は $2.6 \times 2.3$ mの大きなもので、四隅にピットが認められる。また中心には2段握りになるピットがある。覆土はオリーブ褐色を呈し、パミス、炭化物を含む。

560は類例より、鉢形を呈する個体の一部と考えられる。胴部の張り出し部位に、短沈線文を施す。561と563は沈線による区画を施すもの。561には連点文も付される。562は口唇部を文様帶とする個体で、沈線文や連点文を施す。564は市来式に属するもの。565は一見無文であるが、口唇部に凹点や沈線（？）が認められる。568と569は土器片錐。同型式の土器を素材にしている。570は両凸刃の打製石斧で、若干摩滅している。

#### 29号竪穴（別図4・第104図）

28号竪穴の南にある。梢円形を呈する竪穴で、検出時は判然としなかったが、その形状から、2基の竪穴が重なり合っている可能性が大きい。仮に円形の竪穴2基と見た場合、西側の竪穴の床面中央部に土坑が存在することになる。覆土の特徴は28号竪穴に似る。

出土遺物の中では、571が比較的まとまるもので、床面やや上位のレベルより出土している。沈線による区画を施す。572は市来式の口縁部小破片。573は砂岩製の磨石である。

#### 30号竪穴（別図4・第105図）

40-24杭の東で検出されたやや不整な円形竪穴。特に東側は凹凸が目立つ。床面には中央に円形のピットがある。覆土の特徴は28号竪穴のそれとは同じである。

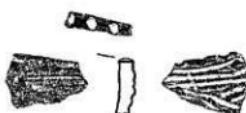
遺物は図化した2点（574・575）を含めて、全て土器の小破片である。



549



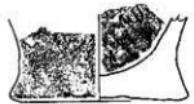
551



550



552



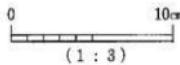
553



554



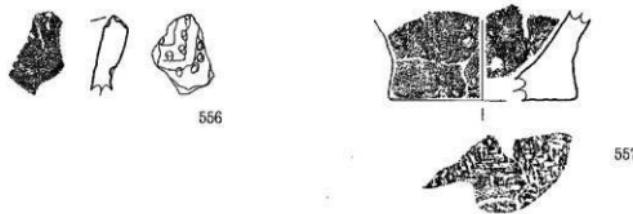
555



第99図 25号竪穴出土遺物 (1/3)

## 3 1号竪穴 (別図2右・第106・107図)

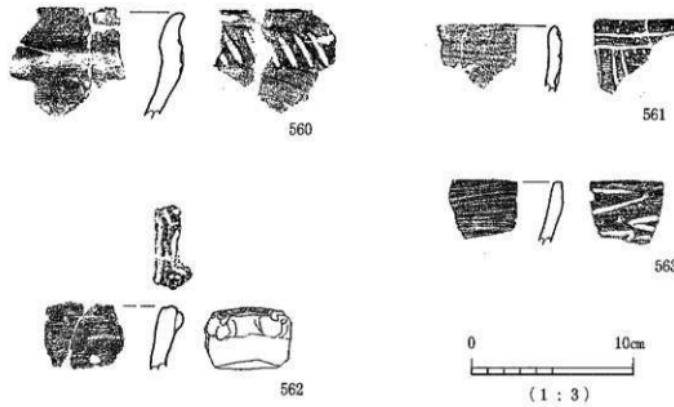
前述の25号竪穴と重なるが、先後関係は不明。また平面形も橢円形のように見受けられるが、北側は直線を成しており、これも確実なところは明らかにはできない。床面は中央部に円形の土坑を有する。またその東側にも土坑があり、そこから土器が4個体出土している(579~582)。覆土はオリーブ褐色を呈し、バミス、炭化物を若干含む。



第100図 26号竪穴出土遺物 (1/3)



第101図 27号竪穴出土遺物 (1/3)



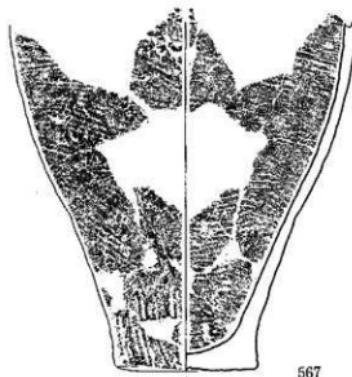
第102図 28号竪穴出土遺物 (1) (1/3)



564



565



567



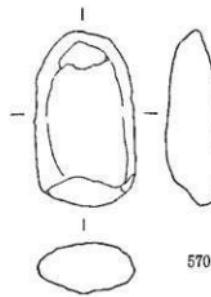
566



568



569

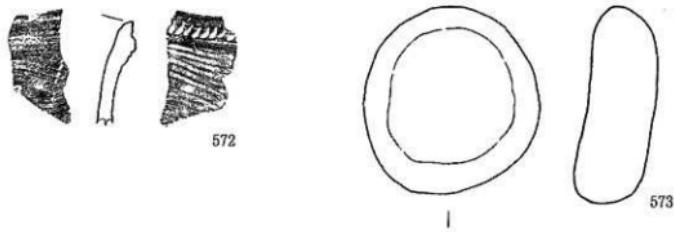


570

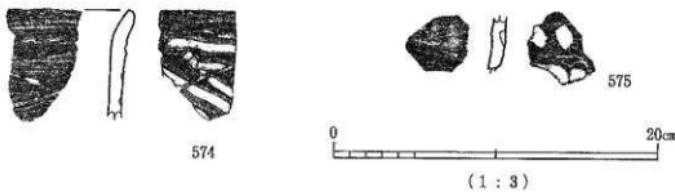
0 10cm

(1 : 3)

第103図 28号竪穴出土遺物 (2) (1/3)



第104図 29号竪穴出土遺物 (2) (1/3)



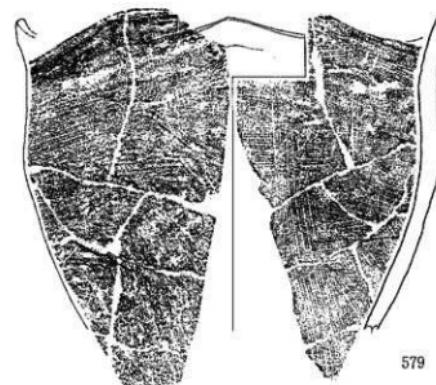
第105図 30号竪穴出土遺物 (1/3)



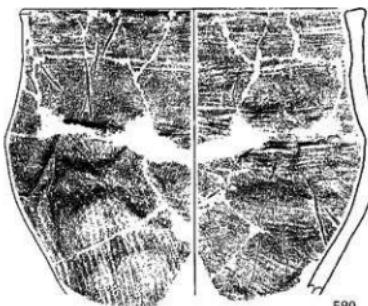
577



578



579

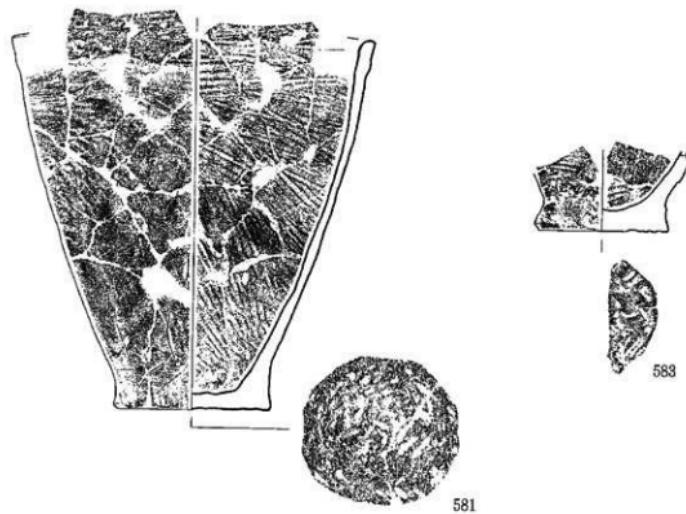


580



(1 : 3)

第106図 31号竪穴出土遺物 (1) (1 / 3)



第107図 31号竪穴出土遺物 (2) (1/3)

第13表 出土器物観察表 (5)

遺物 番号	種別	基 盤 位	出 土 地 点	法 量(cm)	手法・模様・文様ほか				色 調	計 上 の 特 徴	情 考	
					口 径	底 径	高 さ	外 面	内 面	外 面	内 面	
511	縄文	深鉢 口縁	SA20					押引文	ナデ	に赤い背景 に黒い模様	明赤褐色 明赤褐色	3mm以下の灰褐色、赤褐色、黑色光沢付着
512	縄文	深鉢 底部	SA20	8.0				貝殻条痕		無	無	1mm以下の灰褐色、赤褐色、光沢付着
513	縄文	深鉢 底部	SA20	8.1				貝殻条痕	ナデ	無	無	2mm以下の灰褐色、赤褐色の粒
517	縄文	口縁～制御下	SA21					凹縞文		無	無	1mm以下の灰白色、透明光沢付着
518	縄文	深鉢 底部	SA21	(9.1)				貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	に赤い模 様	無	2mm以下の乳白色、白色、黑色、透明光沢付着
520	縄文	口縁～制御	SA22	(20.4)				凹縞文	貝殻条痕	に赤い背景	無	3mm以下の灰褐色、乳白色の粒
521	縄文	深鉢 口縁	SA22					沈線文		無	無	無
522	縄文	口縁	SA22					貝殻条痕、ナデ	明黄褐色	明黄褐色	1.5mm以下の灰白色、灰、赤褐色、黄褐色、白色、透明光沢付着	
523	縄文	口縁～制御	SA22	(30.3)				貝殻覆面压痕文 短辺縞文、凹凸文	剥突文	無	無	1mm以下の灰白色、透明白光沢付着
524	縄文	口縁～底部	SA22	16.40	5.9	16.15		貝殻条痕	明赤褐色	明赤褐色	2mm以下の灰褐色、透明光沢付着	黒斑
525	縄文	深鉢 口縁	SA22					貝殻覆面压痕文 沈線文	貝殻条痕、ナデ	無	無	1mm以下の灰白色、赤褐色、透明光沢付着
526	縄文	深鉢 口縁	SA22	(20.4)				爪形文	貝殻条痕	に赤い背景 黒褐色	無	0.5mm以下の灰白色、灰褐色、黑色光沢付着
527	縄文	深鉢 口縁	SA22					逆立点	貝殻条痕	無	無	1mm以下の灰褐色、透明光沢付着
528	縄文	口縁～制御	SA22	(31.0)				貝殻条痕	貝殻条痕、ナデ	無	無	2mm以下の灰白色、透明光沢付着
529	縄文	深鉢 底部	SA22		10.1			貝殻条痕、ナデ	ナデ	無	無	7mm以下の灰褐色、乳白色、透明、黑色光沢付着
530	縄文	深鉢 底部	SA22		(8.8)			貝殻条痕、ナデ	ナデ	に赤い背景 黒褐色	浅黄褐色	3mm以下の灰白色の粒
531	縄文	深鉢 底部	SA22		(10.8)			貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕	無	浅黄褐色	黒褐色光沢付着
532	縄文	深鉢 底部	SA22		10.4			貝殻条痕	貝殻条痕	明黄褐色	浅黄褐色	2mm以下の灰白色、黑色光沢付着
533	縄文	土器片縫	SA22					貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	に赤い模 様	無	0.5mm以下の灰白色、光沢付着
537	縄文	深鉢 口縁	SA23					貝殻版縫印痕文	貝殻条痕	明赤褐色	明赤褐色	0.5mm以下の透明光沢付着
538	縄文	深鉢 口縁	SA23					貝殻版縫印痕文 短辺縞文	貝殻条痕	無	無	1mm以下の灰褐色、褐色、透明光沢付着
539	縄文	深鉢 底部	SA23		5.35			ナデ	ナデ	灰褐色	灰褐色	1mm以下の灰褐色、褐色、透明光沢付着
540	縄文	土器片縫	SA23					貝殻条痕、沈線文	貝殻条痕	無	無	0.5mm以下の褐色、透明、黑色光沢付着
543	縄文	口縁～明赤	SA24	(23.6)				貝殻版縫印痕文 逆立点	無	に赤い模 様	無	2mm以下の灰褐色、黑色光沢付着
544	縄文	深鉢 口縁	SA24					貝殻条痕	貝殻条痕	に赤い背景 無	無	0.5mm以下の灰褐色、乳白色、透明、黑色光沢付着
545	縄文	深鉢 底部	SA24		(10.0)			貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	浅黄褐色	無	3mm以下の灰褐色、透明、半透明、黑色光沢付着
549	縄文	深鉢 口縁	SA25					逆立点、沈線文	貝殻条痕、ナデ	に赤い模 様	無	6mm以下の灰褐色、褐色、黑色光沢付着
550	縄文	深鉢 口縁	SA25					沈線文	貝殻条痕、ナデ	褐色	無	2mm以下の灰褐色、褐色、透明光沢付着
551	縄文	深鉢 口縁	SA25					逆立点、沈線文	貝殻条痕、ナデ	に赤い背景 無	無	5mm以下の褐色、灰褐色、透明光沢付着
552	縄文	深鉢 底部	SA25					貝殻版縫印痕文 沈線文	貝殻条痕、ナデ	に赤い背景 無	無	2mm以下の灰褐色、黑色、黑色光沢付着
553	縄文	深鉢 底部	SA25	11.0				貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	明黄褐色 に赤い背景	明黄褐色 に赤い背景	3mm以下の灰褐色、灰褐色、白、茶褐色、透明光沢付着
554	縄文	深鉢 底部	SA25		(8.4)			貝殻条痕、ナデ	ナデ	に赤い背景 無	無	2mm以下の灰褐色、白、乳白色、灰褐色、透明光沢付着
555	縄文	深鉢 底部	SA25	6.0				貝殻条痕、ナデ	ナデ	に赤い背景 無	明赤褐色	2mm以下の灰白色、黑、淡黄色、黑色光沢付着
556	縄文	深鉢 口縁	SA25					逆立点	ナデ	に赤い背景 無	明赤褐色	2mm以下の灰白色、黑、黑色の粒
557	縄文	深鉢 底部	SA26		(11.4)			貝殻条痕、ナデ	ナデ	無	明赤褐色	1mm以下の灰白色、黑、白色、透明光沢付着
558	縄文	深鉢 口縁	SA27					沈線文	ヨコナデ	無	無	2mm以下の灰白色、黑色光沢付着

第14表 出土土器観察表 (6)

遺物 番号	器種 別	基 準 位 置	山土 地 点	法 並 (cm)		手形・調査・文様等の 外 面		内 面		色 調		施 土 の 特 徴	備 考	
				II 径	並 高	外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	内 面			
559	縦文	深鉢 底部	SA27		(10.5)	貝殻条痕	ナデ	浅黄	浅黄 に赤い斑	3mm以下の褐、乳白、黒色の粒	褐色	褐色 に赤い斑	3mm以下の褐、乳黄、黒色の粒	褐色斑
560	縦文	深鉢 口縁	SA28			短沈縦文	ナデ			褐色	褐色 に赤い斑	2mm以下の褐、淡黄、黒色の粒		
561	縦文	深鉢 口縁	SA28			沈縦文、迷点文	貝殻条痕	浅黄	浅黄	1mm以下の乳白色の粒				點付実芯
562	縦文	深鉢 口縁	SA28			沈縦文、迷点文	貝殻条痕	に赤い斑	明赤褐	1mm以下の灰白色の粒				
563	縦文	深鉢 口縁	SA28			沈縦文	貝殻条痕	に赤い斑	に赤い斑	1mm以下の乳白色の粒				
564	縦文	深鉢 口縁	SA28			貝殻条痕	ナデ	に赤い斑	に赤い斑	2mm以下の茶、淡黄色、透明光沢				
565	縦文	深鉢 口縁	SA28			沈縦文、迷点文	貝殻条痕	褐色	褐色	1mm以下の白色、透明光沢				
566	縦文	深鉢 口縁	SA28			ナデ	日コナデ	褐色	褐色 に赤い斑	1mm以下の白色、透明、黒色光沢				
567	縦文	深鉢 開口部～底部	SA28	8.65		貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	灰黄 黄灰	灰黄 黄灰	2mm以下の赤茶、灰褐色、透明、黒色光沢				褐色斑
568	縦文	土器片	SA28			迷点文、沈縦文	貝殻条痕	に赤い斑	に赤い斑	0.5mm以下の乳白、透明、黑色光沢				
569	縦文	土器片	SA28			迷点文、沈縦文	ナデ	褐色	褐色 に赤い斑	1.5mm以下の灰、透明、黑色光沢				
571	縦文	深鉢 口縁下	SA29 (35.6)			沈縦文、迷点文	貝殻条痕、ナデ	に赤い斑	明赤褐	2mm以下の淡黄色の粒				
572	縦文	深鉢 口縁	SA29			爪形文	貝殻条痕、ナデ	褐色	褐色 に赤い斑	1mm以下の乳白、黒色、透明光沢				
574	縦文	深鉢 口縁	SA30			凹縫文	貝殻条痕	灰褐色	に赤い斑	1mm以下の灰白、灰褐色、黑色、スズ付茎				
575	縦文	深鉢 口縁	SA30			凹点文	ナデ	に赤い斑	に赤い斑	2mm以下の赤茶、乳白色、黑色透				
576	縦文	深鉢 口縁	SA31			迷点文、沈縦文	迷点文、ナデ	に赤い斑	に赤い斑	3mm以下の赤茶、半透明、黑色光沢				穴起
577	縦文	深鉢 口縁	SA31			ナデ	短沈縦文、迷点文	に赤い斑	に赤い斑	2mm以下の茶、黑色、半透明光沢				スズ付茎
578	縦文	深鉢 口縁	SA31			ナデ	迷点文	に赤い斑	に赤い斑	2mm以下の乳白、透明、半透明、黑色光沢				
579	縦文	深鉢 口縁下	SA31 (26.05)			貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕	明黄褐	明黄褐	7mmの大茶色の粒、3mm以下の乳白、黄色、黑色、透明光沢				スズ付茎
580	縦文	深鉢 口縁下	SA31 (23.60)			貝殻条痕	貝殻条痕	に赤い斑	に赤い斑	4mm以下の乳白、黑色の粒				スズ付茎
581	縦文	口縁～底部	SA31 (21.4) (22.6)	9.6		貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕	に赤い斑	に赤い斑	4mm以下の淡黄、乳白色、透明光沢				化物斑
582	縦文	口縁～底部	SA31	11.6		貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕	に赤い斑	に赤い斑	4mm以下の暗赤褐色、乳白、黑色光沢				褐色斑
583	縦文	深鉢 底部	SA31	7.9		貝殻条痕、ナデ	ナデ	に赤い斑	に赤い斑	4mm以下の乳白、黑色光沢				褐色斑

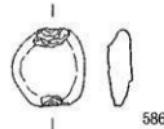
第15表 出土土器計測表 (3)

遺物 番号	出 土 地 点	器 種	最大長 (cm)		最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
			II 径	並 高					
507	スクリュー	SA17	6.55	5.80	0.90	37.2		頁岩	
508	スクリュー	SA17	5.90	4.30	1.10	26.0	*		
509	磨石	SA17	9.95	8.40	57.0	602.3		砂岩	
510	石鍬	SA17	6.00	4.90	1.85	64.5	*		
514	磨石	SA20	10.00	8.80	2.90	338.3	*		
515	石鍬	SA20	12.00	7.75	3.00	396.7	*		
516	石鍬	SA20	6.60	4.90	1.70	70.9	*		
519	石鍬	SA21	9.05	7.60	2.10	203.1	*		
534	磨石	SA22	16.10	9.35	3.80	857.6	*		

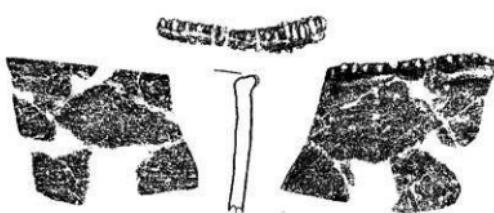
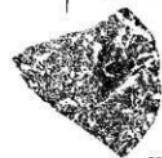
遺物 番号	出 土 地 点	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
535	磨石	SA22	7.85	7.00	3.40	268.2	砂岩	
536	石鍬?	SA22	(5.20)	5.35	2.70	100.8	*	
541	敷石	SA23	(9.60)	6.20	4.10	289.1	*	
542	石皿	SA23	46.30	31.20	9.60	17.5kg	*	
546	敲石	SA24	15.40	7.90	6.45	1,138kg	*	
547	磨石	SA24	(7.50)	(12.50)	(3.50)	398.5	*	
548	石鍬	SA24	(7.70)	(9.15)	2.70	200.3	凝灰岩	
570	石斧	SA28	10.70	6.20	3.30	310.1	頁岩	
573	磨石	SA29	11.50	10.85	4.10	799.5	砂岩	



第108図 32号竪穴出土遺物 (1/3)



第109図 33号竪穴出土遺物 (1/3)



0 10cm  
(1 : 3)

588

第110図 34号竪穴出土遺物 (1/3)

576は貼り付けによる突起を有する波状口縁頂部で、内面にも短沈線文、凹点文を施す。577と578は口縁部内面に連点文や短沈線文を施すもの。579と581は口縁部をわずかに肥厚させる無文土器。また580は口唇部を拡張させているが、ごくわずかで、文様も付されない。

### 3 2号竪穴（別図2右・第108図）

31号竪穴の南東、26号竪穴の南西に位置する。整った円形を呈し、床面中央部にこれも整った方形の土坑がある。径は3.2~3.5m、南北に深さ約25cmのピットがあるが、これが主柱穴であろうか。

出土遺物は少ない。584は口縁部をわずかに肥厚させ、そこに突帶を付すものである。また同は掲載していないが、中央部の土坑近くから石皿が出土している。

### 3 3号竪穴（別図3右・第109図）

41-23坑の南側で検出された。不整な円形竪穴と見られるが、やや角張っているようにも見受けられる。径は南北方向で3.0m、東西方向で3.4m。中央部に土坑があるが、その床面には約15cm程の段差がある。床面に数基のピットがある。覆土は褐色を呈し、バミス、炭化物を含む。

出土遺物はごく少量である。585は口縁部片で、網目撚糸文と沈線文が付される。586は砂岩製の石錐である。

### 3 4号竪穴（別図3右・第110図）

42-23区にある方形竪穴。一辺長は3.0m。床面中央部にピットを有する。他にもいくつかのピットが見られるが、構造は明らかにできない。覆土はオリーブ褐色を呈する。

遺物はほとんどが土器の小破片である。587の小形深鉢のみは比較的の遺存度が高い。削り出しにより口縁部の肥厚帯を作出する。無文土器で、外面には粗い工具ナデの痕跡が残る。588は口唇部を拡張させ、そこに沈線文、連点文を施す。器外表面および内面は無文となる。589は底部片で、底面に粗い調整痕が残る。

### 3 5号竪穴（別図4・第111図）

38-25区で検出された方形竪穴。北東辺は近世土坑（墓壙か）構築の影響を受ける。一辺長は4.2~4.5mを測る。床面中央やや南東寄りのところに2.0×1.6mの楕円形の土坑があり、その長軸上両端部に2基のピットが存在する。土坑の床面には小さなピットが多数見られる。またその土坑の短軸側両落ち際にもピットが各1基あり、さらに北側には不整形の落ち込みが認められる。

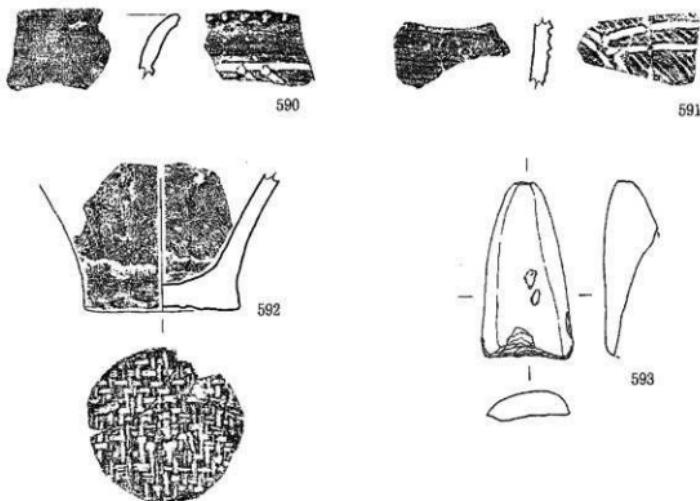
出土遺物は規模に比して少ない。590と591は沈線による区画を施すもの。591は地文の貝殻条痕が明瞭に残る。592は底部片で、圧痕が明瞭に残る。

593は磨製石斧で、刃部から基部にかけての部位を欠く。

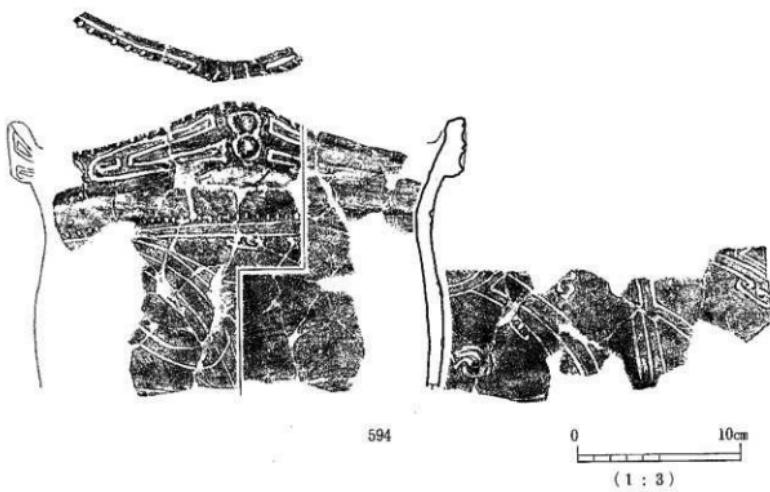
### 3 6号竪穴（別図4・第112-113図）

38-24区にある。円形の竪穴と見られるが、北および南側は近世の小穴群の、中央付近は3号溝開削の影響を受け、形状が判別し難くなっている。径は東西方向で3.7mを測る。

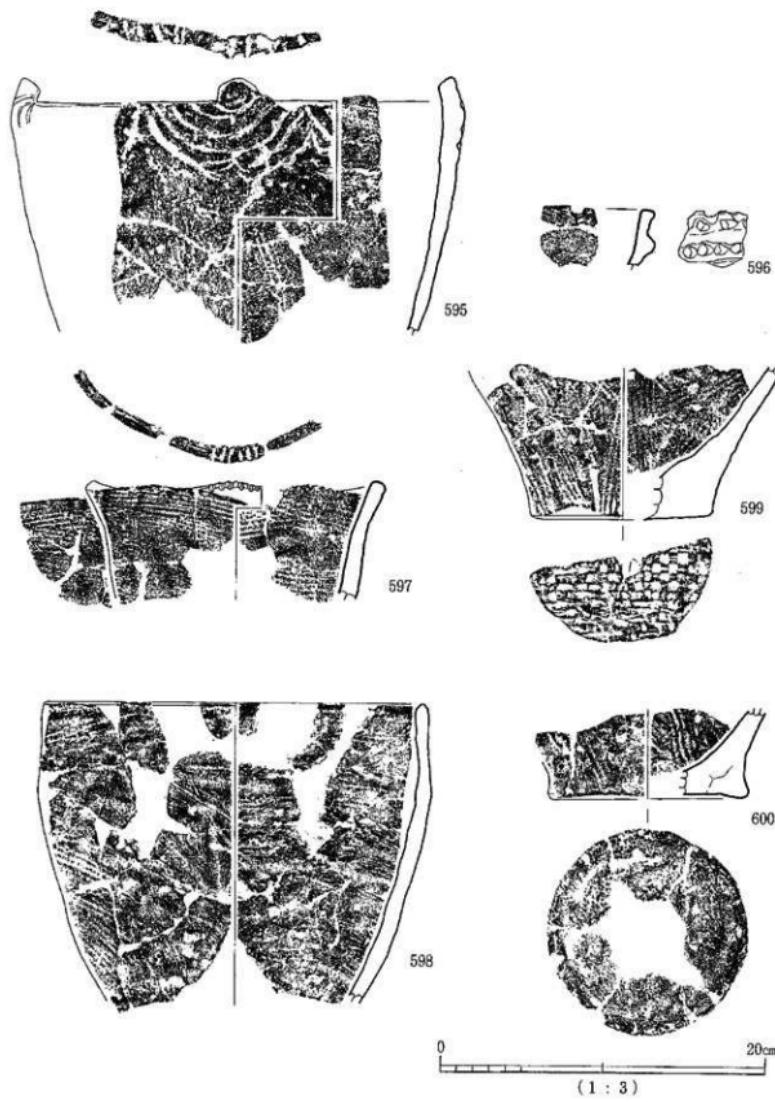
出土土器の中では、594、598が比較的まとまる資料である。594は口縁部に肥厚帯を設け、波頂部に沈線による円文を描く。その他、外面全面に沈線文、連点文を施す。沈線は2本単位で、区画を構成する。磨消網文系土器の影響を色濃くにじませる個体である。595は口縁部をわずかに肥厚させ、沈線による重弧文を描く。596は人めの突帶を付すもので、異質な印象を与えるが、刻目や連点文、凹線文などの文様要素は後期のものである。587は口唇部に刻みを施す。



第111図 35号竪穴出土遺物 (1/3)



第112図 36号竪穴出土遺物 (1) (1/3)



第113図 36号竪穴出土遺物 (2) (1 / 3)

### 3 7号竪穴（別図4・第114・115図）

37-24杭付近で検出された。検出時は梢円形を呈する1基の竪穴と見られたが、掘り下げ段階で2基の円形竪穴が重複したものと判明した。西側の竪穴の中央部には円形の土坑があり、他の多くの竪穴と同様の構造となる。北西側の竪穴は、近世の土坑に切られる。

遺物は比較的多く、中でも土坑内より602などの完形土器が一括出土していることが特筆に値する。

601はやや幅の広い沈線文を施すもので、入組繋ぎ文の構成が認められる。602は2本単位の沈線文を施すもので、指宿式と呼ばれる在地土器型式に属する資料である。603は沈線文に加えて竹管状の連点文を施す。604は入組繋ぎ文を伴う2本単位の沈線により区画を構成する。また口唇部にも文様を施す。605は口縁部に縦・横方向の突帯を付し、口縁部と突帯上に連点文を施す。606は無文土器。607および608の底面には、圧痕が明瞭に残る。

石器は小形の石錐（609）のみ確認できた。

### 3 8号竪穴（別図1・2右・第116図）

中輪線のすぐ東側で検出されたIc層基調のオリーブ褐色土の落ち込み。円形の竪穴と見られるが、5号溝やその他の近世土坑、小穴に切られており、原形は大きく損なわれている。ただし、残存部分から、610・611といった完形土器の好資料が得られている。610は指宿式の器形であるが、文様は付されない。2箇所の穿孔が認められる。611は図上で復元できた個体であるが、胴部の張る、やや異色の器形となる。図では口縁部全体が肥厚しているように取られかねないが、これは波頂部のみに見られる粘土の貼り付け突起というべきものである。胴上部には断面三角形の突帯を巡らせる。612・613は市来式に属する口縁部片。614は磨消繩文土器系に属する胴部片。615は脚台付き鉢の脚部か。文様は認められない。

616は土器片錐。617は砂岩製の石錐である。

### 3 9号竪穴（別図4）

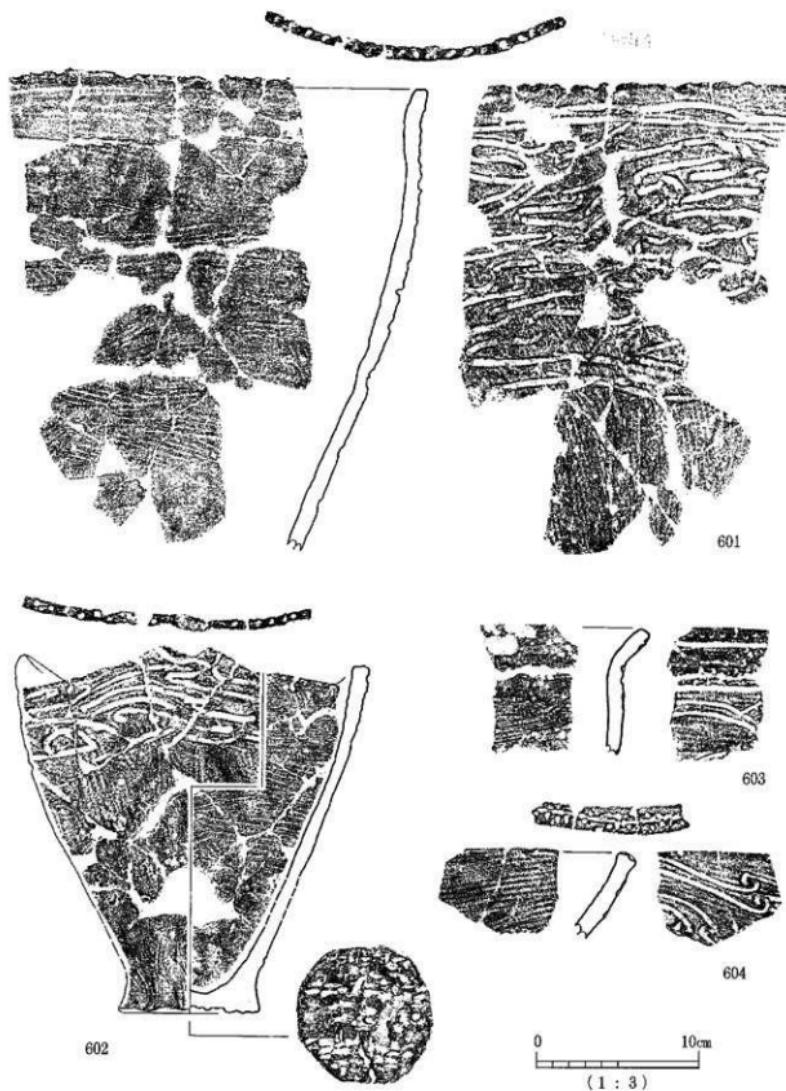
38-39-25区にあるオリーブ褐色土の落ち込み。ある程度の広がりが確認できたため、竪穴と認定したが、北西側などプランが明瞭でなく、また床面も凹部が多く見られるなど、全体として様相がはっきりしない。遺物も土器の小破片が数点出土したのみである。

### 4 0号竪穴（第117～121図）

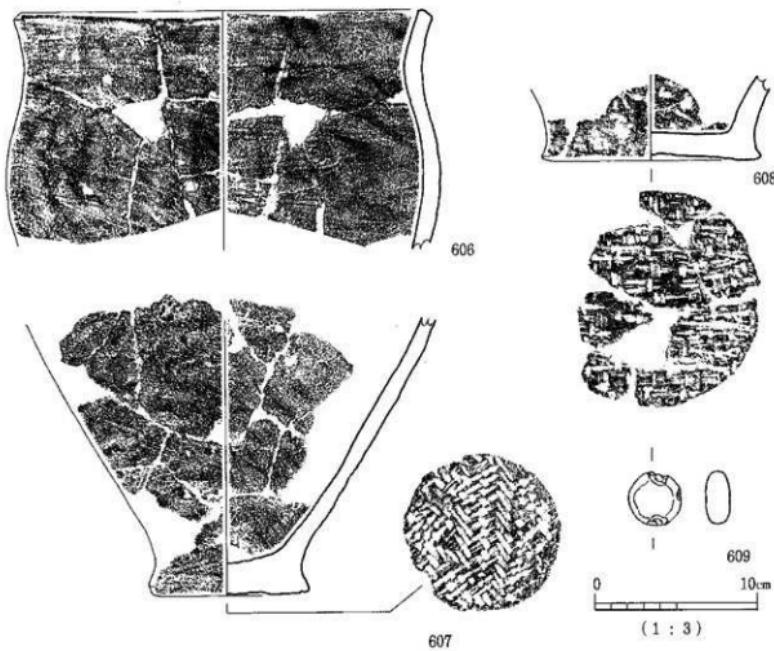
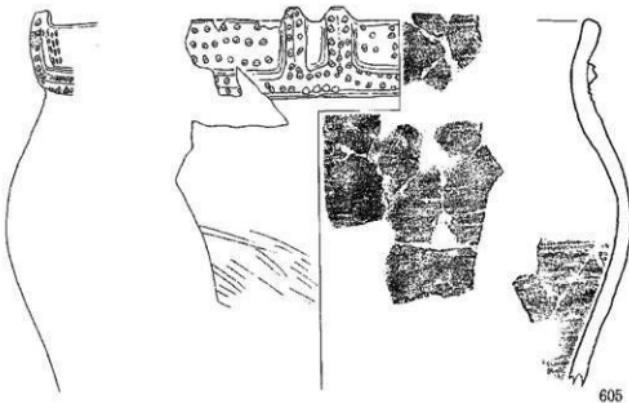
43-30区で検出された円形基調の竪穴。該期の竪穴の中では最も東側に位置するものである。検出面はⅢ層面で、覆土は黒褐色を呈する。床面中央部に土坑を有する。北と南にある2基のビット（深さ約40～60cm）が主柱穴か。

土器は床面から約10cm程上位より、比較的まとまった状態で出土している。

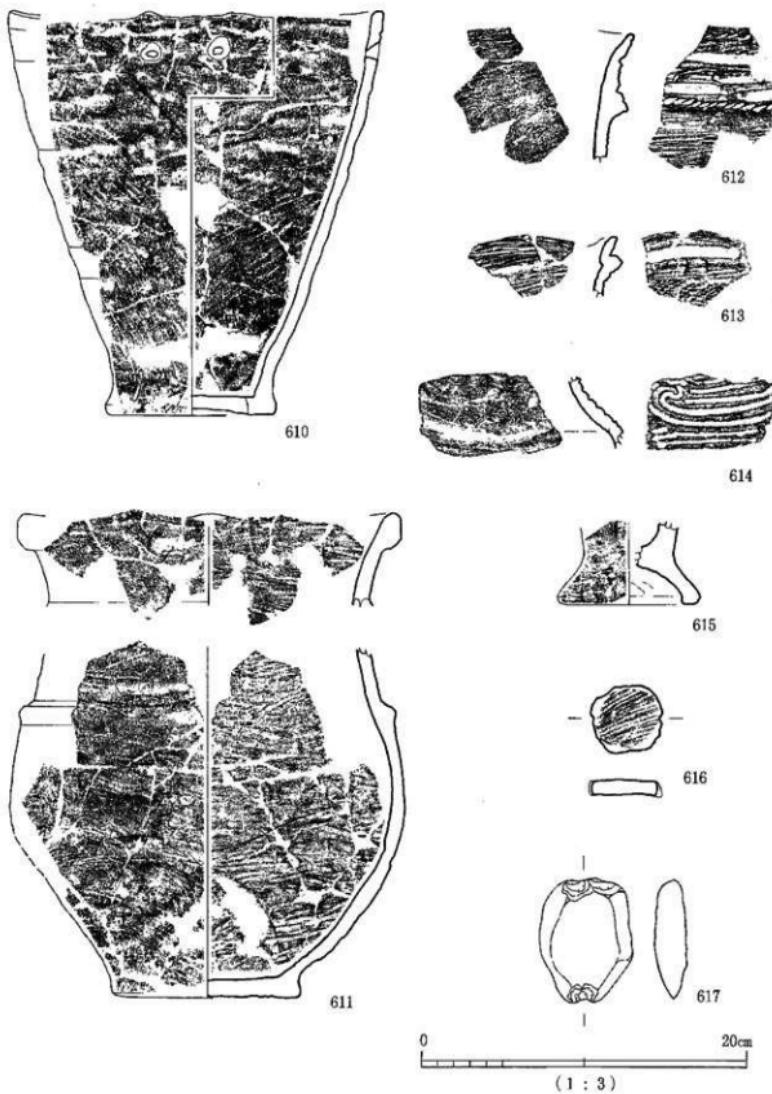
618は口縁部と胴部に横走する沈線文を施すものである。内面のみ貝殻糸痕が残る。納曾式に該当する個体か。619も618と同じ部位に文様（貝殻糸痕压痕文）を施す。工具によるナデ調整が施される。620は胴部にのみ短沈線文が付される。外・内面ともにナデ調整。621は口縁上部と胴部に、貝殻原体の押圧による連点文を施す。622は無文土器。外面には粗い調整痕が残る。623は球形の胴部と大きく開く口縁部を有する磨消繩文土器系の個体。波状口縁となり、端部はごくわずかに内湾する。文様帶は口縁端部と胴部の2箇所となる。波頂部は沈線による三角形が構成され、その内部に刻目が付される。外面の口縁部付近はミガキ調整がなされる。624の器形は623に似る。無文土器である。



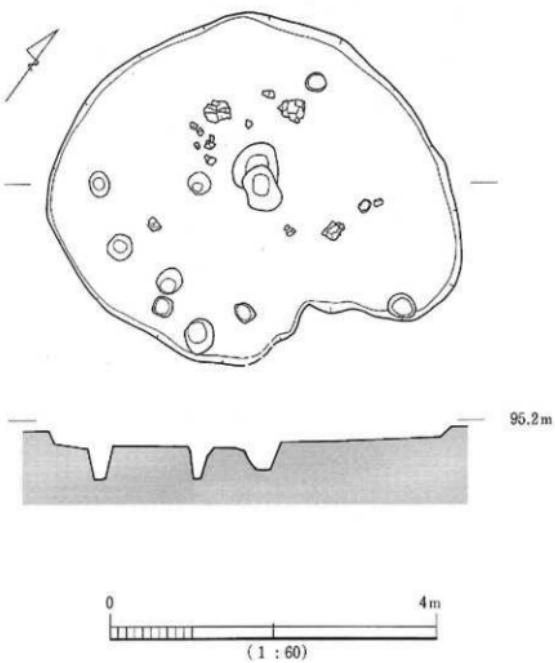
第114図 37号竪穴出土遺物 (1/3)



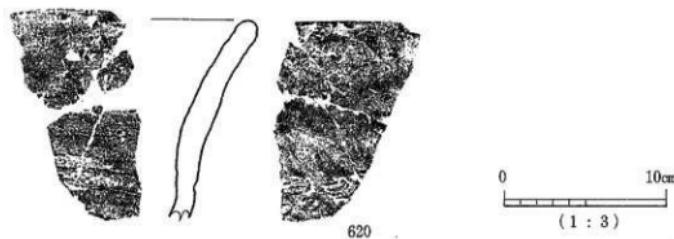
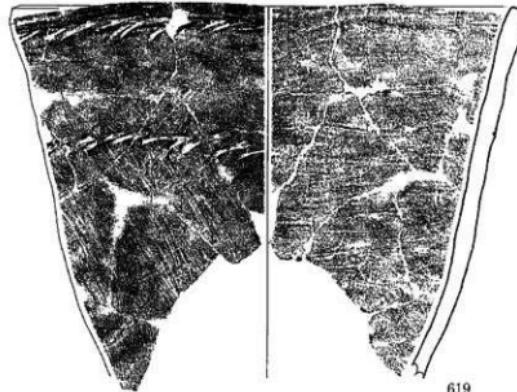
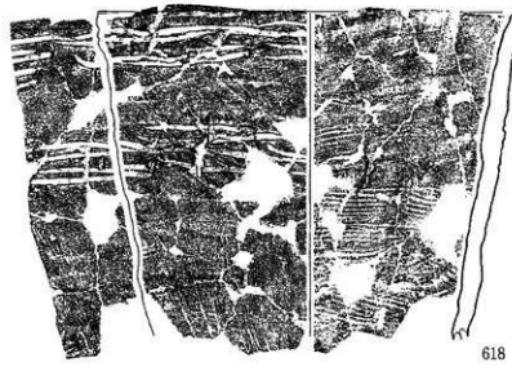
第115図 37号竪穴出土遺物 (3) (1/3)



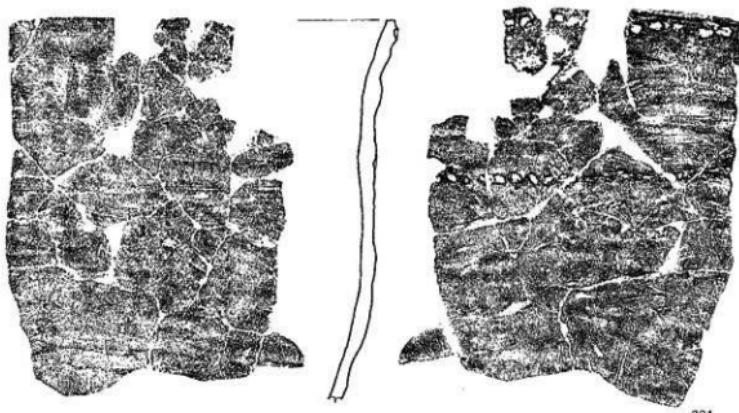
第116図 38号竪穴出土遺物 (1 / 3)



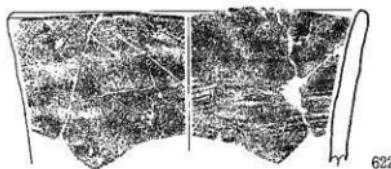
第117図 40号竪穴 (1/60)



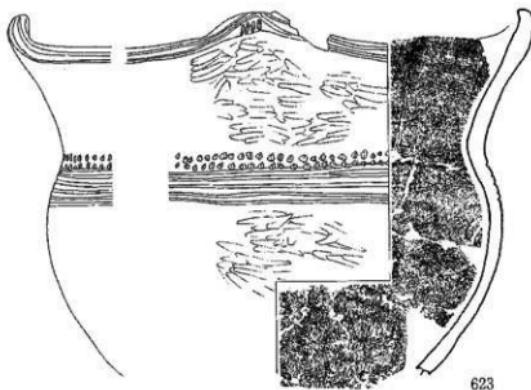
第118図 40号竪穴出土遺物 (1) (1/3)



621



622

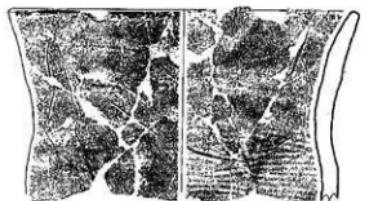
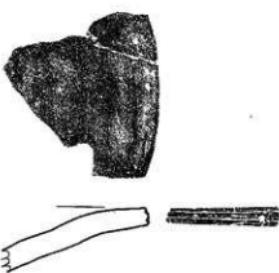


623

第119図 40号竪穴出土遺物 (2) (1 / 3)



624



625



628



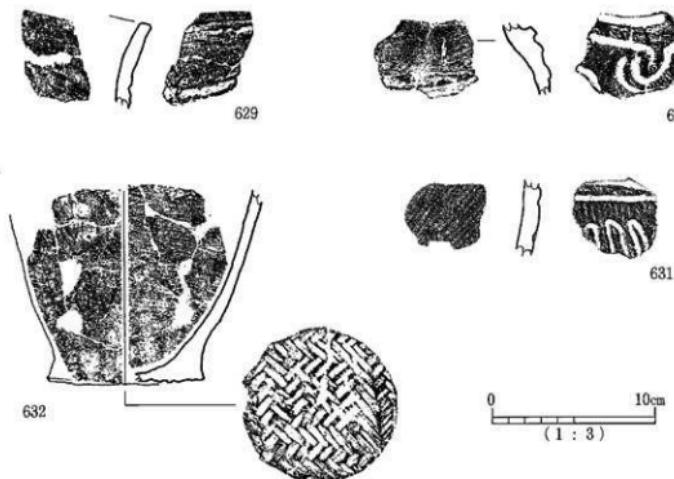
626



627



第120図 40号竪穴出土遺物 (3) (1/3)



第121図 42号竪穴出土遺物 (1/3)

625も無文土器で、内面のみ貝殻条痕が残る。627-628は皿形を呈するもので、627の口縁部外面には密な貝殻腹縁圧痕文が、628の口唇部には沈線文が施される。628の器面調整は非常に丁寧である。

このように、本竪穴一括資料の中には、いくつかの異系統の土器が含まれており、該期の土器編年を構築する上で重要な役割を果たすものと考えられる。

#### 4 1号竪穴（別図4）

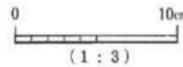
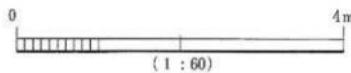
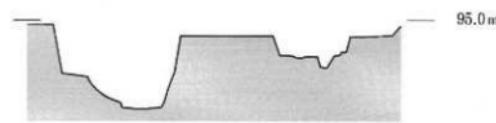
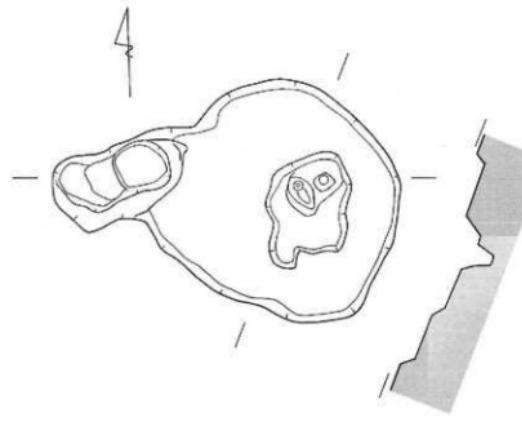
39-24杭の南にある円形の竪穴。北側は近世の土坑に切られる。一辺長2.5m程の小形のもので、床面の中央やや北よりの位置に褚円形の土坑がある。また2基の主柱穴らしきピットも存在する。土坑の北の床面上には石皿様の扁平碟があった。

その他の遺物は土器の小破片のみで、2本単位の平行沈線文を施す口縁部片が目立った程度である。

#### 4 2号竪穴（別図4・第121図）

30分竪穴の南西に位置する。隅丸方形の竪穴と見られるが、東辺が不明瞭で、壁面を捉えることができなかった。南北の一辺長は4.9m。床面にはいくつかの土坑やピットがあるが、構造については言及できない。

出土土器のうち、630は磨消繩文土器系の個体である。あまり明瞭でないが、繩文が施されている。631は沈線による区画を構成するもの。632は比較的まとまる底部片で、底面に圧痕が認められる。



第122図 43号竪穴 (1/30)・出土遺物 (1/3)

#### 4 3号竪穴（第122図）

41-25杭の西側で検出された円形の竪穴。西側は後の時代の土坑（近世の所産か）に切られる。床面中央やや東よりの位置に、土坑が築かれ、さらにその中にピットがある。

出土遺物はごく少量であった。わずかに凹線文を施す小破片（633）が見られた程度である。

#### 4 4号竪穴（別図4）

43-24区にある。隅丸方形を呈する竪穴と見られる。南東側は後の遺構に切られている。平面規模は2.7m×2.4mとやや小振りである。この竪穴も床面中央部に円形土坑を有する。北東と南西のピットを主柱穴と認定したいところであるが、南北側のそれは深さが床面より約10cm程であり、やや躊躇される。遺物は土器の小破片が若干量出土している程度。

#### 4 5号竪穴（第123図）

44-28杭の南側で検出された指円形を呈する竪穴。北東側は後の遺構に切られる。床面中央やや南よりの位置に土坑が築かれており、その北縁にピットがある。床面のピットは、南縁の1基を除き、いずれも浅いものである。

出土遺物は岡化した土器片が目立つ程度である。635は入組繋ぎ文を伴う平行沈線文を施すもの。

#### 4 6号竪穴（第124図）

48-26杭の西側で検出された方形の竪穴。平面規模は4.8m×3.6m、床面上には多数のピットがあるが、そのうち北京と南西の2基が主柱穴と見られる。また北隅の一角は、約10cm程の凹部があり、その付近の壁際にも1基のピットが存在する。

出土遺物は少なく、四点文、凹線文を施す土器片（636）、磨石（637）が目立つ程度である。

#### 4 7号竪穴

50-27-28区にある、黒褐色土の落ち込みで、4.5m×3.1mの長方形を呈する。形状より竪穴の可能性があると考えたが、遺物も少なく実体は不明。

#### 該期の土器型式に関して

これまで、「市米式」などの土器型式名を、何の前置きも無く使用してきたが、基本的には以下に掲げる文献に拠っている。

なお、後期前葉の在地土器を示す型式名で適当なものが無いため、それらについては文様の特徴を記述するにとどめた。

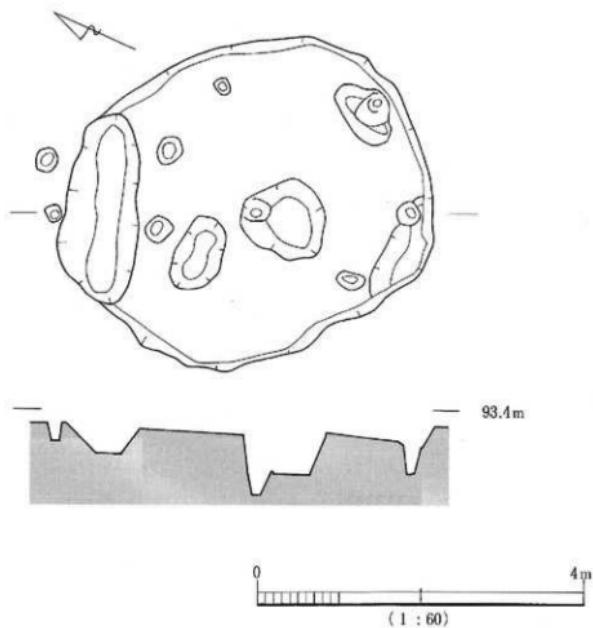
また、ここで「広義の市米式終末期」としたものは、従来「草野式」と呼ばれていたもの一部と、前追亮一氏が設定した「丸尾式」を含む。

#### 参考文献

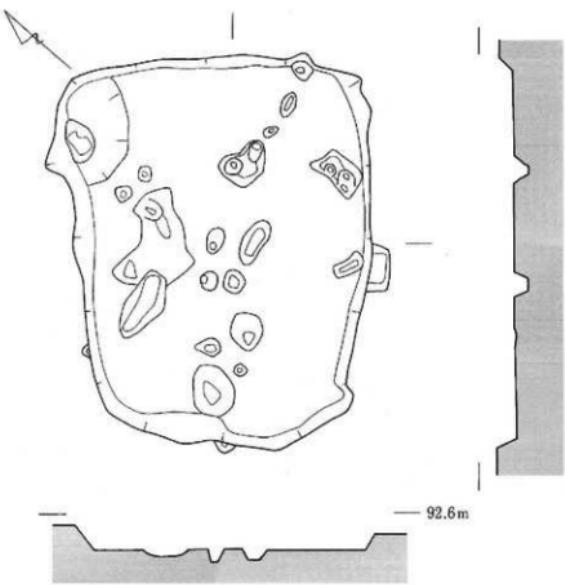
本田道輝 1989 「市米・一勝式土器様式」『縄文土器大観』4 小学館

松永幸男 1989 「九州磨溝縄文土器様式」（同上）

前追亮一 1992 「糸系統土器文化の接点・南九州における縄文時代後期中葉の一樣相：丸尾式土器の提唱」『南九州縄文通信』6 南九州縄文研究会



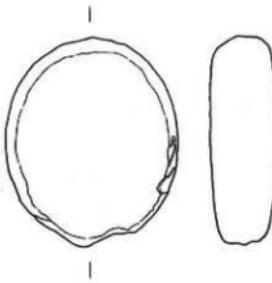
第123図 45号竪穴 (1/60)・出土遺物 (1/3)



0 4m  
(1 : 60)



0 10cm  
(1 : 3)



第124図 46号竪穴 (1/60)・出土遺物 (1/3)

第16表 出土土器観察表 (7)

遺物番号	種別	目	出土部	法量(cm)			手芸・開口・文様ほか			色調		断土の特徴	備考
				高さ	口径	底径	基部	外縁	内面	外側	内側		
584	縄文	深井	山口	SA32			貝殻模様+灰文 波状文	ヨコナテ	灰褐色	明赤褐色	J 1mm以下の白、灰黄、褐色、透明 光沢	断土劣化	
585	縄文	深井	山口	SA33			波状文	貝殻条痕	にぶい褐色	橙	2mm以下の灰白、褐色、透明光沢		
587	縄文	深井	山口～底部	SA34	(15.6)	(17.7)	(8.4)	ナデ	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色	4mm以下の灰白、褐色、透明光沢		
588	縄文	深井	山口	SA34			(12.4)	ナデ	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	3.5mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	木の底面?
590	縄文	深井	山口	SA35				波状文	ナデ	明赤褐色 登	明赤褐色 登	3mm以下の茶褐色、灰褐色、光沢	
591	縄文	深井	山口	SA35				波状文、貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	
592	縄文	深井	山口	SA35				ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	2mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	動物底面
594	縄文	口縫～脚部	山口	SA36				波状文、透点文	貝殻条痕、ナデ	馬頭	馬頭	3mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	
595	縄文	口縫～脚部	山口	SA36				波状文	ナデ	黃褐色 登	黃褐色 登	2mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	スズ付着
596	縄文	深井	山口	SA36				透点文、波状文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1.5mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	
597	縄文	深井	山口	SA36	(17.3)			貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	
598	縄文	深井	山口～閉鎖	SA36	(24.4)			貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	3mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	
599	縄文	深井	底部	SA36			(11.4)	貝殻条痕	貝殻条痕	透点文	透点文	2mm大の丸孔、灰、黑色の粒	動物底面
600	縄文	深井	底部	SA36				貝殻条痕、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	
601	縄文	深井	山口～脚部	SA37				波状文	貝殻条痕、ナデ	灰褐色	灰褐色	2.5mm以下の灰白色、赤褐色の粒	
602	縄文	口縫～底部	SA37		(20.6)	8.35	(21.6)	波状文	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	3mm以下の黒褐色、灰、灰白色の斑	動物底面
603	縄文	深井	山口	SA37				透点文、波状文	貝殻条痕、ナデ	灰褐色 灰褐色	灰褐色 灰褐色	にぶい黄褐色 2mm以下の茶褐色、灰褐色、黑、白色 灰色、透明光沢	底面
604	縄文	深井	山口	SA37				波状文	貝殻条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1.5mm以下の丸孔、灰褐色、透明、黑色、透明光沢	
605	縄文	口縫～脚部	山口	SA37	(34.6)			透点文、波状文	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	3mm以下の灰白色、黑色、褐色、黑色、透明光沢	経状苔寄生
606	縄文	口縫～脚部	山口	SA37	(24.4)			貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	5mm以下の丸孔、灰褐色、透明、黑色、透明光沢	
607	縄文	深井	山口～脚部	SA37			9.4	貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	透点文	透点文	1mm以下の灰白色、金色、透明光沢	動物底面
608	縄文	深井	山口	SA37	(13.1)			貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	5mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	動物底面
610	縄文	口縫～底部	山口	SA38	(22.7)	9.9	(21.65)	貝殻模様+灰文 貝殻条痕	貝殻条痕、ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	0.5mm以下の灰白色、透明、黑色、透明光沢 スズ付着	
611	縄文	口縫～底部	山口	SA38	(23.3)	(11.45)		貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕	明赤褐色 灰褐色	明赤褐色 灰褐色	5mm以下の灰白色、黑色、褐色の粒	断土劣化
612	縄文	深井	山口	SA38				凹彎文、爪形文	貝殻条痕、ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	2mm以下の灰白色、灰褐色の粒	
613	縄文	深井	山口	SA38				貝殻模様+灰文 貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい褐色	にぶい褐色	灰、灰褐色の粒	
614	縄文	深井	山口	SA38				透点文	透点文	にぶい褐色	にぶい褐色	1mm以下の灰白色、暗灰褐色、透明、半透明光沢	
615	縄文	深井	山口	SA38			(8.5)	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	1mm以下の灰白色、暗灰褐色、透明、半透明光沢	
616	縄文	土器片	山口	SA38				貝殻条痕	貝殻条痕、ナデ	褐色	明赤褐色	3mm以下の灰褐色、褐色、灰褐色、透明、透明光沢	
618	縄文	深井	山口～脚部	SA40	(25.8)			波状文	貝殻条痕、ナデ	褐	褐	1mm以下の灰白色、黑色、褐色、黑色、透明光沢	
619	縄文	口縫～脚部	山口	SA40	(31.2)			貝殻模様+灰文	貝殻条痕、ナデ	褐	褐	5mm以下の丸孔、灰褐色、黑色、透明光沢	
620	縄文	深井	山口	SA40				波状文	ナデ	褐	明赤褐色	5mm以下の灰褐色、灰褐色、黑色、透明光沢	
621	縄文	口縫～脚部	山口	SA40				透点文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	2mm以下の灰白色、黑色、透明光沢	スズ付着
622	縄文	深井	山口	SA40	(21.2)			ナデ	貝殻条痕、ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	3mm以下の灰白色、黑色、褐色の粒	
623	縄文	深井	山口～脚部	SA40	(30.6)			ミガキ	ミガキ	にぶい褐色	にぶい褐色	3mm以下の灰白色、黑色、褐色の粒	
624	縄文	口縫～脚部	山口	SA40	(22.4)			透点文	透点文、波状文	ナデ	ナデ	にぶい褐色、明赤褐色	
625	縄文	深井	山口～脚部	SA40				ナデ	貝殻条痕、ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	3mm以下の茶褐色の粒	
626	縄文	深井	山口～脚部	SA40			(9.15)	ナデ	貝殻条痕、ナデ	褐	6mm以下の赤褐色の粒		
627	縄文	台付盆	山口	SA40	(25.2)			貝殻模様+灰文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	3mm以下の褐色、透明光沢	
628	縄文	台付盆	山口	SA40				透点文	透点文	褐	明赤褐色	1mm以下の灰白色、透明光沢	
629	縄文	深井	山口	SA42				波状文	ナデ	にぶい褐色	明赤褐色	5mm以下の茶褐色、黑色、褐色の粒	
630	縄文	深井	山口～脚部	SA42				ミガキ	ミガキ	にぶい褐色	黄褐色	2mm以下の灰白色、黑色、褐色の粒	
631	縄文	深井	脚部	SA42				波状文	貝殻条痕	にぶい褐色	にぶい褐色	1mmの灰白色の粒	

第17表 出土土器観察表 (8)

遺物 番号	器種 部位	出土 地點	法量(cm)				手後・脚盤・文様はか				色・質		胎土の特徴	備考
			口 径	底 径	容 量	高 度	外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	内 面		
632	縄文 深鉢 明治一底部	SA42			9.6		具模条幅、ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	2 mm以下の薄、淡黄色の粒		網代灰	
633	縄文 深鉢 明治	SA43					凹縄文	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2 mm以下の褐色、半透明光沢			
634	縄文 深鉢 口縁	SA45					凹縄文	ナデ	褐灰	明赤褐色	4 mm以下の赤褐色、灰白色、透明光沢			
635	縄文 深鉢 明治	SA45					沈縄文	ナデ	褐灰	明赤褐色	2 mm以下の灰白色、透明光沢			
636	縄文 深鉢 口縁	SA46					凹縄文、四点文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	3 mm以下の茶褐色、褐色の粒			

第18表 出土石器計測表 (4)

遺物 番号	器種	出 土 地 点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
586	石錐	SA33	4.80	4.40	1.40	39.4	砂岩	
593	石斧	SA35	(10.75)	(5.50)	(3.15)	193.7	頁岩	
609	石錐	SA37	3.25	3.10	1.45	18.4	砂岩	

遺物 番号	器種	出 土 地 点	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
617	石錐	SA38	7.50	5.70	1.90	124.9	砂岩	
637	磨石	SA46	12.80	10.55	4.80	820.0	砂岩	

## (2) 土坑

前述の通り、縄文時代の土坑と認定した凹部は66基に上る。ほとんどがI c層基調のオリーブ褐色土あるいは黒褐色土の落ち込みである。しかし、その性格は当然のことながら多様で、37号土坑などは、すでに触れたように堅穴とすべきであろう。一方、著しく不整形で人為的かどうか疑わしいものもある。従って、全てについて記述することはさほど意味を持たないと考えられる。遺物が出土しているものや、機能の特定、推定が可能ななものに限って、取り挙げたい。

### 1号土坑

1号～15号土坑は、旧農作業道の北側にあり、Ⅲ層面で検出された。いずれも埋土は黒褐色土で、アカホヤバミスを含んでいる。1号土坑は32-20区南東端にある。楕円形の土坑で、平面規模は1.1m×0.7m、検出面からの深さは約30cmを測る。2号・3号土坑も、同じく楕円形を呈するものである。いずれも遺物は少なく、土器の小破片が見られたのみであった。

### 4号土坑（第125図）

32-18杭の北側で検出された土坑で、やや不整な楕円形を呈する。東側は攪乱により不明瞭となる。埋土中より土器片、礫などが出土している。638はそのうちの1点で、波状口縁をなす無文土器である。

### 9号土坑（第126図）

34-19・20区にある凹部で、三角形に近い、不整な平面形をなす。長径2.3m、短径2.0m、検出面からの深さは約60cmを測る。市来式（639・640）、磨消縄文系土器（641）が出土している。641には、単節の縄文（R L）が施文される。

### 21号土坑（別図1左）

本来、長楕円形の土坑であったと見られるが、29号・53号土壤墓に切られ原状を大きく損ねている。図化していないが、縄文土器の小破片が出土している。

### 27号土坑（別図1左・第127図）

38-21区にある楕円形の土坑。付近は近世の遺構の密集するところで、一部掘立柱建物の柱穴に切られる。検出面からの深さは約30cm。土器片が比較的多数出土している。

642-643は口縁部の断面が三角形を呈する、市来式に属する個体。643には深い凹点が施される。644は口縁部の肥厚が見られなくなるもの。645は尾鈴山系酸性岩製の磨石。

### 30号土坑（別図3左）

42-21区にある楕円形の土坑。長径2.5m、短径1.9m、検出面からの深さは約30cmを測る。床面には多数の凹部が見られる。市来式の口縁部（646）が出土している。

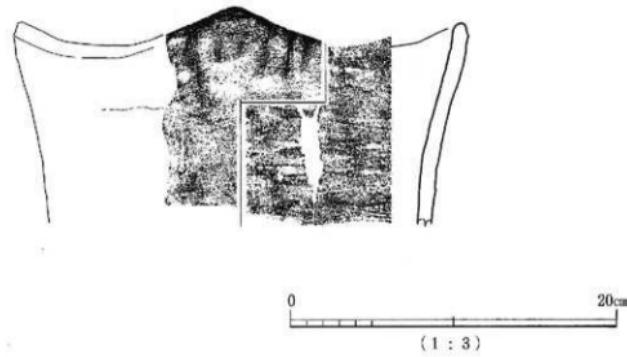
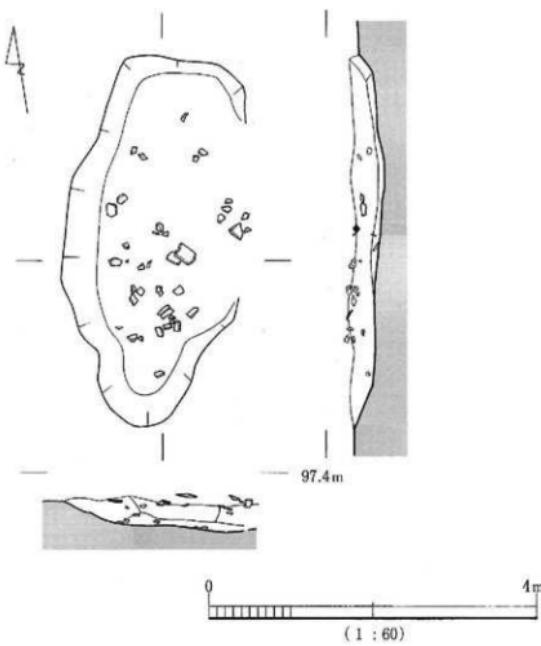
### 33号土坑（別図3左・第127図）

43-21杭の北西で検出された土坑で、やや不整な楕円形を呈する。北側は近世の小穴構築の影響を受ける。長径は約2.0m、検出面からの深さは約40cm。

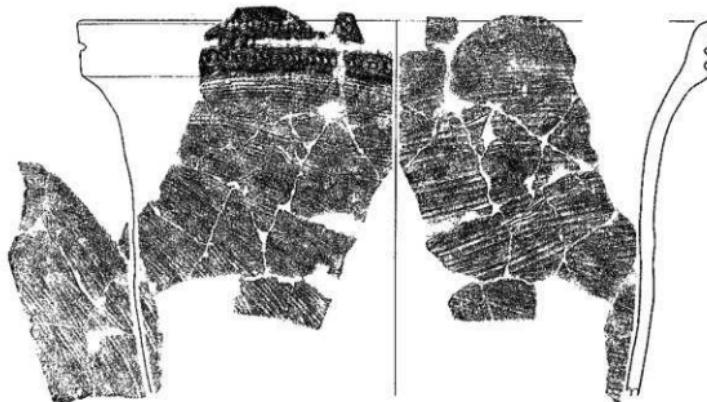
647は無文土器。口縁部は波状をなす。648は土器片錐。

### 35号土坑（別図1）

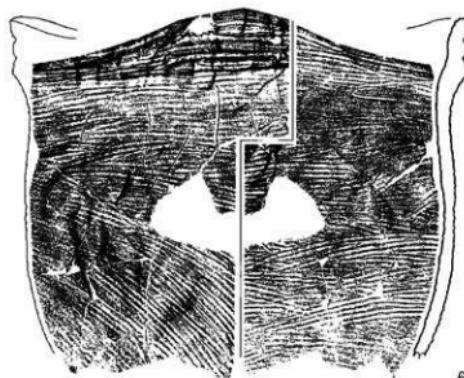
36-20区で検出された円形基調の遺構。長径2.6m、短径2.0mで、「堅穴」とした中の小規模な一群と本質的な差異はない。検出面からの深さは約10cm程度。無文土器のみであったため図化は行っていないが、一定量の遺物が出土している。



第125図 4号土坑(1/60)・出土遺物(1)(1/3)



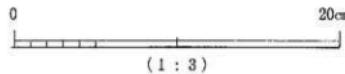
639



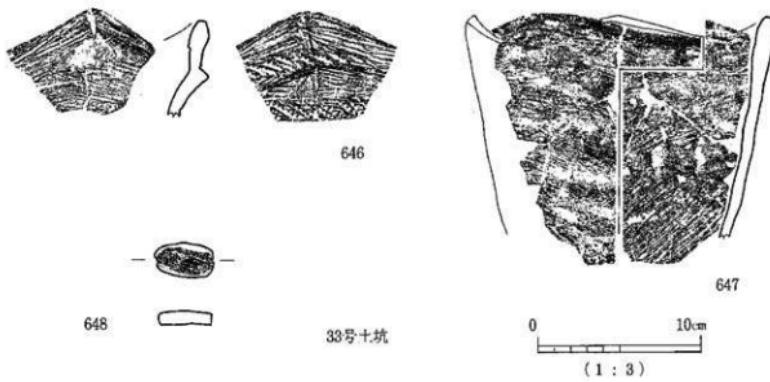
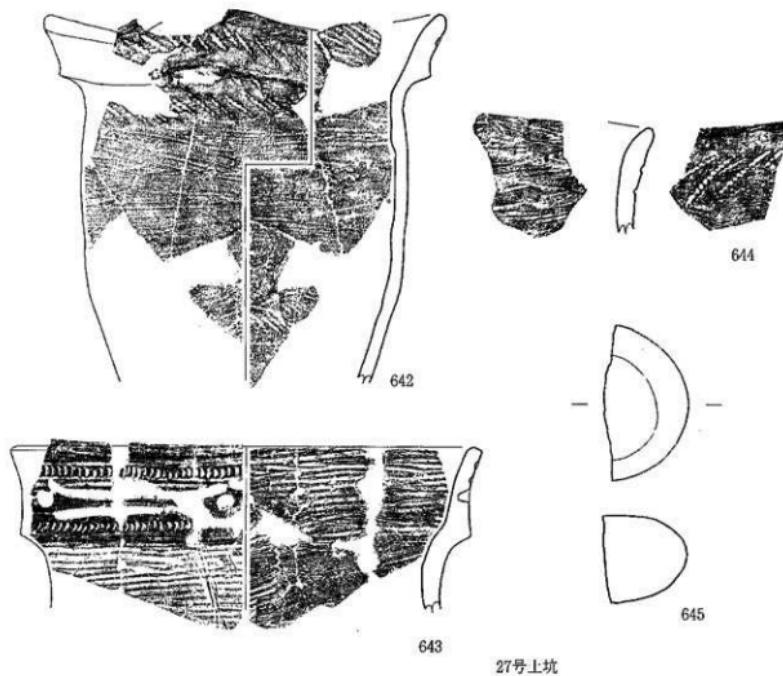
640



641



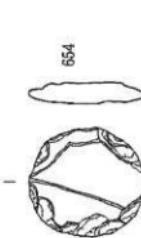
第126図 9号土坑出土遺物 (1/3)



第127図 土坑出土遺物 (1) (1 / 3)

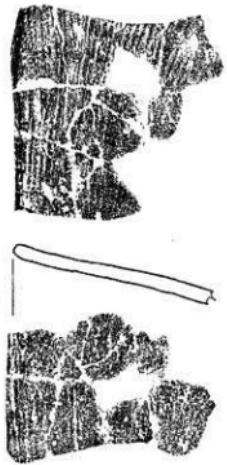
第128图 土坑出土器物 (2) (1 / 3)

10cm  
(1 : 3)



39号土坑

652



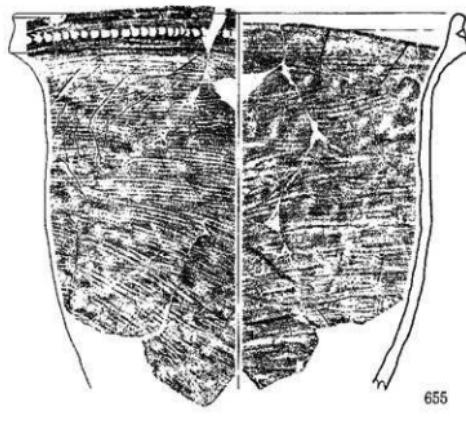
651

38号土坑

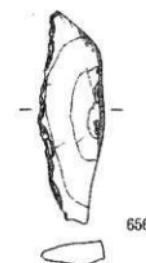
650



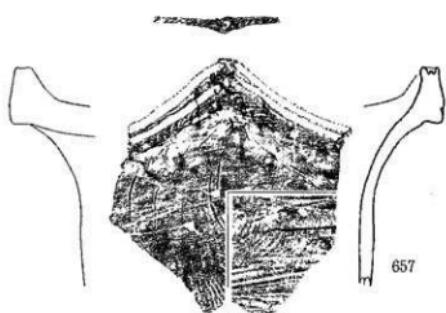
649



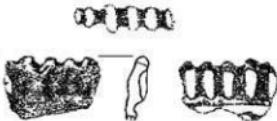
41号土坑



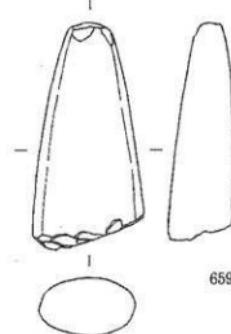
43号土坑



44号土坑

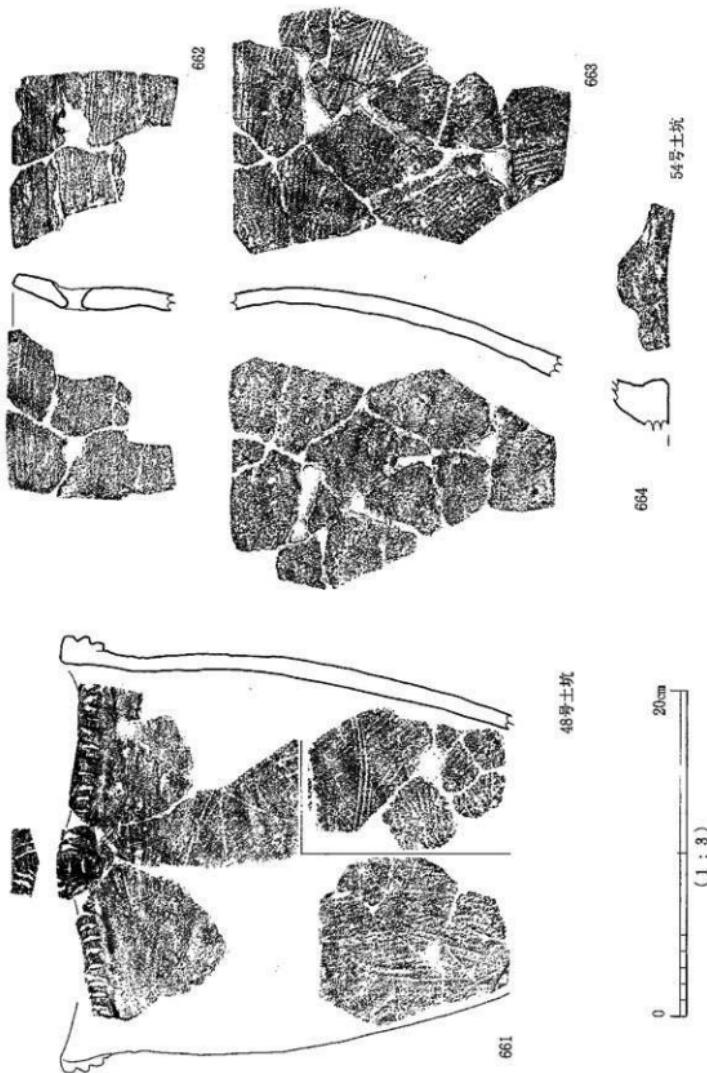


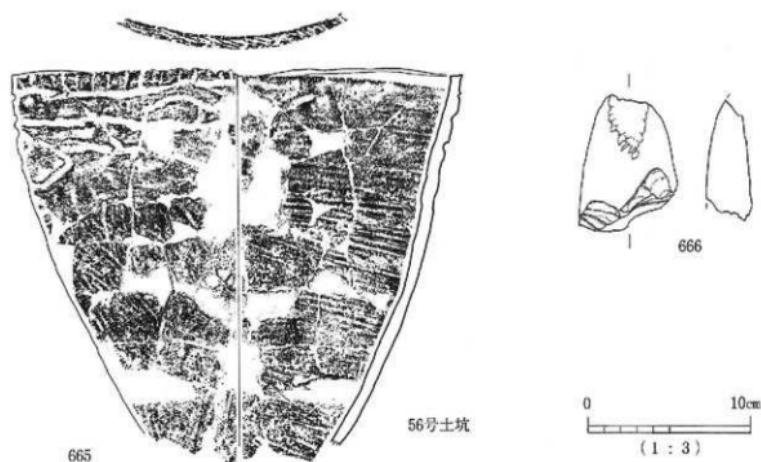
47号土坑



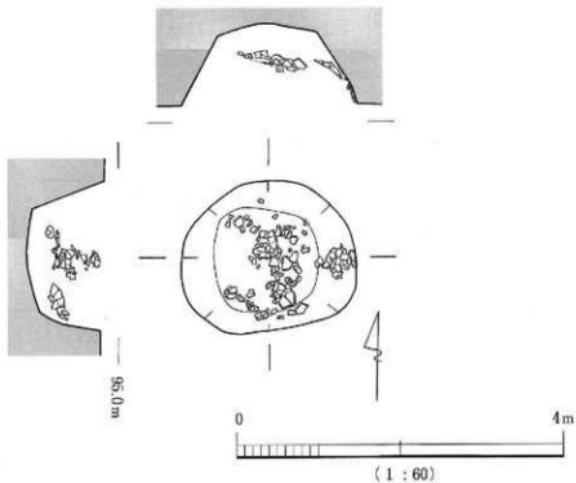
第129図 土坑出土遺物 (3) (1 / 3)

第130圖 土坑出土遺物 (4) (1 / 3)

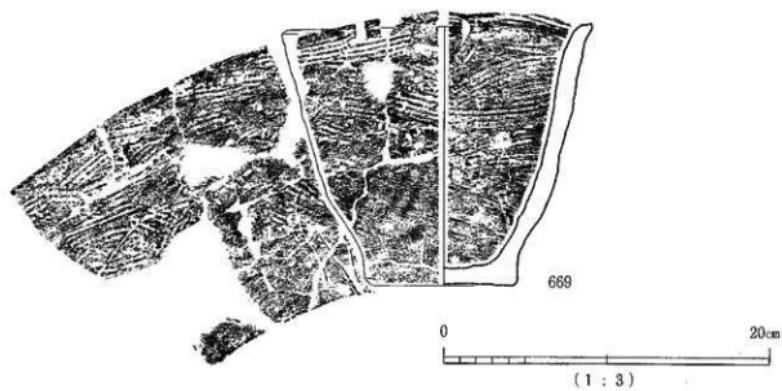
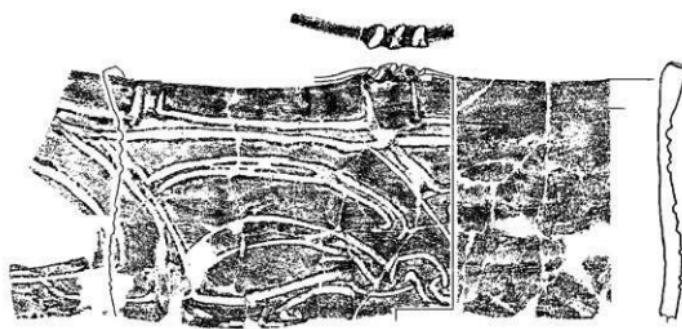
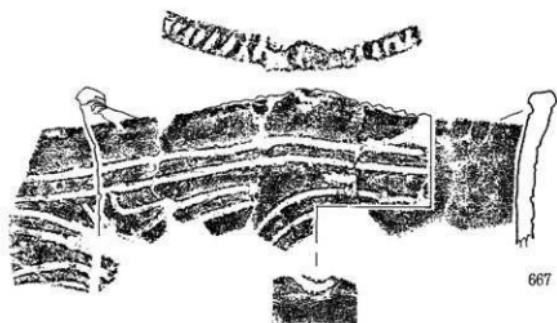




第131図 土坑出土遺物 (5) (1/3)



第132図 57号土坑 (1/60)



第133図 57号土坑出土遺物 (1) (1 / 3)

### 3 6号土坑（別図1）

隅丸の長方形を呈する土坑と見られるが、遺構の中心部を1号溝が走っており、破壊を受ける。平面規模は2.6m×1.6m、残存部の深さは約20cmを測る。遺物は土器の小破片が主である。

### 3 8号土坑（別図1・第128図）

37-20区にある円形土坑。底面から30cm程上部のところが最大径となる。上端部の径は0.9m～1.0mであるのにに対し、最大径部では1.0～1.1mとなる。最深部の深さは100cmで、ひときわ深い。

埋土中より土器片が多数出土している。649と650は沈線・凹線の区画内に貝殻腹縁圧痕文を施すものである。

### 3 9号土坑（第128図）

35-19区にある。一方の側面がくびれた勾玉状の平面形となる。埋土中より土器片、石器が出土している（653-654）。654は円盤状に縄を加工し、その周縁に刃部を形成するスクレイバー様の石器である。

### 4 1号土坑（第129図）

41-18杭付近にある不整形の褐色土の凹部。市来式の比較的まとまる個体が出土している（655）。

### 4 2号土坑

43-20区にある。楕円形の土坑と見られるが、後の時代の遺構に切られている。

### 4 3号土坑（第129図）

調査区の南端近くの54-25-26区にある、黒褐色埋土の不整形の落ち込み。埋土中よりスクレイバーが出土している（626）。

### 4 4号土坑（第129図）

38-22区にある楕円形の土坑。長径1.4m、短径1.3m、検出面からの深さは約20cm。ほぼ床面上より市来式に属する口縁部～胴部片が出土している（657）。

### 4 8号土坑（別図1右・第130図）

36号竪穴の南にある楕円形の土坑。比較的まとまる土器片が出土している（661）。口縁部をわずかに肥厚させ、そこに貝殻原体による刻目を施す。波頂部は、縦方向に突帯を付す。

### 5 4号土坑（別図1右・第130図）

38-22区にある円形の土坑。付近は近世の遺構群が密集している。同一個体と見られる無文土器片（662-664）が出土している。口縁下部には穿孔が認められる。

### 5 5号土坑

55号～64号土坑は、いずれも円形を呈する土坑である。55号土坑は41-24区にある。径は1.6m。埋土中より土器1個体分が出土している。665がそれで、底部以外は完全に残る。2本単位の沈線による区画を形成するもので、口縁端部には貝殻腹縁圧痕文が付される。

### 5 6号土坑（第131図）

43-26区にある。径は1.2m～1.4m。埋土中より石斧の欠損品が1点出土している（666）。

### 5 7号土坑（第132～135図）

43号竪穴の南西、42-25区で検出された。径は1.8m～2.1m、検出面から最深部までの深さは約100cmを測る。埋土中に焼土や炭化物が認められ、上～中位より2個体の完形品を含む、残存度の高い土器片が一括出土している。脆弱な破片が多いように見受けられた。

676



第134図 57号土坑出土遺物 (2) (1 / 3)

0 20cm  
(1 : 3)

675



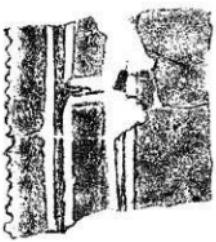
674



673



670

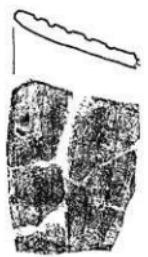


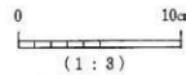
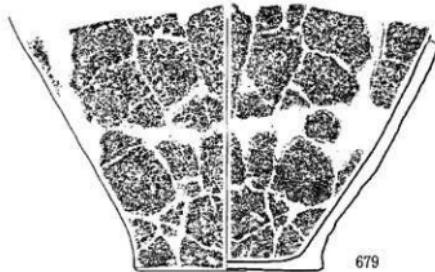
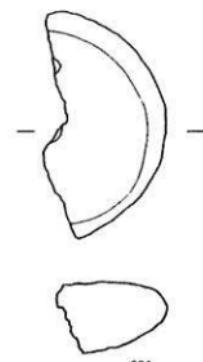
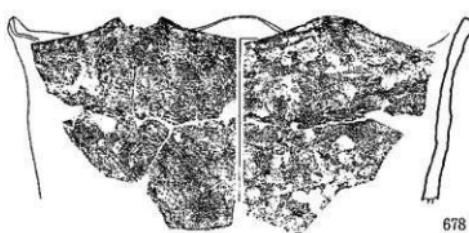
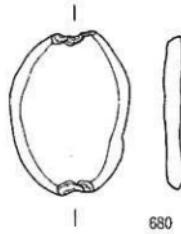
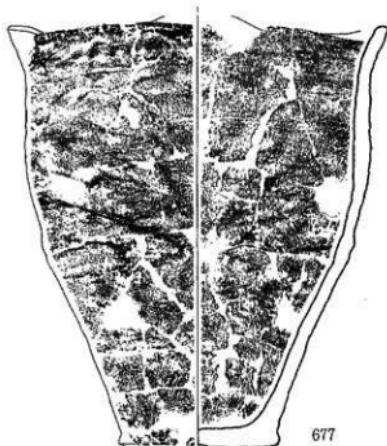
0 20cm  
(1 : 3)

671

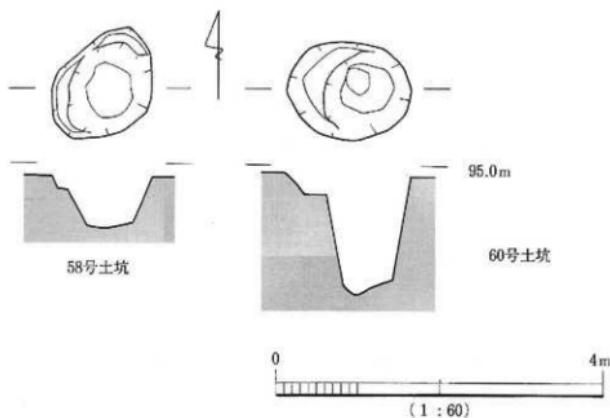


672

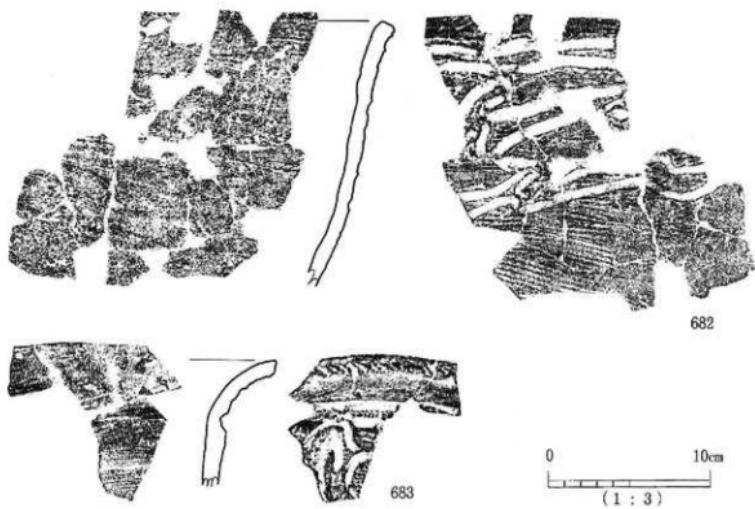




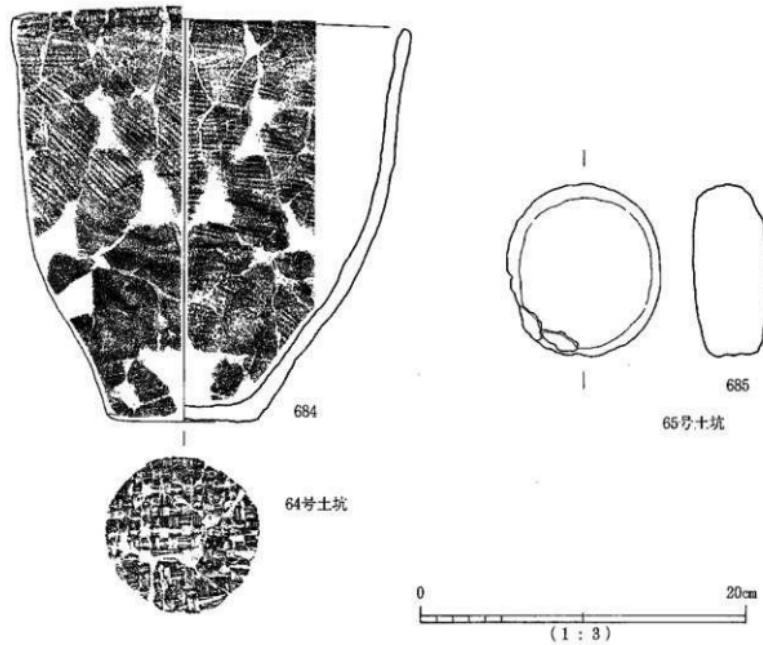
第135図 57号土坑出土遺物 (3) (1 / 3)



第136図 58号・60号土坑 (1/60)



第137図 58号土坑出土遺物 (1/3)



第138図 土坑出土遺物 (6) (1/3)

出土土器の中で最も多いのは、2本単位の沈線による区画を形成するものである。667、668、670～672、675などがそれにあたる。673は低平な突堤の上に貝殻原体の圧痕文、凹点文を施すもの。676は口縁部が内湾する形態のもので、沈線による渦文を描く。外・内面ともミガキ調整を施す。外来系の個体であろう。

#### 5 8号土坑（第136・137図）

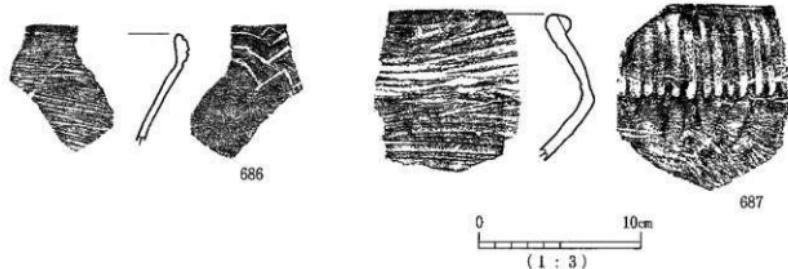
42-26区で検出された。径は1.1m～1.5m、検出面からの深さは約60cm。埋土中より土器の口縁部片が出土している。682は2本単位の沈線文を施文する。683は貝殻原体の圧痕文を疑似縄文様に施す。

#### 6 0号土坑（第136図）

41-26区にある円形土坑。径は1.1m～1.5m、検出面からの深さは約140cmを測る。遺物は、土器の小破片が少量出土したのみであった。

#### 6 4号土坑（第138図）

60号土坑の南西にある。この付近は円形土坑が多い。とは言うものの、集中度はさほどではない。径は1.3m、検出面からの深さは約20cmを測る。埋土中より2個体の土器が出土している。



第139図 包含層出土遺物 (6) (1/3)

図化したのは無文土器であり(684)、底部に編物圧痕が明瞭に残る。他の1点は、口縁部が波状をなし、沈線文と竹管状の連点文を施すものである。

#### 65号土坑（第138図）

40-25坑の西にある。東隣の土坑は59号である。径は0.7m、検出面からの深さは約40cm。埋土中より溶結凝灰岩製の磨石が出土している(685)。

#### (3) 包含層出土遺物

主たる遺物包含層であるIc層の他、Ia、Ib層中より多量の遺物が出土している。ただし紙数の制約から、図面を掲載できるものはそれらの中のごく一部にとどまる。各個体の所属型式や器種の全体に占める比率が、実態に即したものであるという保証もない。

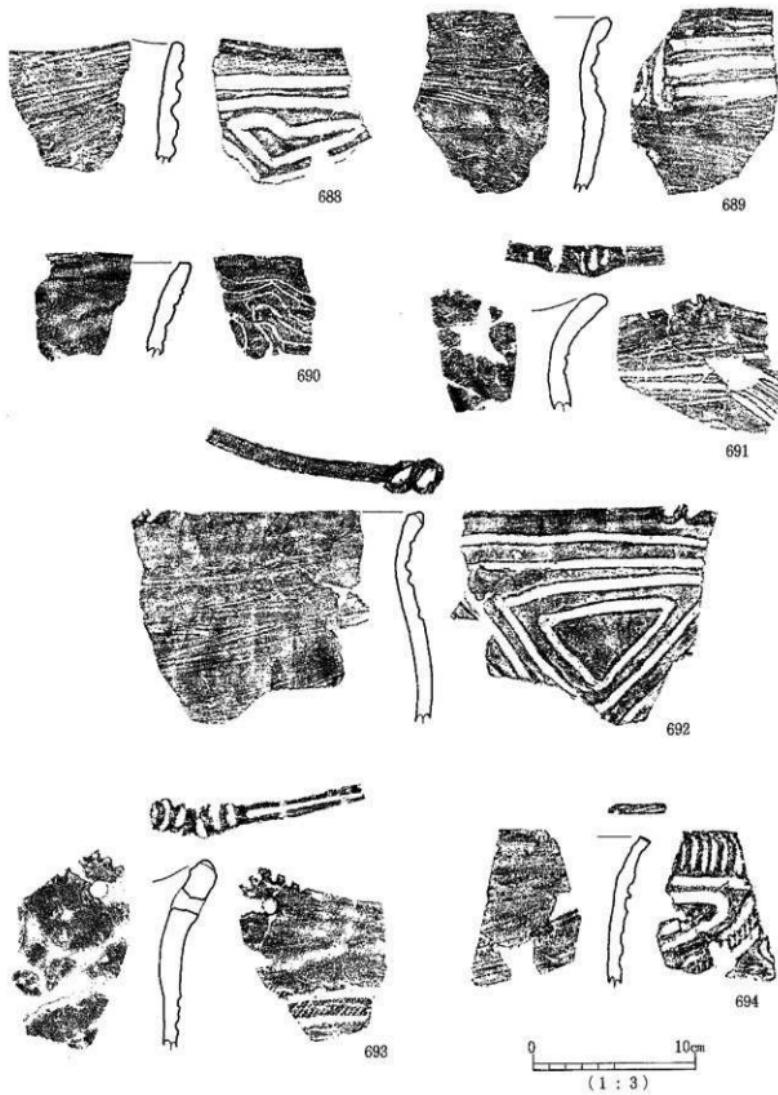
なお、1号集蹠付近に集められていた石器は既に第1項の「1号集蹠」の項で扱っている。

#### 土器（第139~145図）

686は口縁端部がわずかに内湾する。中期の春日式に属する個体である。687は口縁部が強く内湾し、外面の屈曲部以上に、縱方向の密な沈線文を施す。また瘤状突起を付す。

688~694は、基本的には2本単位の沈線による区画を形成するものである。693と694は貝殻原体による圧痕文を疑似繩文状に施す。695~704は、口縁部を肥厚させたり、「く」字形に屈曲させたり、市来式に属する一群である。705~709は先に市来式終末期としたもので、文様は貝殻腹縁圧痕文が一列巡るのみとなる。710~714は鐘崎式などの磨消繩文系土器。715~724は脚台付きの皿、鉢形土器。在地系の裝飾土器と言えるもので、数型式の間にわたって一定の割合で存在したと考えられる。

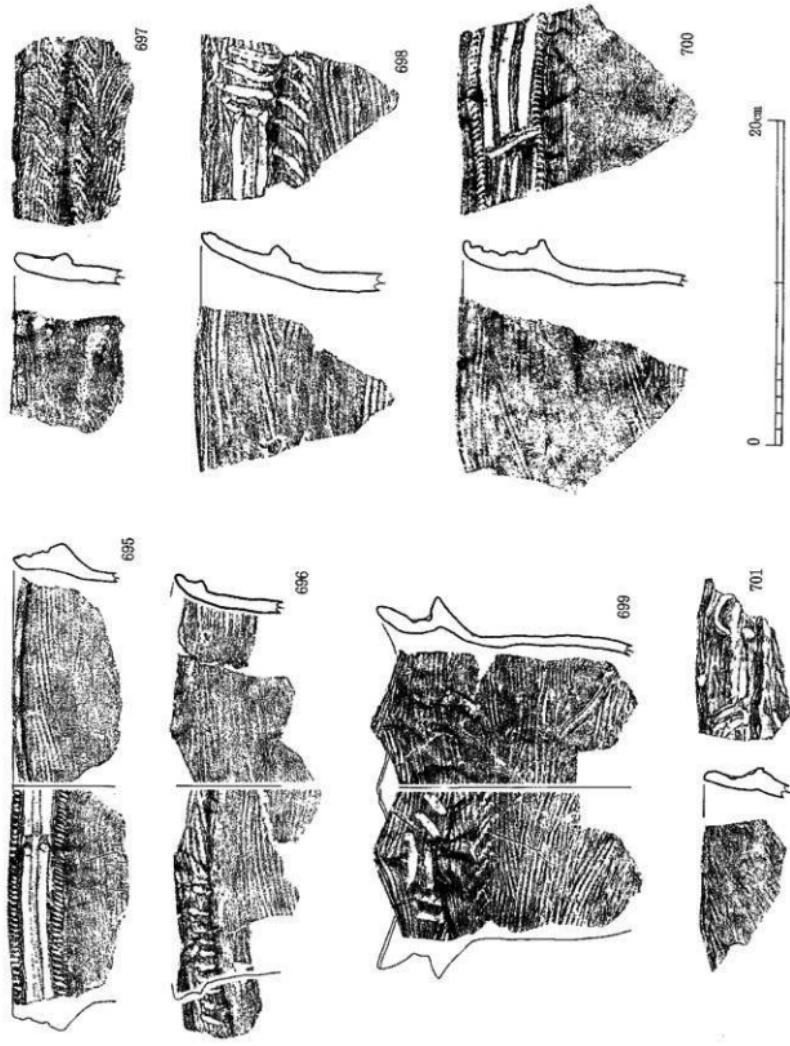
その他、後期後半から晩期にかけての土器も少量出土している。728は断面かまぼこ状の突帯を貼り付けて口縁部を肥厚させる深鉢で、胸部は屈曲し、明瞭な稜線を形成する。729は口縁部の外・内面に沈線を巡らせるもので、器面にはミガキが施される。黒川式に属する個体であろう。

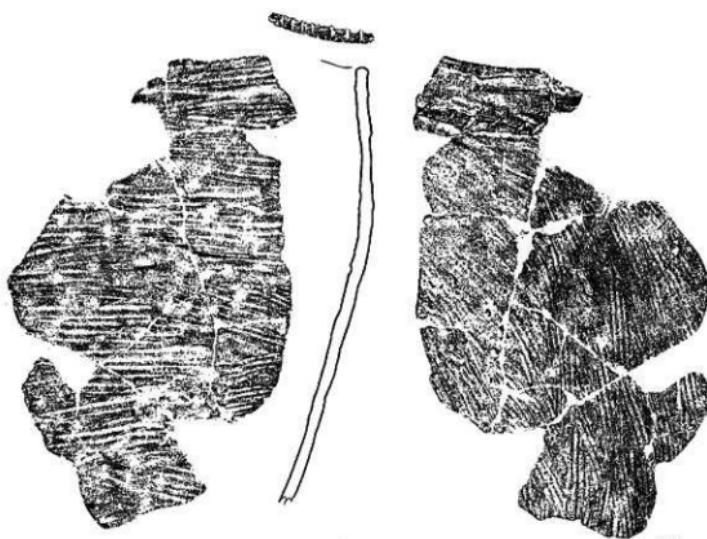


第140図 包含層出土遺物 (7) (1 / 3)

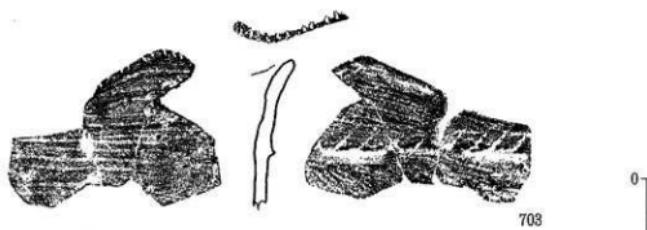
20cm  
0

第141図 包含層出土遺物 (8) (1 / 3) (1 : 3)

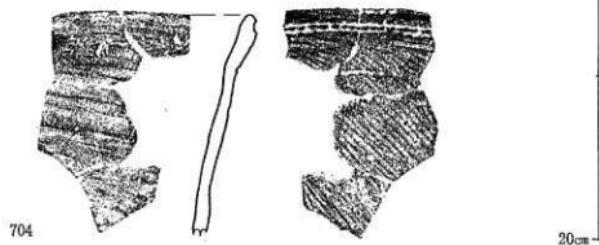




702



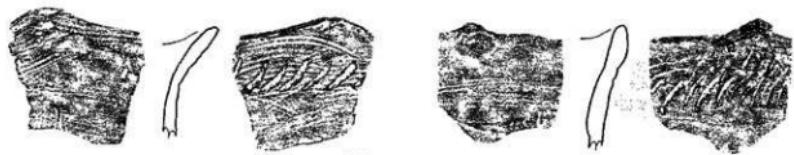
703



704

20cm

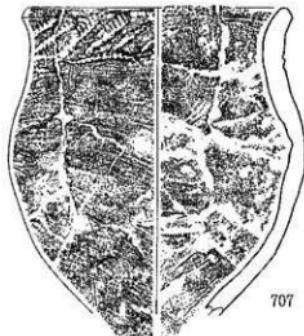
第142図 包含層出土遺物 (9) (1 / 3)



705



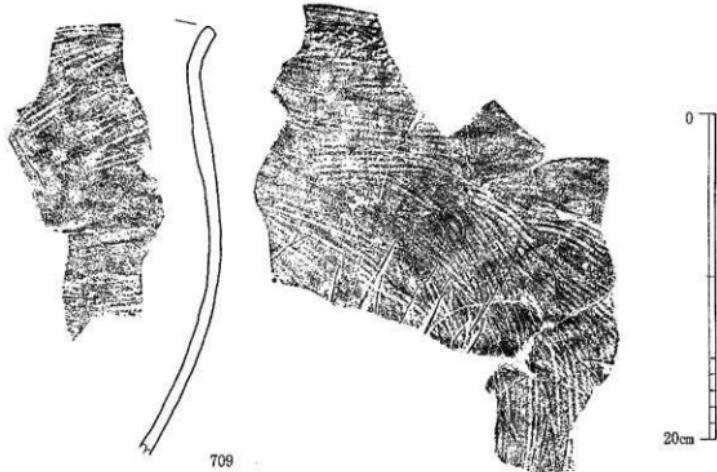
706



707

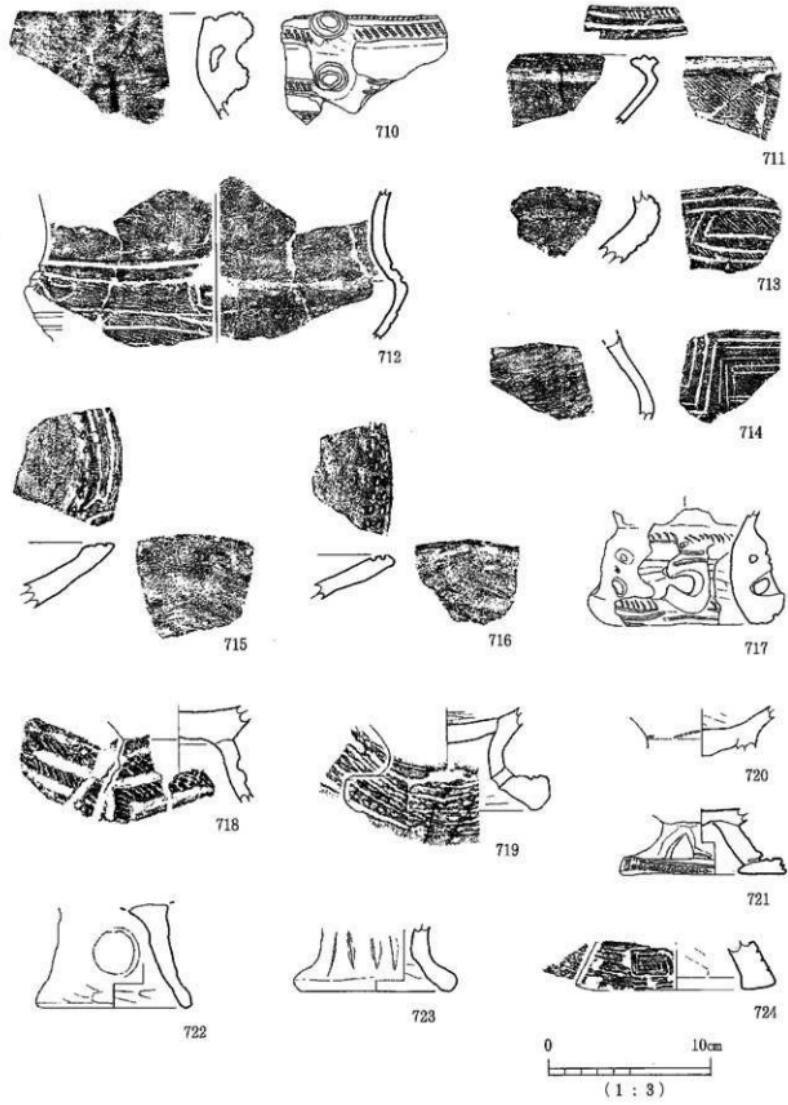


708

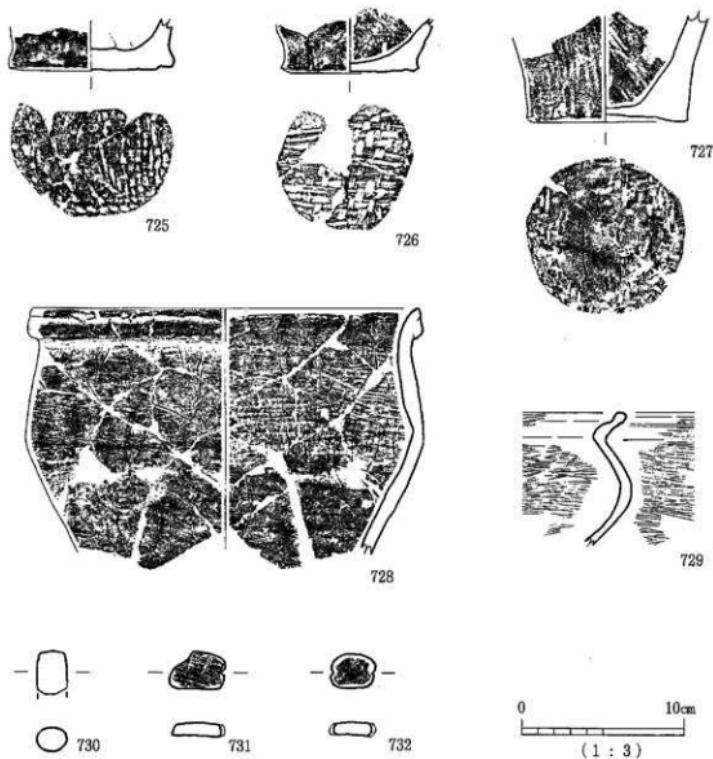


709

第143図 包含層出土遺物 (10) (1/3)



第144図 包含層出土遺物 (II) (1 / 3)



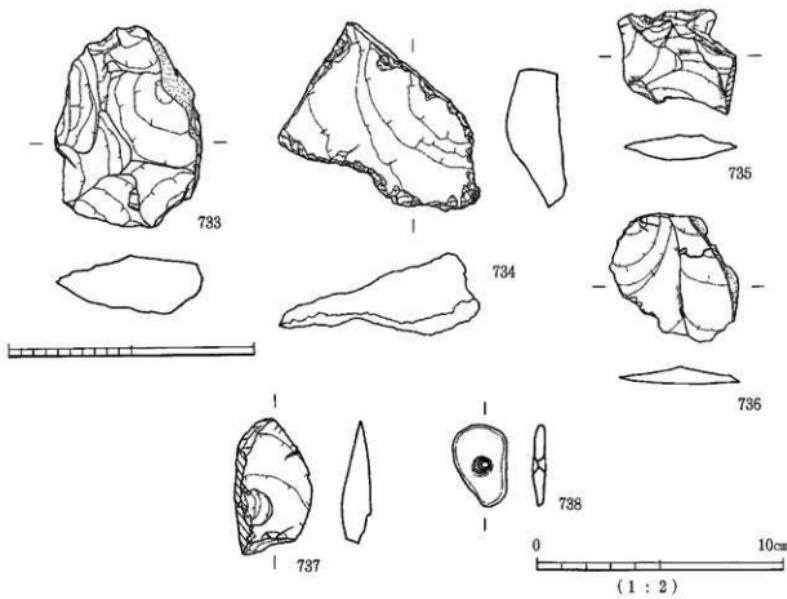
第145図 包含層出土遺物 (1) (1 / 3)

#### 石器 (第146~152図)

733は蝶形器で、砂岩を大まかに打ち欠いたものである。734はスクレイパーで、やや厚みのある剥片の周囲に細かな剥離を加えている。砂岩製。735~737は使用痕剥片。738は扁平な砂岩に両面から穿孔したもの。

739~763は崩製石斧である。ほとんどが基部が狭くなる台形状に整形しているが、長方形状のものや、自然礫をほとんど整形せず、刃部のみを設けたものも認められる。761~762は盤状の刃部を持つ。763は幅2cm、長さ9cmの細鑿状で、刃部は船刃となる。745は蛇紋岩製。他は砂岩製。

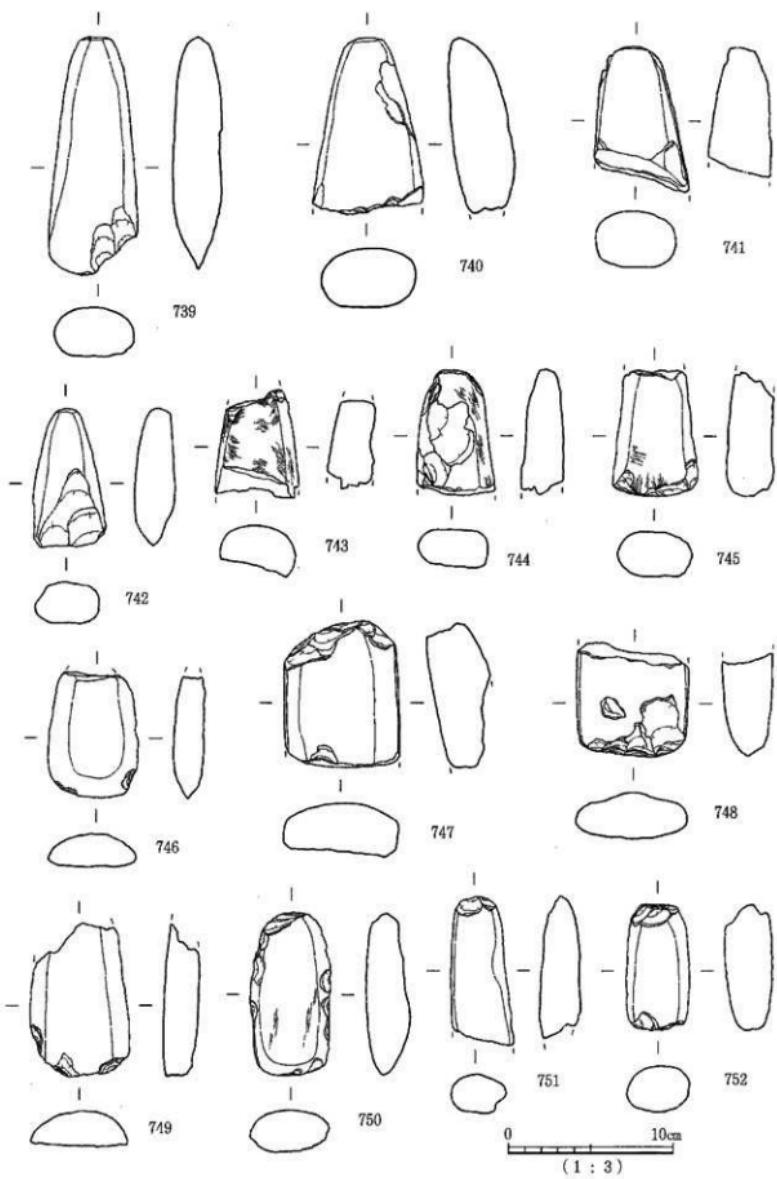
764~769は切目石錘、770~794は打ち欠きによる石錘で、792~794は長短両軸に打ち欠きを施す。792は蛇紋岩製である。



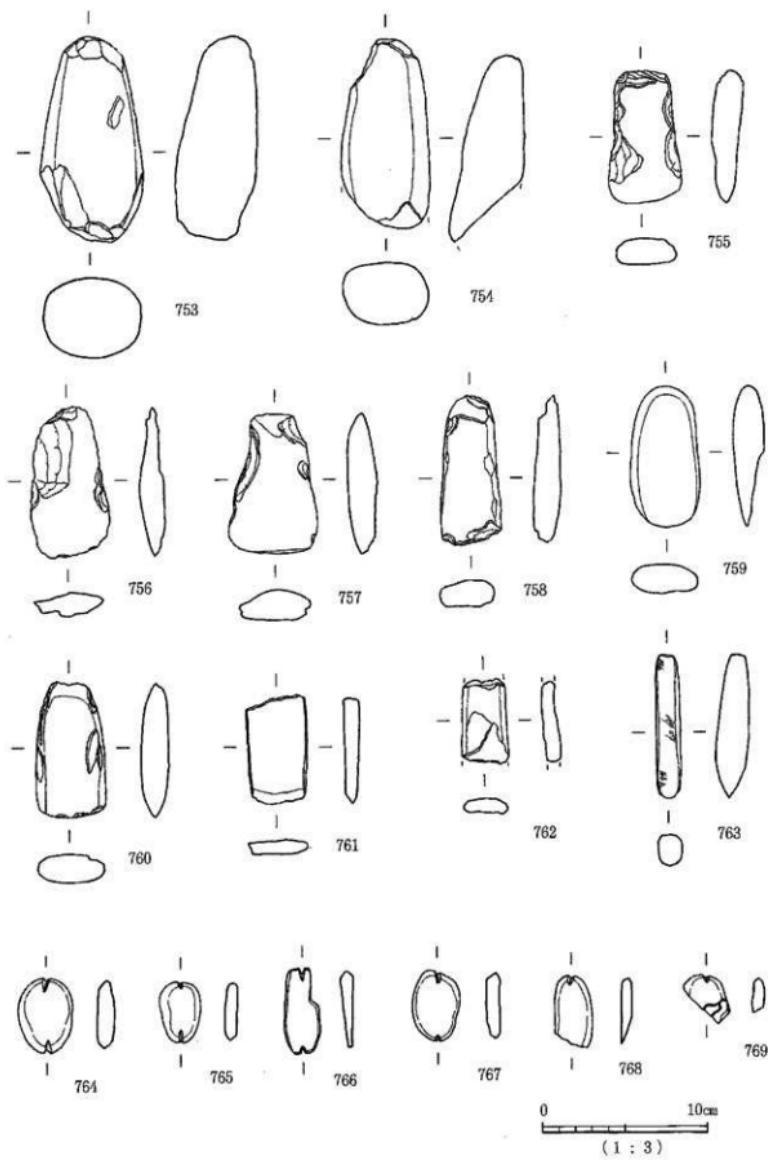
第146図 包含層出土遺物 (13) (1/4、1/2)

795～815は磨石である。尾鈴山系酸性岩製のものが散見される。815～819は敲石。側面に敲打痕を持ち、816・817・819は平坦面に凹みを持つ。820は凝灰岩の表皮剥片で、周囲に刃こぼれ状の使用痕が見られる。821は砂岩を、822は凝灰岩を用いた砥石である。830は凝灰岩製の石皿で、使用面は著しう凹んでいる。

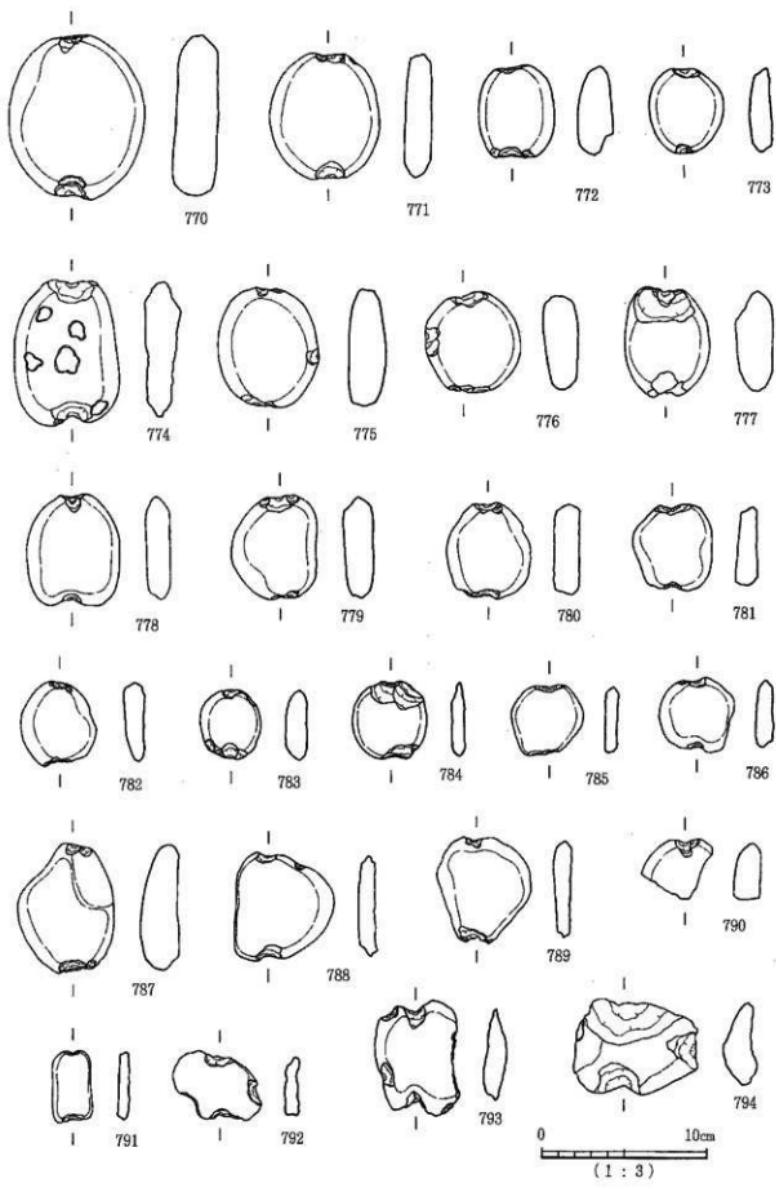
831～857は打製石器である。平面形により大まかに3群に分けられる。細身の二等辺三角形鐵、三角鐵、刃部がやや内湾し抉りの深い「鉄形鐵」である。前二者は、基部がわずかに窪むもの、基部の抉りが山形のもの、刃部が屈曲して開くもの等に細分される。858～869は尖頭状石器である。861は欠損のため全体形が明瞭でないが、両側縁に加え、下縁部まで刃部としての加工が認められることから鑿状石器と考えられる。黒曜石製。



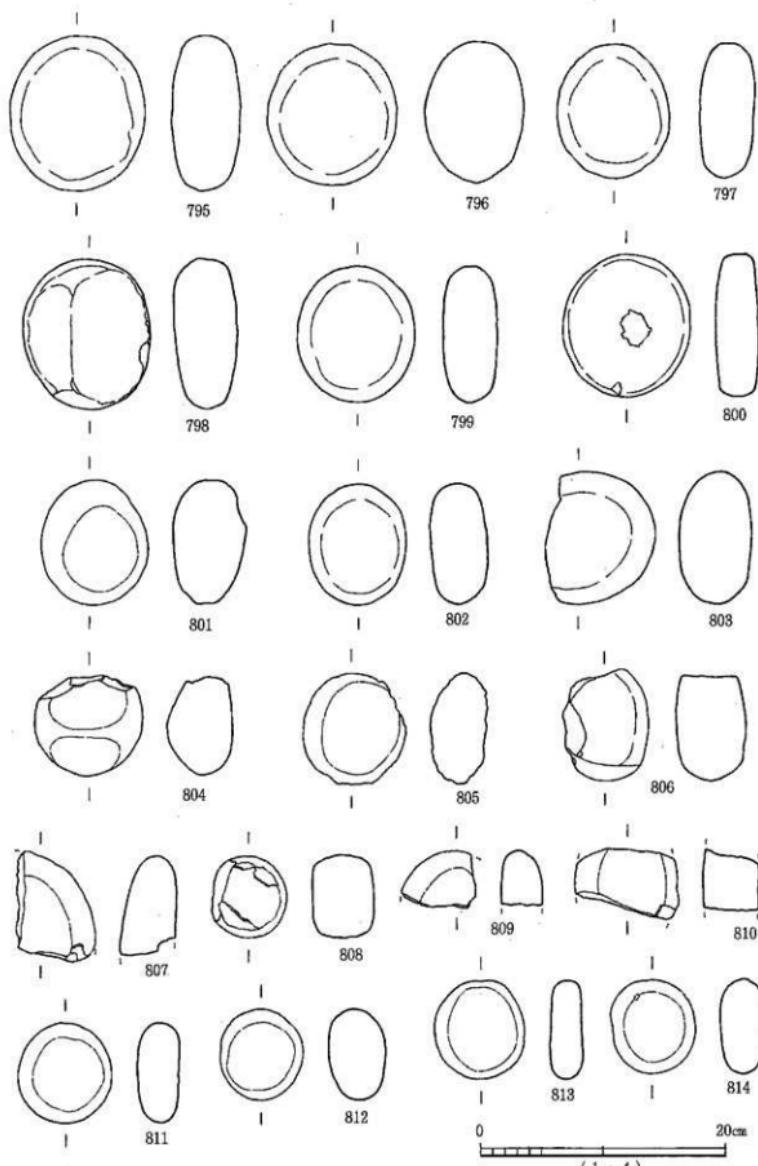
第147図 包含層出土遺物 (14) (1 / 3)



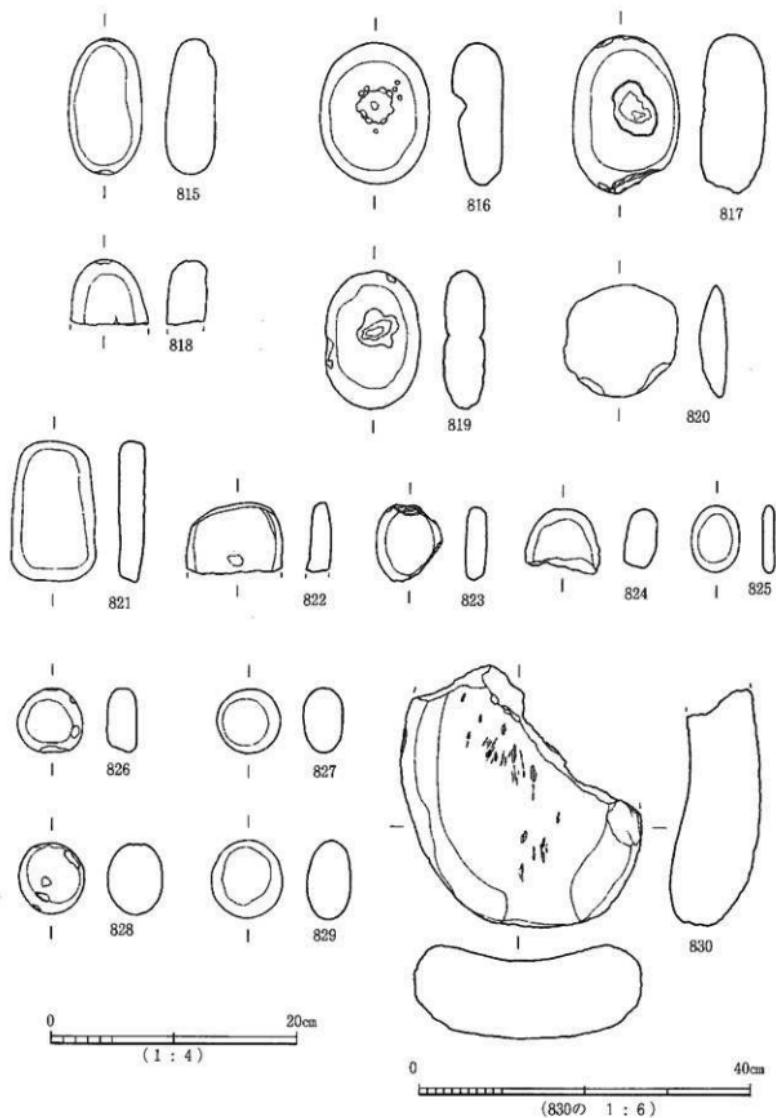
第148図 包含層出土遺物 (15) (1/3)



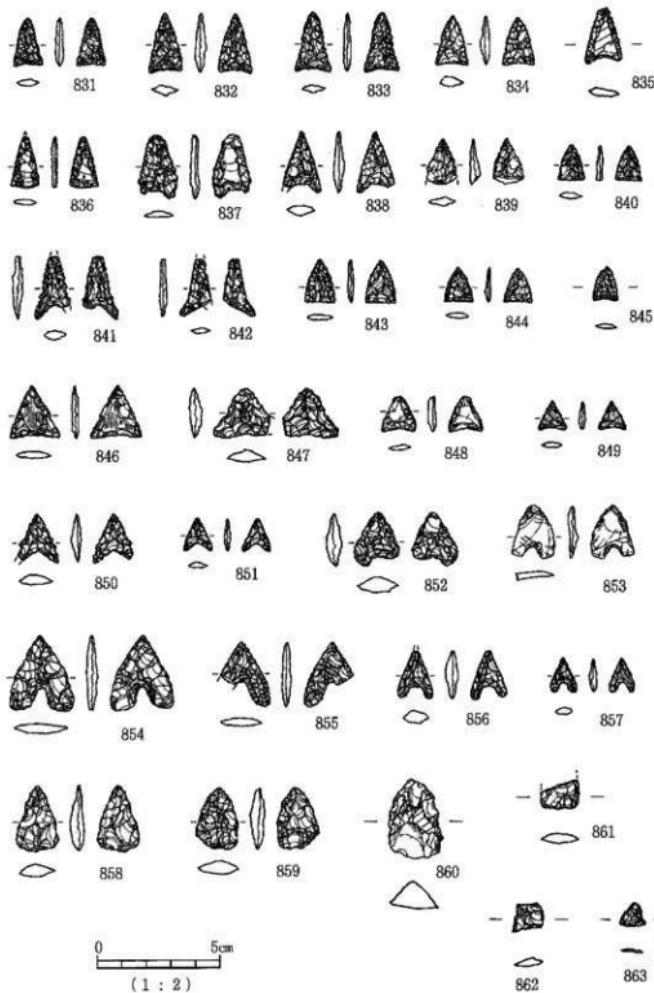
第149図 包含層出土遺物 (16) (1/3)



第150図 包含層出土遺物 (17) (1 / 4)



第151図 包含層出土遺物 (18) (1 / 3)



第152図 包含層出土遺物 (19) (1 / 3)

第19表 出土土器観察表 (9)

番号	種別	器 部 位	尚 古 地 立 口 件	底 径	高 さ	手伝・脚 外 面		手伝・脚 内 面		色 調		監上 の 特 徴	備 考
						外 面	内 面	外 面	内 面	外 面	内 面		
638	縄文	深鉢 口縁	SC4	(26.0)		ナデ		ナデ	褐灰	褐	1.5mm以下の褐色粒		スス付着
639	縄文	深鉢 口縁~肩部	SC9	(38.5)		貝殻模様+板文 沈縁文		貝殻条痕、ナデ	明赤褐	明赤褐	3mm以下の赤褐色、透明、黒色光沢粒		スス付着
640	縄文	深鉢 口縁~肩部	SC9			沈縁文		貝殻条痕、ナデ	明赤褐	明赤褐	2mm以下の赤色、透明光沢粒		スス付着
641	縄文	深鉢 口縁~肩部	SC9			浦文、沈縁文		ナデ	褐 灰褐色	褐	2mm以下の茶褐色、灰褐色、黒褐色、 黑色光沢		色彩
642	縄文	深鉢 口縁~肩部	SC27	(23.8)		貝殻模様+板文		貝殻条痕	灰黃褐色	褐	に赤い黄褐色		
643	縄文	深鉢 口縁	SC27	(28.4)		爪形文、凹縁文		貝殻条痕	褐	褐	3mm以下の茶褐色、灰褐色の粒		
644	縄文	深鉢 口縁	SC27			貝殻模様+板文		貝殻条痕	に赤い褐	褐	3mm以下の茶褐色、赤褐色、 透明光沢粒		
645	縄文	深鉢 口縁	SC30			貝殻模様+板文		貝殻条痕、ナデ	に赤い褐	褐	2mm以下の茶褐色、赤褐色、 透明光沢粒		
647	縄文	深鉢 口縁~肩部	SC33	(17.8)		貝殻条痕、ナデ		貝殻条痕、ナデ	に赤い褐	灰黃	2.5mm以下の淡茶色、黒褐色、 透明光沢粒		
655	縄文	土器片	SC34			ナデ		貝殻条痕、ナデ	褐	褐	2mm以下の乳白色、透明光沢粒		
659	縄文	深鉢 口縁	SC38			貝殻模様+板文		貝殻条痕	に赤い黄褐色	褐	3mm以下の乳白色、透明光沢粒		
660	縄文	深鉢 口縁~肩部	SC38			貝殻模様+板文 沈縁文		貝殻条痕	に赤い黄褐色	灰黃	2.5mm以下の乳白色、透明、 黑色光沢粒		
661	縄文	口縁~肩部	SC58	(27.6)		貝殻条痕、ナデ		貝殻条痕、ナデ	に赤い褐	褐灰	2.5mm以下の灰褐色、透明光沢粒		
662	縄文	深鉢 口縁	SC38			貝殻条痕		貝殻条痕	灰白	灰白	4mm以下の灰褐色、褐、乳白色の粒		
653	縄文	深鉢 口縁	SC39			進立文、沈縁文		貝殻条痕、ナデ	明赤褐	明赤褐	4mm以下の褐色、透明光沢粒		
655	縄文	口縁~肩部	SC41	(27.0)		進立文		貝殻条痕、ナデ	赤褐	明赤褐	3mm以下の褐色、透明光沢粒		スス付着
657	縄文	口縁~肩部	SC44	(25.4)		貝殻模様+板文 沈縁文、凹縁文		貝殻条痕、ナデ	褐	明赤褐 灰褐色	2mm以下の赤褐色、透明、黒色光沢粒		
658	縄文	深鉢 口縁	SC47			沈縁文、進立文		貝殻条痕、ナデ	灰褐色 赤褐	褐	に赤い褐 3mm以下の乳白、褐色の粒		
660	縄文	深鉢 口縁	SC48			凹縁文、凹縁文		ナデ	に赤い黄褐色	褐	2mm以下の赤褐色、黑色、黑色の粒		
661	縄文	口縁~肩部	SC54			貝殻模様+板文		貝殻条痕、ナデ	灰褐色	褐	に赤い黄褐色		
663	縄文	深鉢 口縁	SC54			貝殻条痕、ナデ		貝殻条痕、ナデ	に赤い黄褐色	褐	2mm以下の灰白色、灰、灰色、透明 光沢粒		空孔
664	縄文	深鉢 底部	SC54			ナデ、指痕板		ナデ	に赤い黄褐色	褐	2mm以下の灰白色、褐色、透明光沢粒	662, 663	
665	縄文	口縁~肩部	SC55			貝殻模様+板文		貝殻条痕	に赤い褐 に赤い黄褐色	褐	3mm以下の灰白色、透明光沢粒	664, 同一	
667	縄文	深鉢 口縁	SC57	(28.8)		沈縁文		ナデ	に赤い黄褐色	褐	2mm以下の灰白色、褐色、透明光沢粒		スス付着
668	縄文	山形~肩部	SC57	(34.0)		沈縁文		ナデ	に赤い褐 灰褐色	褐	2mm以下の灰白色、黑色、黑色の粒		
669	縄文	口縁~底部	SC57	18.6	8.5	貝殻条痕、ナデ		貝殻条痕、指ナデ	灰褐色	褐	に赤い黄褐色		
670	縄文	口縁~底部	SC57			沈縁文		ナデ	灰褐色 灰	浅黃	3mm以下の灰褐色、灰褐色の粒		
671	縄文	深鉢 口縁	SC57			沈縊文		貝殻条痕、ナデ	に赤い黄褐色	褐	2mm以下の灰褐色の粒		
672	縄文	深鉢 口縁	SC57			沈縊文		貝殻条痕	に赤い褐 に赤い黄褐色	褐	1mm以下の灰白色、褐色の粒		
673	縄文	深鉢 口縁	SC57			貝殻模様+板文 凹縁文		貝殻条痕	に赤い褐	褐	2mm以下の灰白色、透明光沢粒		
674	縄文	深鉢 口縁	SC57			貝殻模様+板文		貝殻条痕	黄褐	明赤褐	5mm以下の茶褐色、透明、黑色光沢粒		
675	縄文	深鉢 制部	SC57			沈縊文		貝殻条痕、ナデ	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	褐	2mm以下の灰褐色、黑褐色の粒		
676	縄文	深鉢 口縁	SC57			沈縊文、ミガキ		ナデ	褐	褐	2.5mm以下の灰白色の粒		
677	縄文	口縁~底部	SC57	(22.8)		ナデ		ナデ	灰黃褐色	灰黃褐色	4mm以下の茶褐色、乳白色 半透明光沢粒		風化
678	縄文	口縁~肩部	SC57	(27.8)		貝殻条痕、ナデ		ナデ	褐 褐灰	褐	1mm以下の茶褐色、乳白色 半透明光沢粒		
679	縄文	深鉢 制部	SC57	11.0		凹縁文		ナデ	黄褐	褐 灰褐色	1mm以下の茶褐色、乳白色 半透明光沢粒		
682	縄文	深鉢 口縁~制部	SC58			凹縁文		貝殻条痕、ナデ	に赤い褐 暗赤褐色	暗赤褐色	2mm以下の茶褐色、黑色、褐色 半透明光沢粒		
683	縄文	深鉢 口縁	SC58			貝殻模様+板文 凹縁文		貝殻条痕、ナデ	暗赤褐色	暗赤褐色	3mm以下の茶褐色、黑色 半透明光沢粒		
684	縄文	口縁~底部	SC64	(23.8)	8.9	(24.45)		貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕	に赤い黄褐色	2.5mm以下の茶褐色、乳白色 半透明光沢粒		スス付着 植物付着
686	縄文	深鉢 口縁	埋没			沈縊文		貝殻条痕	に赤い褐	褐	1mm以下の茶褐色の粒白色、灰、褐色 半透明光沢粒		
687	縄文	深鉢 口縁~山形部	44-21			埋没縊文		貝殻条痕	明赤褐	褐	4mm以下の茶褐色、灰褐色の粒		
688	縄文	深鉢 口縁	30-30	I a		凹縁文		貝殻条痕	浅黃	浅黃	2mm以下の茶褐色、乳白色 半透明光沢粒		
689	縄文	深鉢 口縁~肩部	—			四縊文		貝殻条痕、ナデ	に赤い褐	褐灰	1mm以下の乳白色、黑色粒		スス付着

第20表 出土土器観察表 (10)

遺物 番号	種別	器 種 類	出 土 地 点	法 量(cm)			手作・輪作・文様ほか		色 調		土の特徴	備考
				口 径	底 径	高 さ	外 面	内 面	外 面	内 面		
690	縄文	深鉢 口縁	46-22 II				沈織文	ヨコナデ	灰褐色 灰黄褐色	に赤い黄褐色 に赤い褐色	3mm以下の灰白、灰色 透明、無光沢	スス付着
691	縄文	深鉢 口縁	45-22 II				沈織文	貝殻条痕、ナデ	に赤い褐色 に赤い褐色	に赤い褐色 に赤い褐色	3mm以下の灰白、青褐色の粒 青色光沢	
692	縄文	口縁-口縁	-				沈織文	貝殻条痕	に赤い褐色 に赤い褐色	に赤い褐色 に赤い褐色	3mm以下の灰白、黑色 青色光沢	
693	縄文	深鉢 口縁	44-21 Ic				沈織文、縄文	ナデ	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	に赤い黄褐色 に赤い黄褐色	3mm以下の灰白、白色 の粒 3mm以下の白、赤、褐色の粒	空孔
694	縄文	口縁	31-22 II				貝殻腹縫合直文 凹縫文	貝殻条痕、ナデ	に赤い褐色 に赤い褐色	に赤い褐色 に赤い褐色	2mm以下の灰白、黑、褐色の粒 透明、無光沢	
695	縄文	深鉢 口縁	38-19 I	(28.0)			貝殻腹縫合直文 凹縫文	貝殻条痕、ナデ	桔 黒褐色	明赤褐色 明赤褐色	3mm以下の白、赤、褐色の粒 透明、無光沢	
696	縄文	口縁	47-22 II II	(25.6)			貝殻腹縫合直文	貝殻条痕、ナデ	桔	明赤褐色 明赤褐色	3mm以下の白、赤、褐色の粒 透明、無光沢	
697	縄文	口縁	-				貝殻腹縫合直文	ナデ	桔	明赤褐色 明赤褐色	2.5mm以下の褐色、透明光沢粒	
698	縄文	深鉢 口縁	-				貝殻文	貝殻条痕、ナデ	相 明赤褐色	1mm以下の淡黃色 透明光沢粒		
699	縄文	口縁-脚部	-	(22.0)			貝殻腹縫合直文 凹縫文	貝殻条痕	桔	に赤い褐色 明褐色	3mm以下の赤褐色、透明光沢粒	
700	縄文	深鉢 口縁-脚部	38-21 Ic				貝殻腹縫合直文 凹縫文	貝殻条痕、ナデ	桔 灰褐色	に赤い褐色 明褐色	2mm以下の白、赤、白色 透明光沢粒	
701	縄文	深鉢 口縁	-				貝殻腹縫合直文 凹縫文	貝殻条痕	暗褐色 暗褐色	に赤い褐色 暗褐色	淡褐色、透明光沢粒	
702	縄文	口縁-脚部	-				貝殻腹縫合直文	貝殻条痕	桔	に赤い褐色 暗褐色	2mm以下の褐色の粒	
703	縄文	深鉢 口縁	-				貝殻腹縫合直文	貝殻条痕	に赤い褐色 灰褐色	に赤い褐色 灰褐色	2.5mm以下の灰白、暗褐色の粒	
704	縄文	深鉢 口縁	40-20 Ic				貝殻腹縫合直文	貝殻条痕、ナデ	ナデ 灰褐色	4mm以下の灰白、灰白色 透明光沢粒		スス付着
705	縄文	深鉢 口縁	-				貝殻腹縫合直文	貝殻条痕	桔 灰褐色	3mm以下の赤褐色、暗褐色 透明光沢粒		
706	縄文	深鉢 口縁	-				貝殻腹縫合直文	貝殻条痕	桔 灰褐色	2mm以下に赤い褐色 灰白色、透明光沢粒		
707	縄文	口縁-底部付近	-	(15.6)			貝殻腹縫合直文	貝殻条痕	桔 灰褐色	に赤い褐色 灰褐色	5mm以下の白、灰白色 透明光沢粒	
708	縄文	深鉢 口縁-底部付近	39-30 II	(10.0)			貝殻腹縫合直文	貝殻条痕	桔 灰褐色	に赤い褐色 灰褐色	2mm以下の白、灰白色的粒 透明、無光沢	スス付着
709	縄文	口縁-底部付近	-				貝殻腹縫合直文	貝殻条痕、ナデ	桔 赤褐色	3mm以下の赤、灰白色 透明、無光沢		スス付着
710	縄文	深鉢 口縁	38-19 Ic				織文、沈織文	ミガキ状ナデ	褐灰	2mm以下の灰白、白、褐色の粒 透明		
711	縄文	深鉢 口縁	38-20 Ic				刺文、縄文、ミ ガキ	ミガキ状ナデ	黑	2mm以下の灰白色の粒 透明		
712	縄文	深鉢 脚部	38-21 I 38-21 II				沈織文、縄文、ミ ガキ	ミガキ状ナデ	灰褐色 灰褐色	2mm以下の灰白、灰褐色 透明、無光沢		
713	縄文	深鉢 脚部	38-20 Ib				比縫文、織文	ナデ	に赤い褐色 灰褐色	に赤い褐色 灰褐色	5mm以下の白、灰、褐色の粒	
714	縄文	深鉢 脚部	38-20 Ib				沈織文、縄文、ミ ガキ	ミガキ状ナデ	灰褐色 灰褐色	3.5mm以下の白、灰、褐色の粒		
715	縄文	深鉢 口縁	-				ナデ	沈織文、逆立文	明赤褐色 灰褐色	に赤い褐色 灰褐色	0.8mm以下の灰白色、透明光沢	
716	縄文	深鉢 口縁	38-19 Ib				ナデ	逆立文	褐灰	3mm以下の白、灰、白 透明		
717	縄文	内付皿 脚部	39-21 Ic	(9.6)			爪形文、沈織文	ナデ	に赤い褐色 灰褐色	に赤い褐色 灰褐色	1mm以下の灰白色の粒 透明	透し
718	縄文	内付皿 脚部	-				貝殻腹縫合直文 灰褐色	ナデ	に赤い褐色 灰褐色	4mm以下の灰白、灰褐色 透明光沢粒		
719	縄文	内付皿 脚部	39-18 Ic	(11.0)			沈織文、逆立文	ナデ	明赤褐色 灰褐色	に赤い褐色 灰褐色	4mm以下の灰白、灰褐色 透明光沢粒	透し
720	縄文	内付皿 脚部	39-20 Ib				貝殻腹縫合直文	ナデ	桔	5.5mm以下の灰褐色 透明光沢		
721	縄文	内付皿 脚部	-	10.0			逆立文、沈織文	ナデ	明赤褐色 灰褐色	2mm以下の灰白色 透明	2mm以下の灰白色 透明、無光沢	透し
722	縄文	内付皿 脚部	-	(9.0)			ナデ	ナデ	に赤い褐色 灰褐色	2mm以下の灰、灰白色 透明光沢		透し
723	縄文	内付皿 脚部	-	(8.3)			ナデ	ナデ	赤褐色 明赤褐色	3mm以下の灰白、黑色の粒 透明、黑色光沢		
724	縄文	内付皿 脚部	38-20 Ib	(12.3)			沈織文	ナデ	明赤褐色 灰褐色	2mm以下の灰褐色 透明、黑色光沢		
725	縄文	深鉢 底部	47-33 II	(9.9)			ナデ	-	に赤い褐色 灰褐色	3mm以下の灰白、黑、灰色の粒 透明		織物痕
726	縄文	深鉢 底部	47-25 Ib	7.5			ナデ	貝殻条痕、ナデ	に赤い褐色 灰褐色	4mm以下の灰白、灰、灰色の粒 透明		
727	縄文	深鉢 底部	-	9.85			貝殻条痕、ナデ	貝殻条痕、ナデ	に赤い褐色 灰褐色	3mm以下の灰白、黑、灰色の粒 透明		織物痕
728	縄文	口縁-脚部	42-31 Ib	(23.6)			ナデ	ナデ	に赤い褐色 灰褐色	3mm以下の灰白、灰、灰色の粒 透明		スス付着
729	縄文	深鉢 口縁-脚部	42-30 II				ミガキ	ミガキ	灰褐色 灰褐色	4mm以下の灰白、灰、灰色の粒 透明		
730	縄文	脚	7103				ナデ	-	に赤い褐色 灰褐色	2mm以下の灰白、黑、灰色 透明光沢		
731	縄文	土器片種	39-21 Ib				貝殻条痕	貝殻条痕	灰褐色 灰褐色	4mm以下の半透明光沢粒		
732	縄文	土器片種	45-21 Ib				ナデ	ナデ	に赤い褐色 灰褐色	1mm以下の白、透明 透明光沢		

第21表 出土石器計測表 (5)

遺物番号	器種	出土地點	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
645	磨石	SC27	(9.50)	(5.15)	(5.35)	362.2	尾鈴麻呂井	
654	石製品	SC38	7.00	6.75	1.30	87.3	砂岩	
656	スクレーパー	SC43	13.05	4.05	1.50	79.4	流紋岩	
659	石斧	SC44	(13.75)	(6.70)	(3.90)	475.3	砂岩	
666	石斧	SC56	(8.25)	(6.05)	(2.80)	168.5	頁岩	
680	石鍬	SC57	7.40	5.55	9.00	68.3	粘板岩	
681	磨石	SC57	(10.40)	(5.50)	(3.30)	174.5	安山岩	
685	岩石	SC65	10.50	9.40	4.50	460.5	鷹島凝灰岩	
733	礫器	34-211a	18.45	12.00	4.22	969.4	砂岩	
734	スクレーパー	40-191b	7.80	8.20	3.35	921.7	砂岩	
735	使用痕跡	40-361b	4.35	4.80	1.10	17.9	頁岩	
736	使用痕跡	37-217b	5.30	5.25	0.65	21.2	流紋岩	
737	使用痕跡	P209	3.15	5.60	1.50	23.7	頁岩	
738	石製品	39-211b	2.22	3.45	0.60	5.1	砂岩	
739	石斧	39-201	14.57	5.45	2.90	327.0	砂岩	
740	石斧	29-341	(10.80)	(6.25)	(3.60)	(355.8)	石岩	
741	石斧	38-261b	(8.85)	(5.78)	(3.75)	(223.2)	石岩	
742	石斧	37-171b	8.40	4.40	2.45	129.4	石岩	
743	石斧	41-151b	(6.60)	(6.10)	(2.90)	(130.9)	石岩	
744	石斧	38-181b	(7.63)	(4.75)	(2.45)	(141.3)	石岩	
745	石斧	39-211c	(7.63)	(5.25)	(2.80)	(177.1)	蛇紋岩	
746	石斧	42-201b	(7.63)	(5.53)	(2.00)	(130.1)	砂岩	
747	石斧	—	(8.95)	(7.10)	(3.60)	(353.4)	砂岩	
748	石斧	37-171b	(6.98)	(6.85)	(3.90)	(223.0)	砂岩	
749	石斧	—	(9.32)	(6.10)	(2.10)	(176.5)	砂岩	
750	石斧	35-22-1b	9.90	4.90	2.60	186.5	砂岩	
751	石斧	36-181b	(9.05)	(3.85)	(2.46)	(122.1)	砂岩	
752	石斧	38-201b	7.63	3.88	2.80	140.6	砂岩	
753	石斧	44-21 II	12.45	6.30	4.95	568.3	砂岩	
754	石斧	41-291b	11.53	5.40	3.80	285.6	砂岩	
755	石斧	45-211b	8.10	4.48	1.70	90.1	砂岩	
756	石斧	40-201b	9.20	4.80	1.50	75.2	砂岩	
757	石斧	38-211b	8.50	4.92	1.80	103.2	砂岩	
758	石斧	—	9.10	3.65	1.65	88.2	砂岩	
759	石斧	—	8.55	4.25	1.85	91.0	砂岩	
760	石斧	38-201b	8.20	4.25	1.70	96.2	砂岩	
761	石斧	37-201b	(3.78)	(6.65)	(0.90)	(42.7)	砂岩	
762	石斧	39-181b	(3.18)	(2.85)	(0.80)	(23.6)	砂岩	
763	石斧	38-211b	(8.72)	(1.45)	(1.90)	(42.9)	砂岩	
764	石鍬	42-241b	4.10	3.40	1.00	23.2	砂岩	
765	石鍬	P21	3.70	2.55	0.75	11.0	砂岩	
766	石鍬	30-301a	5.20	2.15	0.80	12.0	砂岩	
767	石鍬	—	4.30	2.95	0.85	18.2	砂岩	
768	石鍬	40-251b	(4.40)	(2.35)	(0.80)	(10.1)	砂岩	

遺物番号	器種	出土地點	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
769	石鍬	40-181b	(2.00)	(2.80)	(0.65)	(6.6)	砂岩	
770	石鍬	40-221b	10.00	8.40	2.70	348.2	砂岩	
771	石鍬	38-181c	7.70	6.70	1.70	135.7	砂岩	
772	石鍬	43-211b	5.60	4.66	2.15	85.5	砂岩	
773	石鍬	38-191b	5.20	4.50	1.35	46.5	砂岩	
774	石鍬	41-231a	8.90	6.45	2.15	180.7	砂岩	
775	石鍬	38-211b	7.30	6.15	2.25	151.6	砂岩	
776	石鍬	—	6.20	5.85	2.10	109.3	砂岩	
777	石鍬	38-251b	6.60	5.20	2.30	114.2	砂岩	
778	石鍬	44-211I	6.85	5.70	1.80	102.3	砂岩	
779	石鍬	—	6.30	5.25	1.85	95.3	砂岩	
780	石鍬	35-221b	5.90	5.10	1.60	72.5	砂岩	
781	石鍬	—	5.20	4.80	1.35	51.3	砂岩	
782	石鍬	39-171b	5.20	4.60	1.35	45.3	砂岩	
783	石鍬	38-171b	4.30	3.70	1.35	28.7	砂岩	
784	石鍬	39-181b	4.70	4.50	0.80	27.5	砂岩	
785	石鍬	P19	4.30	4.40	0.80	28.4	砂岩	
786	石鍬	38-201b	4.60	4.50	1.10	37.4	砂岩	
787	石鍬	—	6.20	5.85	2.10	109.3	砂岩	
788	石鍬	38-171b	6.60	6.10	1.05	70.9	砂岩	
789	石鍬	43-221b	6.50	5.70	1.15	55.4	砂岩	
790	石鍬	38-191c	(3.60)	(4.36)	(1.60)	(32.5)	砂岩	
791	石鍬	36-211a	4.40	2.50	0.85	14.1	砂岩	
792	石鍬	46-23 II	4.15	3.45	0.90	27.0	蛇紋岩	
793	石鍬	39-221b	7.00	5.00	1.30	54.7	砂岩	
794	石鍬	39-221b	5.70	7.60	1.85	72.2	凝灰岩	
795	磨石	41-231b	12.15	11.00	5.60	1230.0	尾鈴酸性岩	
796	磨石	39-241b	11.50	10.55	8.20	1410.0	砂岩	
797	磨石	29-34-II	11.00	9.25	4.40	696.7	馬鈴酸性岩	
798	磨石	38-121b	12.50	10.05	5.20	925.0	砂岩	
799	磨石	32-23 II	11.0	9.6	4.50	754.3	尾鈴酸性岩	
800	磨石	39-261e	11.60	10.65	3.45	731.4	砂岩	
801	磨石	P35	10.15	8.78	5.95	703.1	砂岩	
802	磨石	39-201c	9.85	7.85	4.70	561.3	砂岩	
803	磨石	40-211c	10.85	9.05	6.20	962.5	尾鈴酸性岩	
804	磨石	38-311c	(8.17)	(8.80)	(5.25)	(545.9)	砂岩	
805	磨石	P18	9.02	8.40	4.60	486.2	凝灰岩	
806	磨石	37-211c	(9.10)	(6.90)	(5.70)	(603.4)	尾鈴酸性岩	
807	磨石	39-201b	(8.98)	(6.50)	(4.45)	(324.2)	砂岩	
808	磨石	45-211b	6.55	6.10	5.25	365.9	尾鈴酸性岩	
809	磨石	40-211c	(4.65)	(6.05)	(3.95)	(122.9)	砂岩	
810	磨石	34-211a	(8.42)	(8.76)	(4.55)	(309.9)	尾鈴酸性岩	
811	磨石	28-35-4	8.18	7.65	3.35	299.3	砂岩	
812	磨石	40-211c	7.10	6.75	4.60	321.7	砂岩	

第22表 出土石器計測表 (6)

遺物 番号	器種 地點	出土 上	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
813	磨石	—	8.03	7.30	2.75	235.7	砂岩	
814	磨石	—	7.68	6.92	3.45	267.8	砂岩	
815	磨石	36-151a	11.08	6.00	4.05	370.5	砂岩	
816	磨石	F119	11.50	8.80	4.10	587.4	砂岩	
817	磨石	23-35 II	12.90	8.60	5.20	841.0	砂岩	
818	磨石	30-201a	(5.35)	(6.28)	(3.20)	(145.9)	砂岩	
819	磨石	38-181c	11.15	7.70	3.25	291.9	砾灰岩	
820	农皮剥片	—	9.12	9.22	2.05	140.0	砾灰岩	
821	砾石	40-201b	11.30	6.80	2.00	308.9	砂岩	
822	砾石	39-201b	5.80	7.80	1.85	90.3	砾灰岩	
823	磨石	38-211b	(6.20)	(5.40)	(1.65)	(76.9)	砂岩	
824	磨石	38-191b	(6.30)	(6.00)	(2.50)	(107.7)	砂岩	
825	磨石	F8	5.40	3.80	0.90	31.5	砂岩	
826	磨石	29-31b	5.15	5.20	2.30	91.6	砂岩	
827	磨石	40-211c	5.25	5.20	3.20	121.0	砂岩	
828	磨石	39-177b	5.65	5.30	4.40	174.1	砂岩	
829	磨石	41-181c	6.30	5.70	3.55	176.6	砂岩	
830	石皿	—	(32.30)	(28.70)	(10.30)	(11,000.0)	砾灰岩	
831	石器	—	2.00	1.15	0.35	0.6	黑耀石	
832	石器	—	2.45	1.20	0.45	1.0	流紋岩	
833	石器	—	2.40	1.40	0.30	0.7	砾灰岩	
834	石器	32-18	2.00	1.30	0.40	0.8	頁岩	
835	石器	44-21 II	2.30	1.52	0.30	1.0	砾角砾岩	
836	石器	30-201a	(2.05)	1.10	0.25	0.5	黑耀石	
837	石器	41-201c	2.60	1.85	0.30	1.2	黑耀石	
838	石器	33-20	2.50	1.55	0.45	1.1	頁岩	

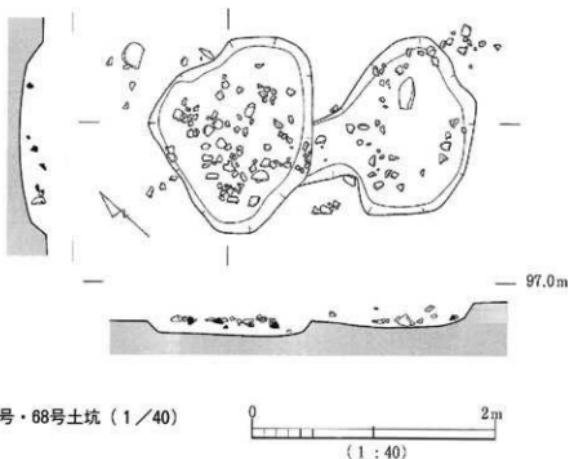
遺物 番号	器種 地點	出土 上	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
839	石器	—	—	1.80	1.20	0.40	0.7	チャート
840	石器	30-201a	—	1.40	1.10	0.25	0.4	黑耀石
841	石器	—	(2.60)	(1.40)	0.40	1.0	頁岩	
842	石器	40-201b	(2.30)	(1.80)	0.30	0.60	黑耀石	
843	石器	30-201a	—	1.70	1.20	0.20	0.4	黑耀石
844	石器	30-201a	—	1.40	1.10	0.20	0.3	黑耀石
845	石器	35-181a	—	1.38	1.02	0.20	0.1	チャート
846	石器	23-341a	—	2.10	2.00	0.55	1.0	頁岩
847	石器	26-321a	—	2.00	2.30	0.50	1.7	流紋岩
848	石器	47-23 II	—	1.40	1.40	0.30	0.6	頁岩
849	石器	35-311a	—	1.20	1.10	0.30	0.3	黑耀石
850	石器	30-201a	(2.00)	(1.65)	0.45	0.8	チャート	
851	石器	41-32	—	1.30	1.10	0.25	0.2	流紋岩
852	石器	—	—	2.20	1.85	0.65	1.9	チャート
853	石器	—	—	2.20	1.75	0.35	1.2	チャート
854	石器	—	—	3.10	2.60	0.45	2.7	チャート
855	石器	33-20	(2.60)	(2.00)	0.40	1.5	チャート	
856	石器	41-32	(1.95)	1.45	0.50	0.8	流紋岩	
857	石器	25-31 II	—	1.40	1.00	0.20	0.3	黑耀石
858	石器	30-201a	—	2.70	1.75	0.55	1.8	頁岩
859	石器	36-651a	—	2.80	1.70	0.60	2.0	黑耀石
860	石器	38-191b	—	3.25	2.25	1.08	8.4	流紋岩
861	石器	36-151b	(1.32)	(1.60)	(0.40)	(0.8)	黑耀石	
862	石器	36-151a	—	1.20	1.30	0.35	0.4	黑耀石
863	石器	36-211b	—	0.98	1.07	0.12	0.2	砾灰岩

## 3 IV層以下の造構・遺物

IV層下部で縄文時代早期の造構、遺物が確認されている。草創期の文化層の存在も予測されるところであるが、今回の調査では確認されていない。

造構が検出されたのは、後の時代の文化層の希薄であった調査地北東～東側(30～35～22～40区)や調査地北西側(30～34～14～18区)、それに調査地南東側(42～50～29～32区)辺りである。北東～東側は耕作による削平の影響もあり、表土除去後、直にIV層があらわれるといった状況であった。北西側と南東側については、縄文時代中期末～後期および近世の造構が稀少であると判断した段階で、III層を耕土し、IV層の掘り下げを進めていった。また旧農作業道北側の1号堅穴付近(33・34～19～21区)では、III層上面検出の造構の調査終了後にII層を耕土し、IV層の調査を行った。

上記の場所以外では、胃頭でも触れたように、期間の制約から当該文化層の調査は実施できなかった。もっとも、近世の造構の密集する遺跡の中央部では、表土(Ia層)と近世の遺物包含層(Ib層)の直下がV層・VI層ないしは基盤層となっており、Ia・Ib層中に早期土器や赤化粧が混入する状況が認められる。そのため、元来その付近は台地中央部の最も標高の高いところで、(おそらく建物の構築



第153図 67号・68号土坑 (1/40)

0 2m  
(1:40)

時期に) ある程度の地山掘削・整地を行ったとの推測も成り立つであろう。また、縄文時代中期以後の遺構掘削の遺物包含層に与える影響も大きかったであろう。

このように、断片的な調査になったきらいもあるが、それでも、北東～東側についてはある程度まとまった面積を対象に実施することができた。その成果は決して小さいものではない。

#### (1) 土坑

33-18～21区付近でIV層土の落ち込みが計18箇所検出された。ただし、ほとんどが不整な平面形をなすもので、人為的なものかどうか疑わしい。以下掲げる2基のみ、確実に遺構と認定できる。

##### 67号・68号土坑 (第153図)

32-18杭の北西約5m程のところで検出された。67号土坑を68号土坑が切ると見られるが、おそらく時期差はあったとしてもごくわずかであろう。

67号土坑は基本的には椭円形の土坑であろうが、北西側が開口するような形となっている。長径は1.5m、検出面からの深さは約20cmを測る。埋土中に角礫が計30個程認められた。

68号土坑はやや不整な椭円形を呈する。長径1.6m、短径1.3m、検出面からの深さは約30cm。この土坑中にも多数の角礫があり、赤化礫も認められた。なお、角礫はこれらの土坑の周囲からも出土している。

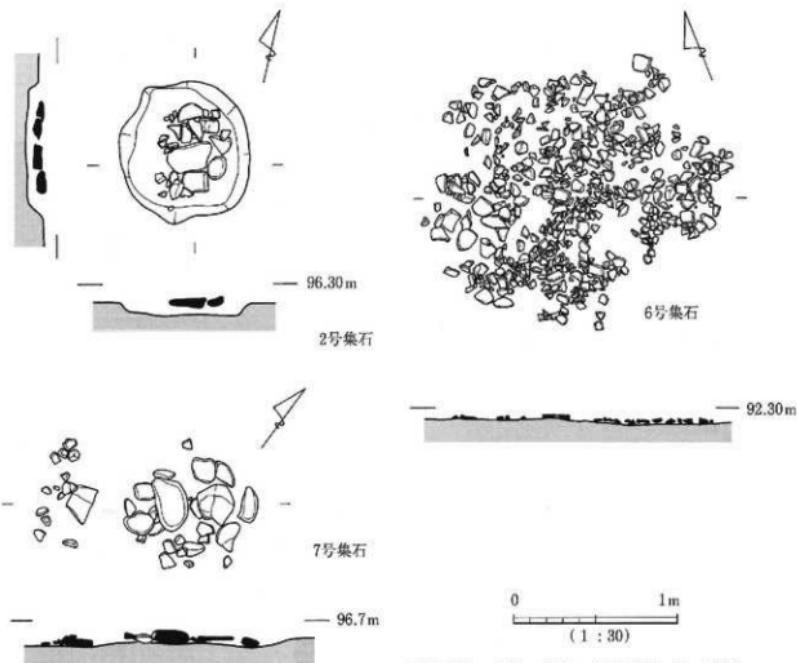
これらの用途は不明であるが、角礫を含むことから、次項で触れる集石遺構と関連が深いと考えられる。

#### (2) 集石

赤化礫を含む円礫、角礫の集積箇所である。該期の遺跡では、なかば普遍的に認められる遺構である。本遺跡での検出数は、番号を付したものだけで45基に上る。その他にごく弱い礫の集積箇所もいくつか確認されており、それらを含めるとさらに実数は多くなる。さらに、調査地南東端の48-49-32区にて、円礫、角礫が14m×7mの範囲にまんべんなく分布する、「礫群」と称すべき箇所が認められた。

これらの礫集積遺構について、個別に説明を加えることを避け、グルーピングを行って、その特徴を見ていきたい。

分類に際しては、近年の趨勢に従い、①土坑（掘り込み）の有無、②底石の有無、という2つの属性



第154図 2号・6号・7号集石 (1/30)

に注目し、その組み合わせで類型を設定した。また③構成礫の状態についても、特徴的なものに関しては着目することにする。土坑の有無についても

I…土坑を有する II…土坑を持たない とする。また、底石の有無に関しては、

a…底石を有する b…底石が無い とする。

例えば、下部に土坑があり、底石が無いものは、I b類となる。さらに、構成礫の状態に関して、[E]円礫のみで構成される [K]角礫のみで構成される とするが、分別不可能な場合が多いため、顕著な場合のみ、括弧つきで補助的に扱うことにとどめる。

#### I a類

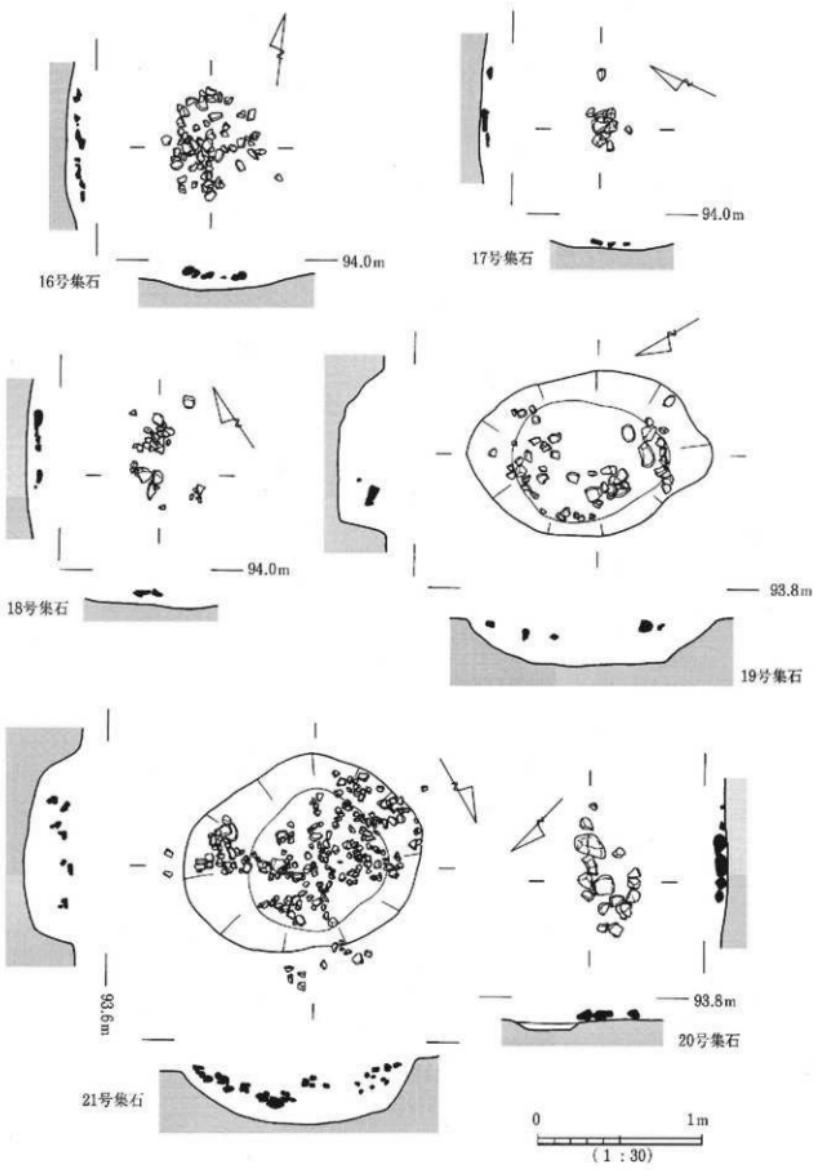
構成礫の数は少ないが、2号集石がこれに該当する(第154図)。底石の大きさは55cm×30cm。

#### I b類

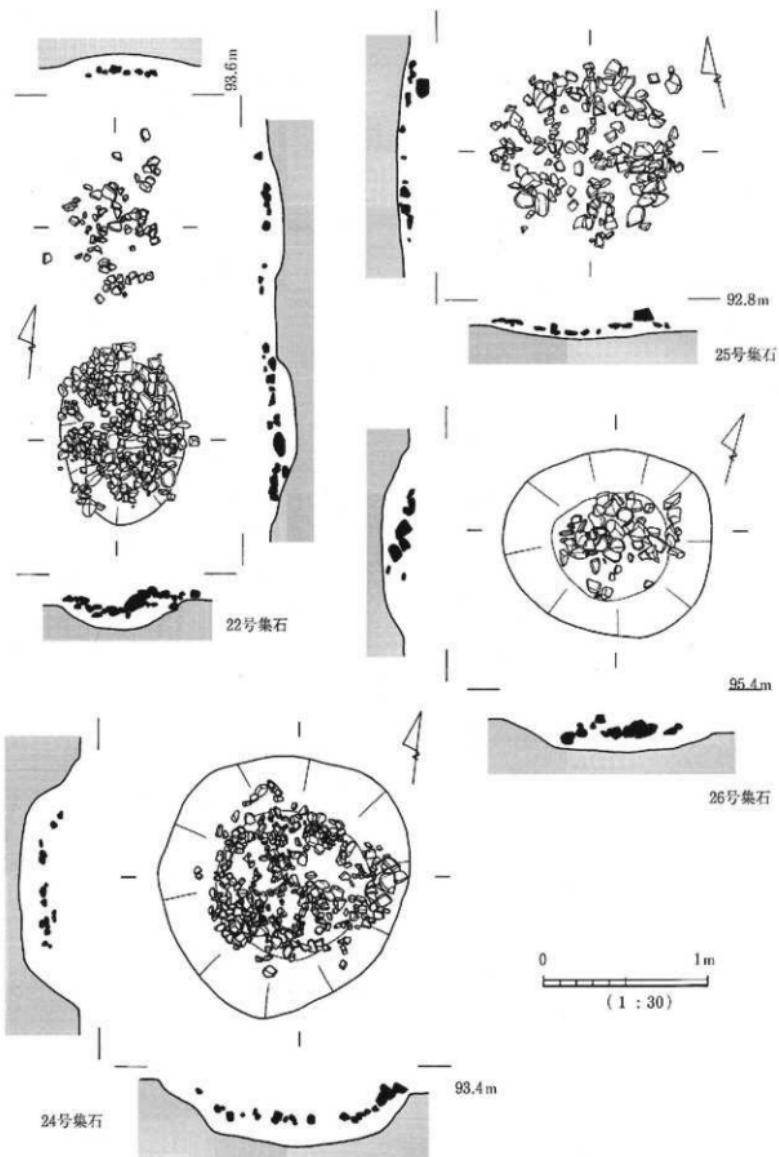
1号、19号、21号、22号、24号、26号、35号、40号、43号集石がこれに該当する。43号集石は、規模が抜きんでて大きいもので、黒褐色を呈するの埋土中には屑礫や炭化物を含む。また4号、30号、32号、38号、41号集石なども不明瞭ながら浅い凹部を持つようである。21号、24号、37号、38号、41号集石は礫の破碎度が高い(I b [K])。

#### I a類

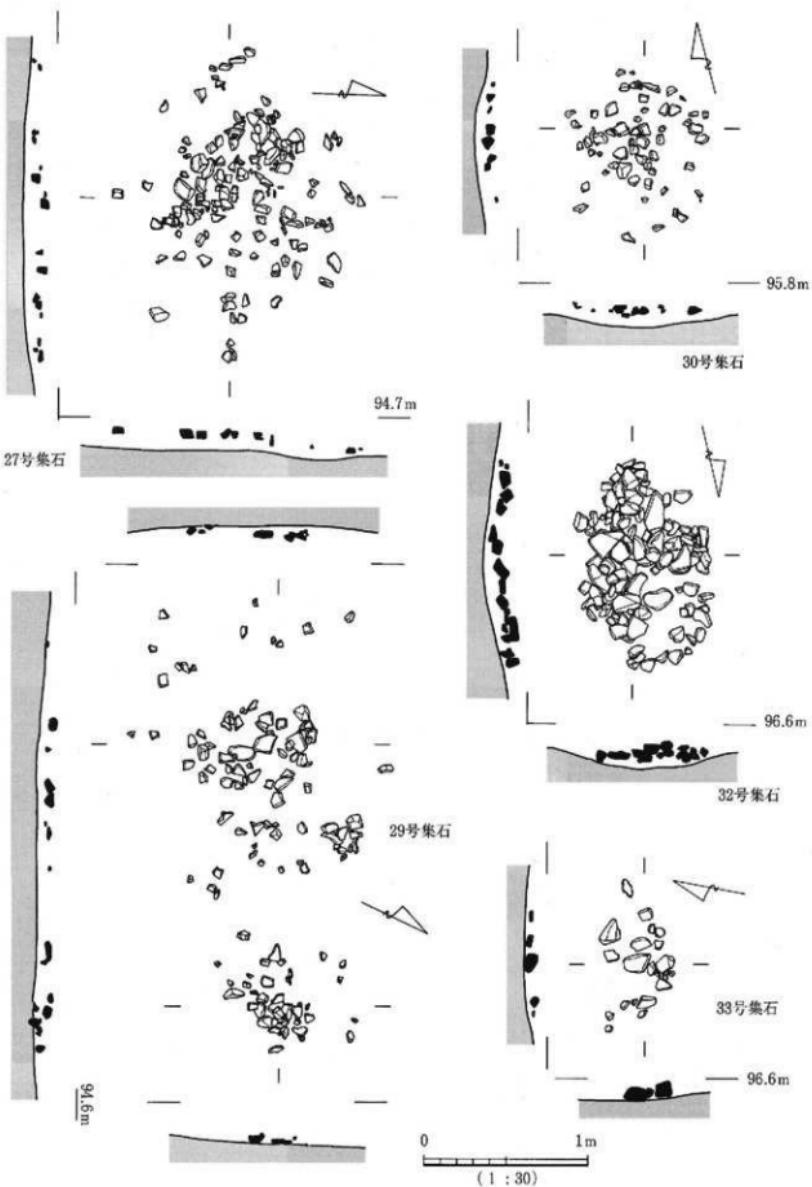
7号集石がこれに該当する可能性がある。ただし、ここに扁平礫はやや小振りで、底石と表現できるかどうか迷うところである。扁平礫は火熱を受けた痕跡が明瞭である。



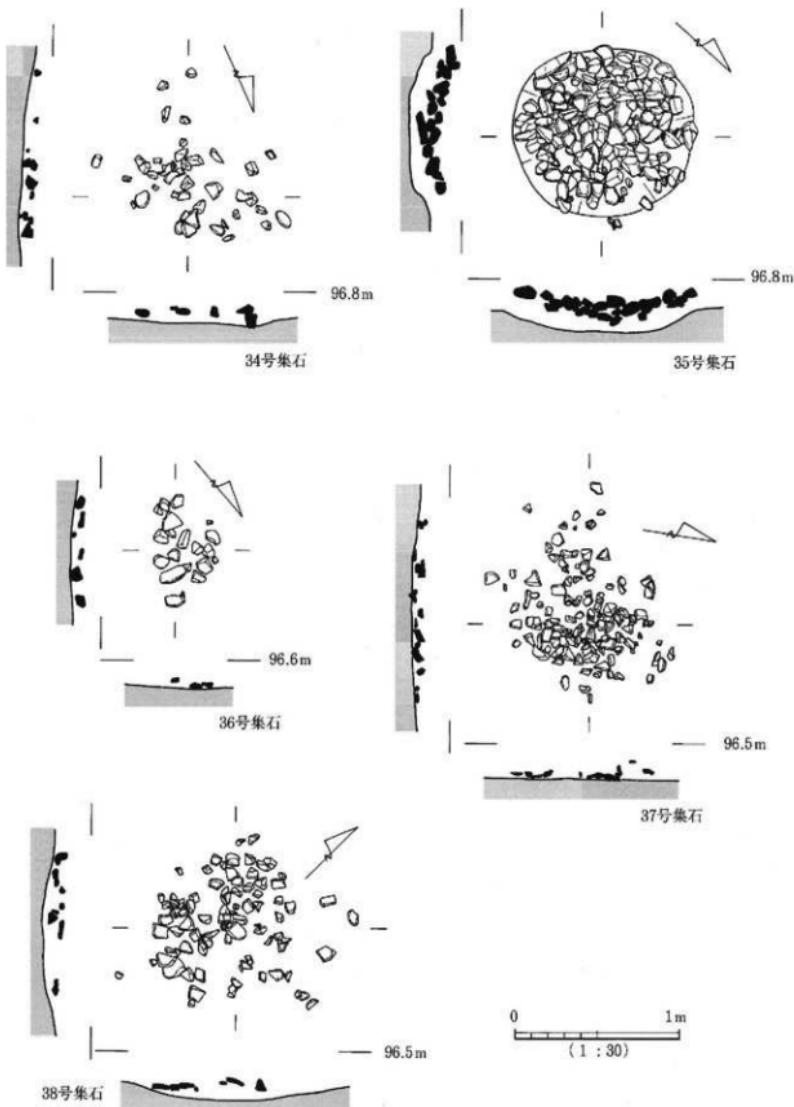
第155図 16~21号集石 (1 / 30)



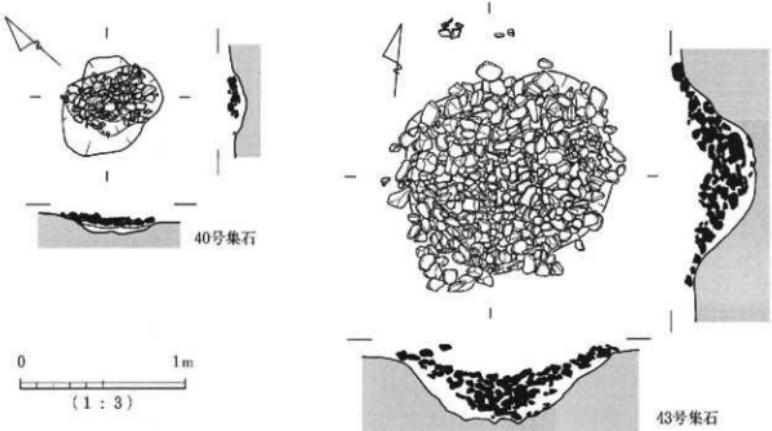
第156図 22~26号集石 (1 / 30)



第157図 27~33号集石 (1/30)



第158図 34~38号集石 (1/30)



第159図 40・43号集石

## II b 類

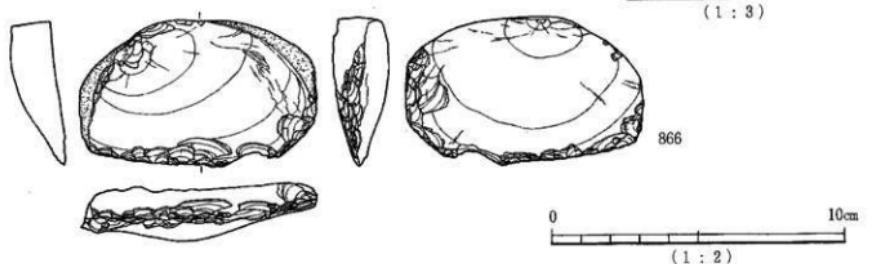
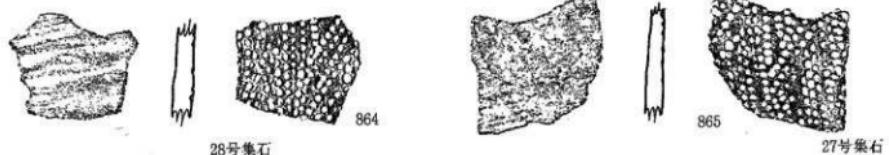
この類型に属するものが最も多い。ただし、規模（平面規模、構成礫の数）の差が大きく、機能的な面で、同一視できるのかどうかは不明である。平面規模が大きく構成礫の多いものは、6号集石がほぼ唯一の例である。平面規模が大きく構成礫の少ないものとしては、29号集石を挙げることができる。27号集石はそれらの中間に位置するか。平面規模が小さく構成礫が少ないものが最も多く、3号、5号、9号、10号、11号、12号、13号、17号、18号、20号、33号、34号、36号、41号、42号集石などが該当する。また22号集石の北側に、この類型に属する弱い礫の集積箇所がある。それらの構成礫はおしなべて細かに碎けた角礫が多い（II b [K]）。

なお、平面規模が小さく構成礫が多いものに該当する例はないようであるが、I類で同様の細分をするならば、40号集石がそれに當てはまるであろう。

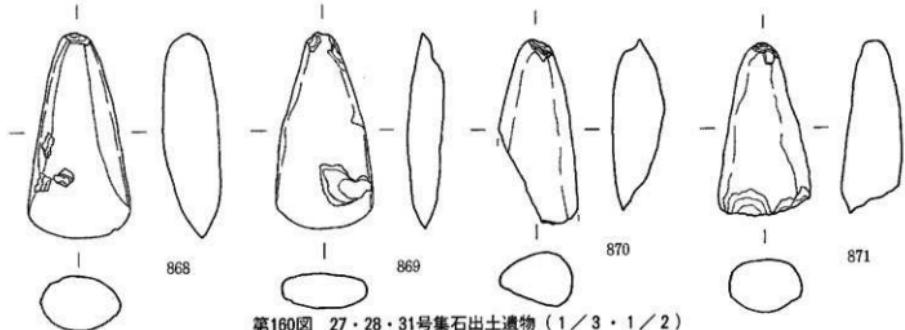
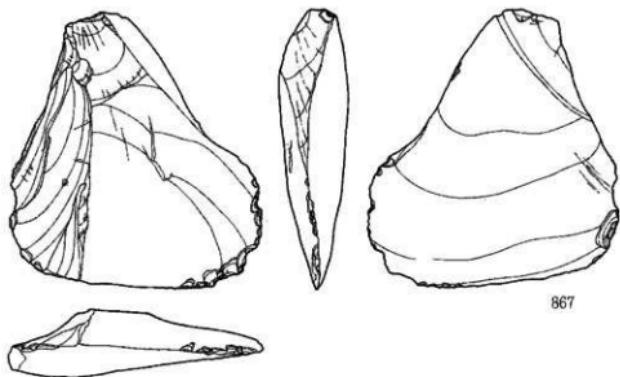
### (3) 包含層出土遺物

#### 土器（第160・162図）

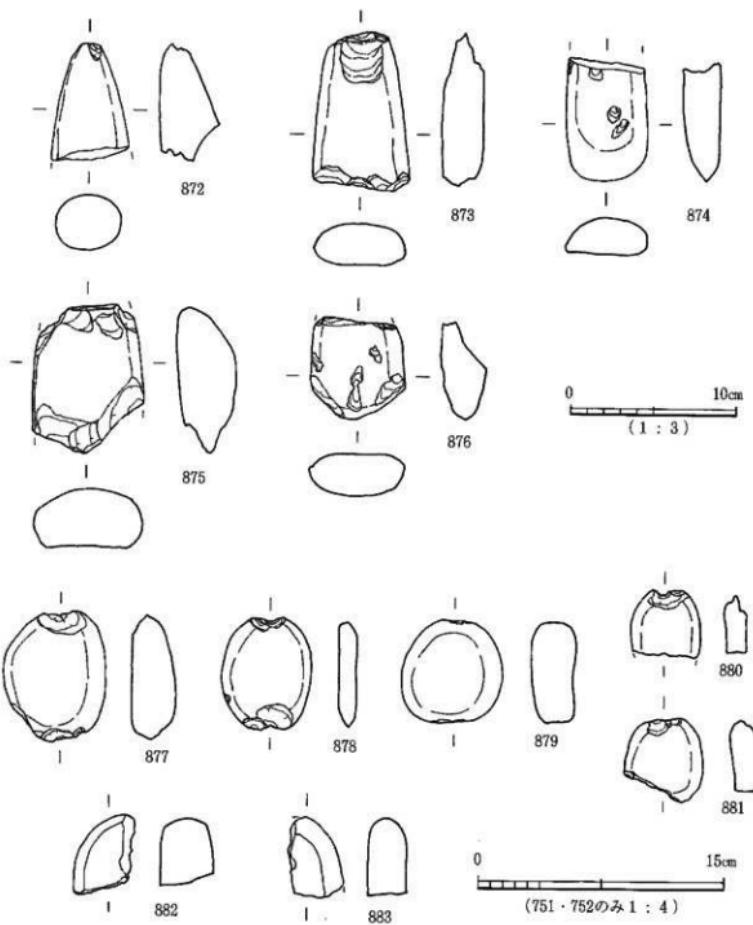
864と865は集石遺構付近より出土した土器片である。縦方向の貝殻腹縁による圧痕文を施す。884は厚手の器壁が特徴的なもので、外面には横方向の条痕を施す。885～890は外面に縦・斜方向の貝殻腹縁圧痕文を施し、楔形の貼り付け突起を付す。889はこの型式に属する底部。891は沈線による曲線文を描くもので、手向山式に属する固体か。892～895は平柄式あるいはそれと時期的に近接する型式であろう。892は波頂部に瘤状の突起を付す。そのため、掲載図面では肥厚しているように看取されかねないが、実際には肥厚はほとんど認められない。口縁部内面にも浅い刻みを施す。



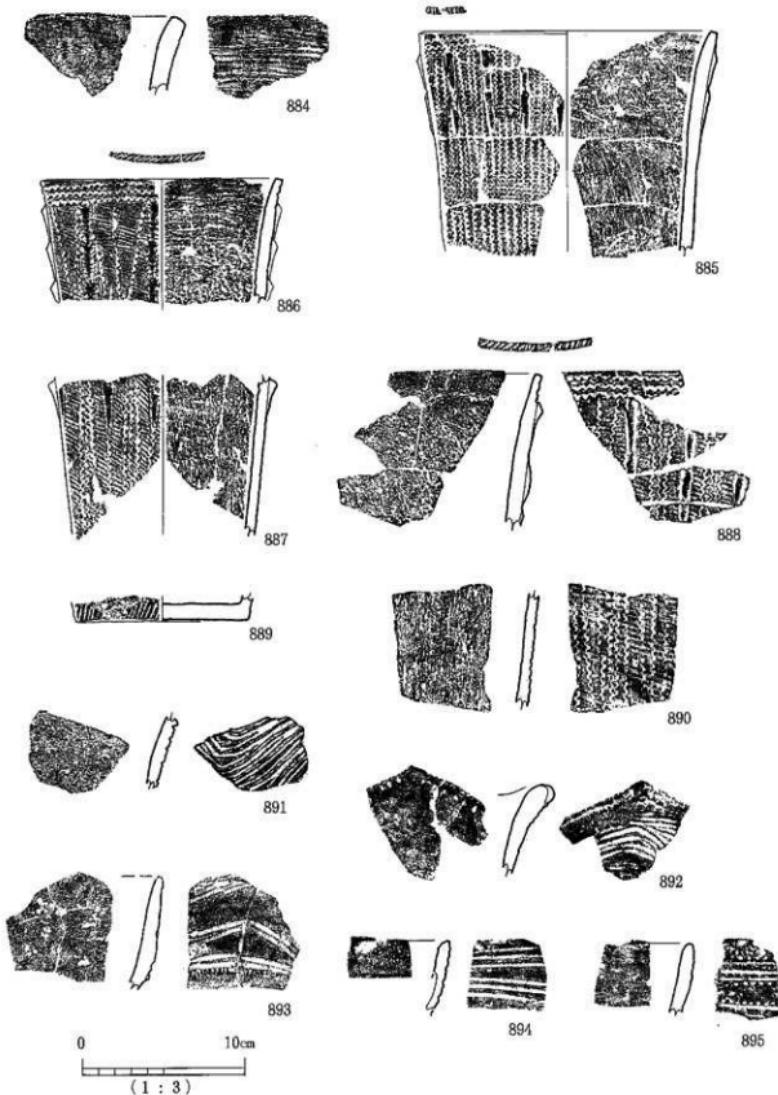
31号集石



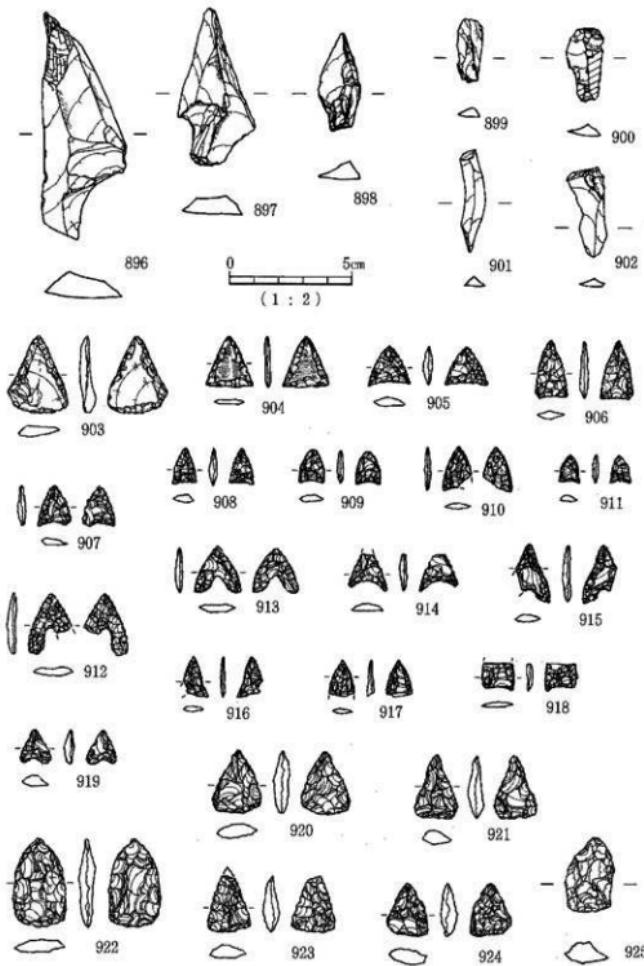
第160図 27・28・31号集石出土遺物 (1/3・1/2)



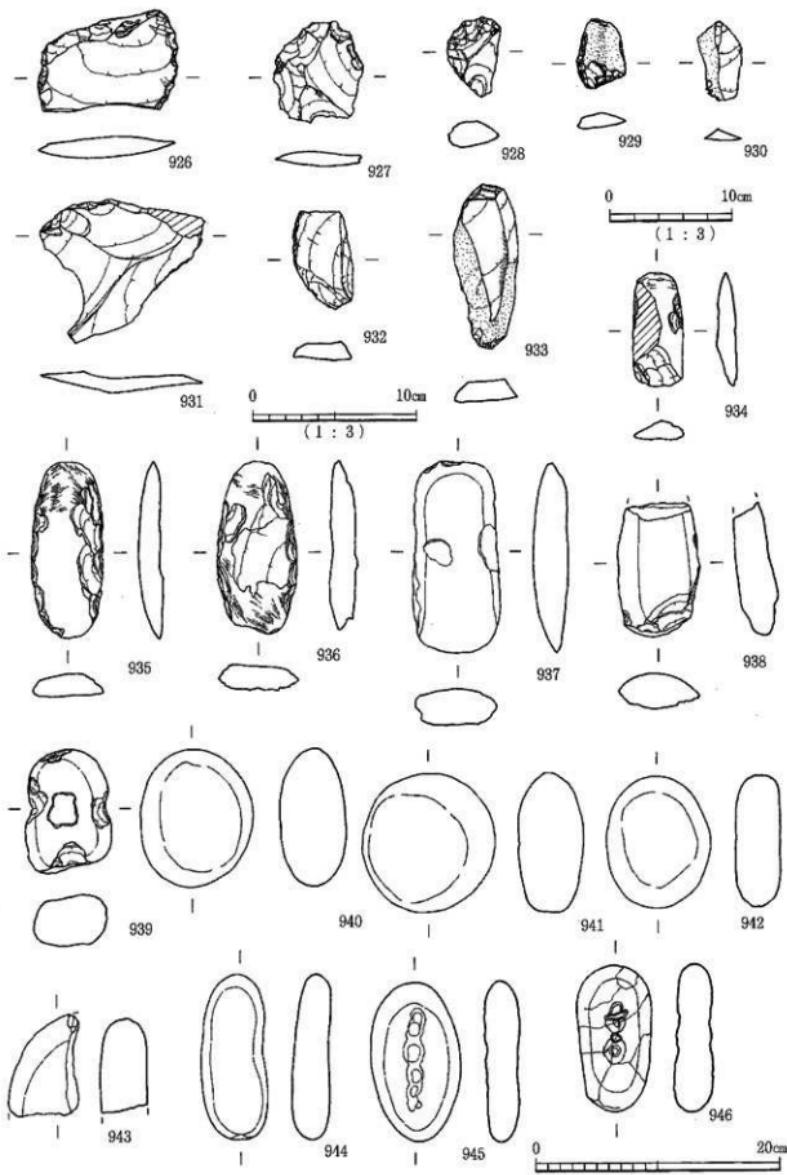
第161図 31号集石出土遺物 (1/3・1/4)



第162図 包含層出土遺物 (20) (1 / 3)



第163図 包含層出土遺物 (2) (1 / 2)



第164図 包含層出土遺物 (22) (1/2・1/3・1/4)

石器（第163・164図）

866はスクレイパーである。頁岩剥片の下縁と右側縁に両面からの剥離を加え刃部をしている。867は使用痕剥片で、三角形状の剥片の一角に刃こぼれ状の使用痕が残る。

868～876は磨製石斧で、いずれも始刃となる。876は頁岩、他は砂岩製である。877～881は石錘である。扁平な砂岩の長軸両端を打ち欠いている。882・883は砂岩製の磨石。

第23表 出土土器観察表 (II)

番号	種別	部 位	出 土 地 点	法 量 (cm)			手法・裏形・文様ほか		内 面	外 面	色	測 定 面	古 土 の 特 徴	備 考
				上	中	下	横	縦						
864	縄文	頭部 脇部	S1-28				貝殻微縫による横 剥離	ナデ	暗灰質	1mm以下の灰白、淡黃色、透明、 晶光光沢	円筒形			
865	縄文	頭部 脇部	S1-29				貝殻微縫による横 剥離	ナデ	灰褐色	1mm以下の灰白、淡黃色、透明、 晶光光沢	円筒形			
866	縄文	頭部 脇部	11-36V				貝殻剥離による横 剥離	ナデ	灰褐色	1mm以下の灰白、淡黃色、透明、 晶光光沢	円筒形			
867	縄文	山根 頭部	35-18V				貝殻剥離による横 剥離	ナデ	灰褐色	1mm以下の乳白、黃色の粒	円筒形			
868	縄文	深井 口縁	—				貝殻剥離による横 剥離	ナデ	灰褐色	1.5mm以下の乳白、乳白色、透明、 晶光光沢	円筒形			
869	縄文	深井 頭部	33-19V				貝殻剥離による横 剥離	ナデ	褐色	1mm以下の乳白、黃色、透明、 晶光光沢	円筒形			
870	縄文	深井 頭部	34-18V				貝殻剥離による横 剥離	ナデ	褐色	2mm以下の乳白、黃色、透明光沢	円筒形			
871	縄文	深井 頭部	11-36V				貝殻剥離による横 剥離	ナデ	褐色	3mm以下の乳白、黑色光沢	円筒形			
872	縄文	深井 頭部	25-38V				沈縄文	ナデ	褐色	3mm以下の乳白、黑色光沢	円筒形			
873	縄文	深井 頭部	31-20V				沈縄文、剥離	ナデ	褐色	3mm以下の黄褐色、赤褐色、乳白、 黑色の粒	円筒形			
874	縄文	深井 頭部	—				沈縄文、剥離	ナデ	褐色	3mm以下の黒、赤褐色、灰白色の粒	円筒形			
875	縄文	深井 頭部	30-29V				沈縄文、剥離	ナデ	褐色	1mm以下の乳白、黑、灰色、 透明光沢	円筒形			
876	縄文	深井 頭部	32-15V				沈縄文、剥離	ナデ	褐色	1mm以下の乳白、褐色、黑色光沢	円筒形			

第24表 出土石器計測表 (6)

遺物番号	器種	出土地點	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
866	スクレイバー	SI-31	5.00	8.10	19.0	80.6	頁岩	
867	棒状削片	SI-31	9.40	8.60	2.35	152.8	頁岩	
868	石斧	SI-31	10.35	5.25	2.80	195.0	砂岩	
869	石斧	SI-31	9.90	4.95	1.70	118.5	砂岩	
870	石斧	SI-31	(9.30)	(4.90)	(2.80)	(118.0)	砂岩	
871	石斧	SI-31	(8.70)	(4.70)	(2.80)	(149.3)	砂岩	
872	石斧	SI-31	(7.05)	(4.75)	(3.70)	(152.0)	砂岩	
873	石斧	SI-31	(9.65)	(5.90)	(2.55)	(232.3)	砂岩	
874	石斧	SI-31	(7.45)	(5.00)	(2.20)	(139.4)	砂岩	
875	石斧	SI-31	(9.00)	(6.70)	(3.60)	(331.3)	砂岩	
876	石斧	SI-31	(6.20)	(5.80)	(2.70)	(127.8)	頁岩	
877	石鍬	SI-31	(8.00)	(6.20)	(2.70)	(174.6)	砂岩	
878	石鍬	SI-31	6.80	5.40	10.10	69.2	砂岩	
879	礫石	SI-31	8.40	8.30	3.80	380.0	砂岩	
880	石鍬	SI-31	(4.10)	(4.25)	(1.35)	(36.1)	砂岩	
881	石鍬	SI-31	(5.05)	(4.25)	(1.07)	(59.9)	砂岩	
882	磨石	SI-31	(6.40)	(4.90)	(4.40)	(186.8)	砂岩	
883	磨石	SI-31	(6.55)	(4.55)	(3.15)	(139.0)	砂岩	
884	ナイフ	32-18IV	9.34	3.48	1.10	24.6	頁岩	
887	薄片尖頭器	30-14IV	6.50	3.00	1.00	13.0	流紋岩	
888	ナイフ	24-33IV	4.03	1.75	0.80	4.5	頁岩	
889	剥片	32-20IV	2.65	1.05	0.40	0.9	チャート	
900	剥片	32-20IV	3.00	1.50	0.50	1.6	風蝕石	
901	剥片	32-15IV	4.20	1.00	0.40	1.6	流紋岩	
902	剥片	32-15IV	3.70	1.65	0.35	2.4	流紋岩	
903	石鍬	34-18IV	3.15	2.80	0.50	3.3	砂岩	
904	石鍬	50-21IV	2.10	1.90	0.20	0.9	頁岩	
905	石鍬	32-15IV	1.60	1.70	0.10	0.8	チャート	
906	石鍬	31-21IV	2.85	1.35	0.35	0.9	頁岩	
907	石鍬	31-22IV	1.60	1.30	0.35	0.6	風蝕石	
908	石鍬	37-15IV	1.50	1.00	0.35	0.4	風蝕石	
909	石鍬	36-14V	1.40	1.00	0.25	0.4	風蝕石	
910	石鍬	37-15IV	1.80	1.20	0.20	0.4	風蝕石	
911	石鍬	37-15IV	1.15	0.85	0.25	0.2	風蝕石	
912	石鍬	32-18IV	2.50	1.80	0.35	1.0	風蝕石	

遺物番号	器種	出土地點	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
913	石鍬	24-33IV	1.80	1.85	0.30	0.7	シルト岩	
914	石鍬	32-15IV	1.50	1.55	0.30	0.6	頁岩	
915	石鍬	25-31IV	2.40	1.40	0.30	0.7	チャート	
916	石鍬	37-16IV	1.65	1.00	0.15	0.3	黒耀石	
917	石鍬	37-15IV	1.60	1.00	0.30	0.3	黒耀石	
918	石鍬	35-17IV	(1.10)	1.80	0.25	0.4	黒耀石	
919	石鍬	36-14IV	1.40	1.25	0.40	0.5	風蝕岩	
920	石鍬	32-15IV	2.55	2.00	0.60	2.5	流紋岩	
921	石鍬	34-18IV	2.10	1.80	0.55	2.1	チャート	
922	石鍬	32-18IV	3.60	2.20	0.65	4.7	頁岩	
923	石鍬	33-16IV	(2.30)	1.75	0.70	2.2	チャート	
924	石鍬	13-37IV	2.20	1.70	0.70	2.2	チャート	
925	尖端石器	32-18IV	3.05	2.02	0.85	5.4	チャート	
926	スクレイバー	31-15IV	4.14	5.78	1.10	29.2	流紋岩	
927	スクレイバー	27-33IV	4.10	3.65	0.55	11.1	頁岩	
928	スクレイバー	32-18IV	3.30	2.20	1.10	6.2	チャート	
929	スクレイバー	24-33IV	2.90	2.05	0.60	3.0	頁岩	
930	側尾直面片	32-18IV	3.20	1.80	0.45	2.5	流紋岩	
931	側面直面片	37-15IV	5.90	6.75	0.70	21.1	頁岩	
932	使用痕跡片	32-15IV	4.00	2.38	0.73	8.9	チャート	
933	使用痕跡片	30-21IV	6.70	2.70	0.85	18.0	砂岩	
934	石斧	50-23IV	6.85	3.05	1.15	31.7	砂岩	
935	石斧	50-23IV	10.70	4.35	1.40	97.8	珪質頁岩	
936	石斧	50-23IV	10.48	4.90	1.50	118.1	珪質頁岩	
937	石斧	48-32IV	11.68	5.40	2.10	214.1	砂岩	
938	石斧	23-35IV	(8.23)	(3.08)	(2.20)	126.8	砂岩	
939	石鍬	34-18IV	7.75	5.25	3.00	166.9	砂岩	
940	磨石	50-23IV	11.10	9.20	5.30	819.2	尾崎黒性岩	
941	磨石	33-15IV	11.30	11.00	5.40	1020.0	尾崎黒性岩	
942	磨石	11-36IV	10.70	8.60	3.60	505.8	砂岩	
943	磨石	11-36IV	(8.23)	(5.70)	(3.85)	(228.0)	砂岩	
944	敲石	30-13IV	13.40	5.60	3.10	210.5	砂岩	
945	凹石	30-13IV	13.00	7.40	2.85	361.2	砂岩	
946	円石	30-13IV	12.00	6.00	3.10	338.7	砂岩	

### 第3節 まとめ

今回の調査で得られた資料は膨大な量に上り、その中には当地域の歴史を解明する上で重要な位置を占めるであろうものも多数含まれている。特に圧巻なのは、調査地中心部における近世の遺構密度の高さで、その状況は別図に示している通りである。この別図には縄文時代中期末以降の堅穴など、近世以前の遺構も混在させている。煩雑で、検索には不便であるため、時代毎に分けて掲載することも考えたが、台地上における重層的な土地利用の歴史を伝えるため、そして、近世以前の遺構がそのように影響を受けており、分布について論ずるには限界があることを認識してもらうため、等の理由により、同一図面に収めることとした。また掲載順を新しい時代から古い時代へ、としているのも、まず近世の状況を示さないと、縄文時代の文化層の状況をイメージするのが難しいと考えたからである。

以下、紙数も限られているため、良好な一括資料を中心に概観していく。

近世については、肥前系磁器の年代観よりおおよそ18世紀中頃を中心とする年代が与えられ、特に41号土壤墓出土遺物が良好な一括資料と位置づけられる。ただし、遺物の中には中世末に遡るものもあり、想像をたくましくすれば、それが掘立柱建物の営まれた時期にあたり、その廃絶後に墓地が営まれるようになつた、とすることはできるのではなかろうか。

なお、墓壙の形態について、84号土壤墓→85号土壤墓など、いくつかの切り合いの事例から、方形→円形という形態変化が押さえられるようである。

縄文時代中期末以降については、21号堅穴出土土器や、1号堅穴に切られる5号土坑の出土土器が最も遡る段階の資料と考えられる。最盛期は、平行沈線文による区画を形成するもの（指宿式を含む）や市来式の段階であろう。前者の中では、57号土坑出土土器が注目される。在地系土器の完形品に混じて、外來系土器（南四国の松ノ木式か・676）が出土しており、並行関係を知るための好資料と評価できよう。

また、市来式、丸尾式以後の土器群としては、40号堅穴出土遺物が重要である。納曾式、いわゆる納屋向タイプ、辛川II式に属する個体や、無文であるが、磨消縄文系土器の器形を模倣したと見られるものなどが認められる。出土土器はいずれもある程度まとまった破片や完形品で、一つの様式（弥生土器編年での様式）の実在を示すセット関係と捉えてよいと考えられる。

本遺跡では堅穴が計47基検出されたが、柱穴の不明瞭なものが多く、構造の立ち入った論議は不可能である。平面形態に関して、1号堅穴、21号堅穴、34号堅穴のような方形基調のもの（21号堅穴はやや疑わしいが）が相対的に古いという傾向が感じ取られるのみである。

縄文時代早期については集石遺構が45基、礫群が1箇所検出された。これは面積に比して多いものではなく、遺物も比較的少ないと言える。先に触れた近世の擾乱という要因を加味しても、評価は大きく変わらないであろう。すなわちさほど大きな集団の存在は感じ取られないということである。

#### <参考文献>

三輪晃三 1996 「九州阿高式系・縄帶文系土器群の研究」『奈良大学大学院研究年報』1

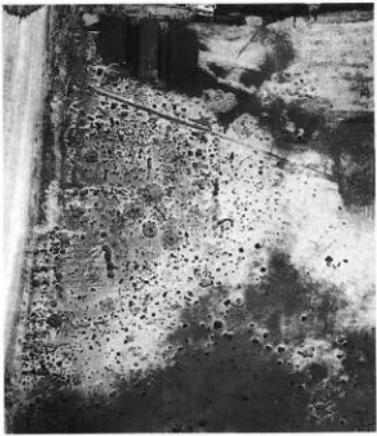
その他、149Pに掲げた文献も、縄文時代後期土器を理解する上で参考にしている。ただし、咀嚼しているとは言い難く、また紙数の制約もあるため、後日あらためて検討してみたい。



上の原第2遺跡全景



遺構群　— 中軸線以西 —



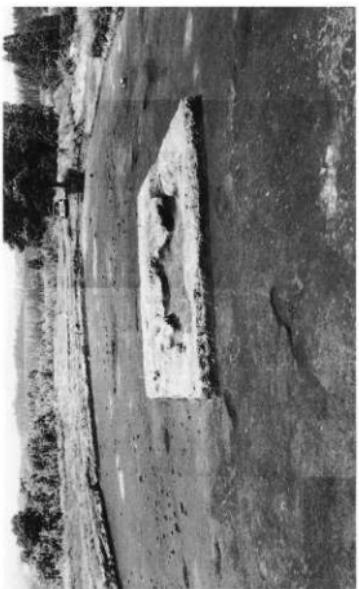
— 中軸線以東 —



遺構群 一 中軸線以西・北側 一



遺構群 一 中軸線以西・南側 一



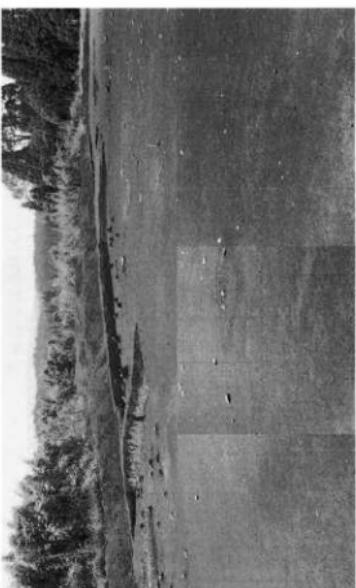
1号豊穴付近



調査区南西端付近



調査前の状況



4号集落付近



1号土壤墓（半裁）



41号土壤墓



2号柱立柱建物付近



9～13号土壤墓



94号土壤窪



5号溝 (右側天)



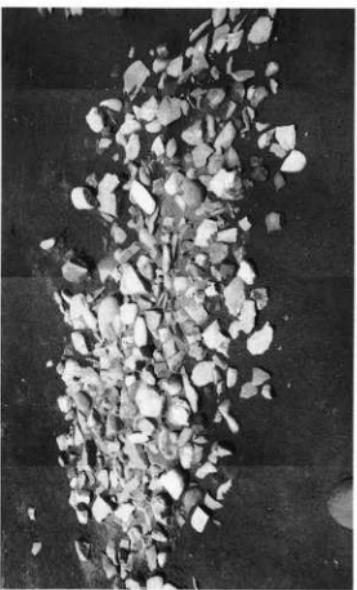
87号土壤窪



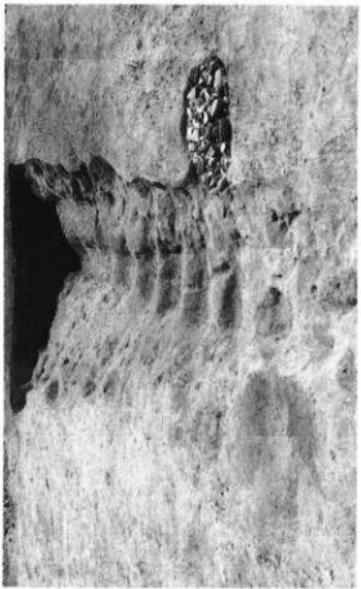
95~113号土壤窪



1号集礫



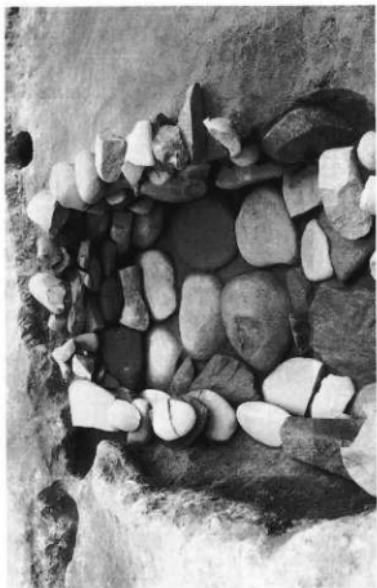
4号集礫



4号溝・6号集礫



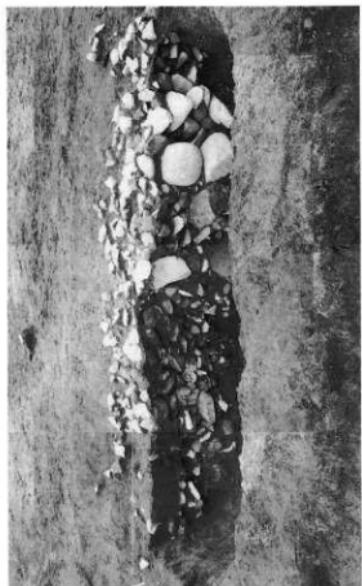
1号集礫 石塔の状況



8号集砾



2号竖穴



4号集砾断面



1号竖穴